独立行政法人福祉医療機構長寿社会福祉基金（一般分）報告書

介護家族への教育支援プログラムの開発事業

平成２０年３月

社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター

介護家族への教育支援プログラム普及推進委員名簿

大久保幸積　社会福祉法人幸清会　特別養護老人ホーム幸豊ハイツ　※普及推進副委員長
守屋　秀一　社会福祉法人幸清会　特別養護老人ホーム幸豊ハイツ
小野寺義彦　社会福祉法人東北福祉会　特別養護老人ホームせんだんの里
千脇　隆志　社会福祉法人東北福祉会　特別養護老人ホームせんだんの里
土田　良平　社会福祉法人正吉福祉会　府中市立特別養護老人ホーム府中よつや苑
城地まさみ　社会福祉法人正吉福祉会　府中市立特別養護老人ホーム府中よつや苑
杉村　和子　社会福祉法人聖徳会　高齢者総合ケアセンターまつばら
三木　一雄　社会福祉法人聖徳会　地域支援事業部
山田　裕子　医療法人社団常仁会　福山市地域包括支援センター水呑
草壁　利江　医療法人社団常仁会　介護老人保健施設サンスクエア沼南
一原　　浩　社会福祉法人同心会　高齢者総合福祉施設緑の園
太田　秀男　社会福祉法人同心会　高齢者総合福祉施設緑の園
西元　幸雄　社会福祉法人青山里会
安部　博　財団法人さわやか福祉財団
中村　考一　認知症介護研究・研修東京センター
藤井　滋樹　認知症介護研究・研修大府センター
長嶋　紀一　日本大学文理学部心理学科　※テキスト編集委員長
加藤　伸司　認知症介護研究・研修仙台センター　※普及推進委員長
浅野　弘毅　認知症介護研究・研修仙台センター
阿部　哲也　認知症介護研究・研修仙台センター
矢吹　知之　認知症介護研究・研修仙台センター　※報告書作成担当
吉川　悠貴　認知症介護研究・研修仙台センター

事務局

工藤靖子　似内裕子　板澤寛　千田恵美　菅原聡子

目　次

あいさつ

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第１章　事業の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第２章　普及研修会の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・9

第３章　普及事業の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

第４章　教育支援プログラムの地域での評価と実施・・・３３

第５章　教育支援プログラムの効果測定・・・・・・・・・４７

第６章　本事業の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１

謝辞

資料
資料１．効果測定事前調査票（介護家族）
資料２．効果測定事前調査票（施設職員）
資料３．効果測定事後調査票（介護家族）
資料４．効果測定事後調査票（施設職員）
資料５．講座参加者評価票
資料６．事業評価調査票
資料７．普及推進委員会議事録（１～４回）
資料８．普及用講座実施支援ホームページ
資料９．今年度講座実施施設・事業所一覧
資料１０．来年度講座実施予定施設・事業所一覧
資料１１．普及研修会事例報告資料１～１３

あいさつ

認知症介護研究・研修仙台センターでは、独立行政法人福祉医療機構の「長寿社会福祉基金（一般分）」の助成を受けて、２００５年度より「介護家族への教育支援プログラムの開発事業」を展開してきました。

この事業は、全国の多くの施設、事業所で働く施設職員の皆様やサービスを利用するご家族の皆様のご支援やご協力を得ながら展開しております。

２００５年度は、全国６事業所でモデル事業を実施し、家族を支援する教育支援プログラムの内容やテキストのあり方を検討しました。

２００６年度は、４７都道府県全てを網羅し全国５７事業所でモデル事業を開催し、延べ６，０００名以上の家族、施設職員の皆様の参加によって、その効果と有効性を見出すことができました。

そして最終年度となった今年度は、過去２年間の蓄積をもとにして、さらに広く普及することを目的に、全国１２カ所、１３回の普及研修会を実施し８００名を越えるさんにご参加頂きました。そして、２０７カ所で実施して頂き８０，０００名以上のご家族、施設職員のみならず、多くの地域住民の方もご参加頂きました。

この事業の中で私たちが考えていたことは、誰もが先生で、それを認め相互に学び会うことによって介護の質が向上するのではないだろうかということです。

事業をすすめるにあたり、独立行政法人福祉医療機構をはじめとして、多くの事業所、関係機関及び多忙な業務にも関わらずモデル事業の運営をしていただいた施設職員の皆様とご参加頂いた家族の皆様に対しまして、あらためて、心から感謝申しあげます。

この報告書は、その３年間の総括をなすものです。また、本報告書とあわせて教育支援プログラム実施テキストを作成致しましたので末永くご活用頂き、この相互参加型介護講座を皆様なりに育てて頂ければ幸いです。

今後も、当センターの研究・研修事業につきまして皆様のなお一層のご理解、ご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申しあげます。

認知症介護研究・研修仙台センター
センター長　加　藤　伸　司

はじめに

「認知症高齢者が、住み慣れた環境のなかで尊厳をもって暮らす」

高齢者介護研究会の報告書「２０１５年の高齢者介護」をはじめ、「地域」と「認知症」をキーワードとした文言を様々な場面で目にし、耳にする機会が多くなった。

要介護状態になった高齢者が、住みなれた環境の中で、最後まで尊厳を保持してその人らしく生活を営むことを可能としていくためには、在宅向けの介護サービスの充実を図ることに加えて、在宅で介護を担う家族に対して専門的知識・技術の提供等を支援し、介護力を高めていくこと、またその結果として在宅介護を支援するためのサービスを効果的・効率的に利用できる体制を整備することが重要である。

在宅サービスの質の向上のためには、在宅介護者と最も接点の多いサービス提供側の職員の質向上と、各々が所属する施設や事業所の家族支援体制やそのための人材育成を行わなければならない。

これらの課題に取り組むために、本事業では、介護家族とサービス提供事業所の介護職員が同じ場を共有し、介護という共通のテーマでディスカッションするに参加する相互参加型介護講座を介護家族への教育支援プログラムとして開発し、より効果的な方法で普及することを目指した。

この事業展開によって、サービス提供者とサービスを受ける者が、共通の視点を持つことができるようになり、より介護家族のニーズに近い形の知識・技術の提供を支援することができるようになることを期待している。また、成果物となる「交流講座実施テキスト」は、「だれもが講座の講師になれる、だれもがファシリテーターになれる、だれもが企画運営できる」ことを目指して作成した。これらを活用し、全国の在宅サービス関連事業所等が普及し活用されることによって、認知症高齢者を在宅で介護する家族への支援の充実が図られることを目指して行われた事業である。

なお、今年度の事業は、２００５年～２００７年までの３年計画で実施された最終年度である。

第１章　事業の概要

１．事業の目的

要介護認定者のほぼ半数に認知症の影響が認められ、在宅要介護認定者 210 万人のうち 73 万人に認知症の影響が認められている現状において、その介護家族をいかに支えていくかは大きな課題である。在宅の介護家族を支えていくためには、介護負担の軽減だけではなく、介護に対する専門的知識・技術の提供等を支援し、家族の介護力を高めていくこと、また在宅介護を支援するためのサービスを効果的に利用できることも重要である。

本事業は、認知症高齢者を在宅で介護する家族に対する専門的知識・技術の向上をはかるために、在宅の介護家族とサービス提供事業所の介護職員による相互参加型の介護講座を開催し、その結果をもとに、より効果的な介護者の教育支援プログラムを作成し、広く全国に普及させていくことが目的である。

２．これまでの成果

１）２００５年度事業の概要

２００５年度は、本事業を実施、展開するにあたり介護家族への教育支援プログラムの開発の年度と位置付けた。その開発にあたり、全国でも先駆的に高齢者介護ならびに家族への支援を行っている老人福祉施設および老人保健施設計６事業所の施設長、主任クラス各１名と高齢者介護の研究者１名、認知症介護研究・研修仙台センター研究・研修部スタッフ５名、計１８名からなる検討委員会を設置し方向性の検討を行った。検討委員会は、５回開催し、１回～３回は介護講座の内容とその構成について検討し４，５回目にその成果をもとにしたマニュアル作成について検討が行われた。

教育支援プログラム試案作成にあたっては、検討委員の所属する、全国６施設に実施を依頼し、参加者の評価と、家族の介護負担感、施設職員のストレッサー評価、自律性尺度得点から有用性ならびに有効性の検証を行った。結果、教育支援プログラム試案は、６施設で計３６タイトルを実施し、各回の参加者評価をもとに、検討委員会において実施マニュアル、テキスト全１０巻を作成した。なお、テキストには講義風景をビデオ録画したＤＶＤを添付し、他の事業所や施設で実施する際の参考になるように配慮した。

効果測定については、介護家族の介護負担感、自律性得点の教育支援プログラム参加前後の比較では有意な差はみられなかったが、参加回数が２回以上参加者と１回参加者の自律性得点の比較では、２回以上参加者の方が有意に向上することが明らかになった

ことから、継続参加による自律性向上の効果が認められた。施設職員のストレッサー得点は、事前事後による有意な差は認められなかったが、２回以上参加者は１回参加者よりも有意にストレッサーが低下していることが明らかになった。また、施設職員の自律性得点は、事前事後、参加回数による有意な差は認められなかったが、対照群との比較によって有意な差が認められたことから、参加することによって介護に対して自身で解決し判断していく能力である介護の自律性が向上することが明らかになった。また、実施した施設の参加者である家族や施設職員からは多くの肯定的な意見や、地域への波及効果が認められた。このことから、次年度以降は、２００５年度試案教育支援プログラムをもとにより多くの施設で、実施し、その妥当性を検証する方針を見いだした。

２）２００６年度事業の概要

２００６年度は、認知症高齢者を在宅で介護する家族に対する専門的知識・技術の向上ならびに介護負担の軽減をはかるために、前年度作成した「介護家族のための教育支援プログラム試案」を在宅の介護家族とサービス提供事業所の介護職員相互参加型の介護講座（通称：ケアケア交流講座）として開催し、多くの事業所でモデル事業を開催しその有効性、ならびに有用性を検証することを目的としておこなった。

事業実施については、前年度同様、老人福祉施設および老人保健施設計６事業所の施設長、主任クラス各１名と高齢者介護の研究者１名、認知症介護研究・研修仙台センター研究・研修部スタッフ５名、計１８名で構成された介護者教育支援プログラム検討委員会を設置した。検討内容は、プログラムおよびテキストの普及に向け、その有用性と有効性の検証を行うために、全国５６カ所の施設・事業所にモデル事業の選定と支援についてであった。

モデル事業を実施した５６施設・事業所にたいしては説明会を実施し、昨年作成したテキストを配布、活用方法について説明し評価を依頼した。

本事業における評価の視点は、テキストの実用性の検証と、プログラムの実施プロセス評価、そして効果測定であった。実施・運営テキストの実用性は、全国５６事業所に実際に教育支援プログラムとなる、家族と施設職員の相互参加型交流講座を年間３回以上テキストを使用した講座の実施を依頼し、実用性の評価を得た。教育支援プログラムのプロセス評価は、全ての講座について、参加者による評価と参加者数を評価とした。本プログラムの効果測定については、介護負担感、介護肯定感、認知症介護の自律性の参加前後による変容を比較した。

その結果、有用性の評価については、講座参加者によるプログラムの評価について各項目について４段階で評価を求め、いずれの項目も、９割以上が高い評価を得た。最も評価が高かったのは、活用度であった。効果測定については、介護家族の、介護負担感J-ZBI8の下位尺度「Role strain」は、参加によって軽減することが明らかになった。また、その効果は複数回参加によって現れることが明らかになった。介護肯定評価につい

ては、事前事後ならびに複数回参加によって有意に向上することが明らかになった。認知症介護の自律性尺度得点は、下位尺度「実践対応能力」では複数回参加による有意な変化が認められた。施設職員では、認知症介護の自律性尺度得点は、事前事後、２回以上の参加によって総得点、３下位尺度すべてが有意に向上した。日本語版ＭＢＩは、事前事後と参加において有意に向上した。

実施した５６施設・事業所で開催された講座の回数は、計２４４回、参加者は延べで、家族の参加者３，１８８名、施設職員が２，８８５名、企画運営スタッフが１，３９９名であった。また、開催された講座の講師の８割以上が施設職員で特にリーダー、主任クラスが担当していた。このことからも本事業で開発したプログラムならびにテキストの有用性が高いことが確認された。

３）２００７年度の概要

２００７年度は、前年度の有用性および有効性の検証によって一定の評価が得られたことから、教育支援プログラムを広く全国に普及することを目的とした。また、本事業は３年間の継続事業として実施しているが、その間に改正介護保険法が施行され、地域包括支援センターが設置されたことによって、地域で支える認知症介護の方向性がより明確化された。このような背景から、本事業に対し多くの地域包括支援センターを有する事業所からの実施の要望があり、地域でのこのようなプログラムの重要性や必要性が高まっている。今年度、本事業を実施し最終的には、より活用しやすい普及版のプログラムを作成し、地域の拠点となる地域包括支援センターを対象に普及・振興することによって、介護家族とその地域、そして施設一体となった介護への取組が可能となる。そして、地域支援事業における任意事業の課題でもあった「介護者の支援」事業展開の支援にも繋がるものと考えている。

より効果的な普及事業を推進するにあたり、普及検討委員会を設置した。委員構成は、初年度の開発より携わっている全国の６施設・事業所に、地域福祉推進を行っている財団法人スタッフ、地域包括支援センター連絡協議会役員、認知症介護研究・研修東京センター、大府センターのスタッフを委員に加えた。

普及事業では、認知症介護研究・研修仙台センター内に「普及推進室」を設置し、普及のためのＷＥＢサイト「ケアケア．ＣＯＭ」（http://www.dcnet.gr.jp/kaigokouza/）を開設し事業内容ならびに講座実施の際各事業所で必要なポスターならびに講義資料のダウンロードが可能な環境を整えた（資料１１）。

普及を目的にした、研修会は「地域と施設を結ぶ相互参加型交流講座」を全国１２地域１３回実施し、計８０２名、５６２カ所の施設・事業所の施設職員が参加した。研修会参加者が実際に教育支援プログラムを地域で実施した施設・事業所は１９３カ所で、来年度以降実施予定の施設・事業所は１９７カ所であった。このことから教育支援プログラムの普及事業として一定の成果をあげたといえる。

一方、各地域で実施された講座の際に配布した、参加者の評価については、講座開催時に毎回４段階での評価を求めており９割以上の家族および職員が肯定的な評価をしている。効果測定については、家族については、介護負担感、介護への肯定的評価尺度、介護の自律性、職員および家族とのコミュニケーション頻度を測定し、施設職員には、自己効力感、介護の自律性、仕事への主観的負担感、家族とのコミュニケーション頻度の各質問項目を講座参加の事前、事後での変容を比較し効果を検証した。さらに、施設職員については対照群を講座非参加者として設定し、同様の質問への回答を依頼した。

これらの評価をもとに、今後さらに多くの地域で介護家族の支援ならびに、施設職員の介護の質向上を図ることを目的に、普及版の教育支援プログラム実施テキストを作成し配布を行った。

３．期待される効果

これまで、介護教室はさまざまな事業所等で行われてきたが、その方法論は確立されていなかった。またこれらの事業所は、サービス事業者等が一方的に行うものが多く、その成果が実際の在宅介護の場面にどの程度役立ち、介護家族の負担がどのように軽減されてきたかは明らかにされてこなかった。

本事業では、介護家族とサービス提供事業所の介護職員が一緒になって介護教室に参加する相互参加型の教育支援プログラム試案を作成し実施する。そのことにより、サービス提供者とサービスを受ける者が、共通の視点を持つことができるようになり、より介護家族のニーズに近い形の知識・技術の提供を支援することができるようになる。こうした効果については、過去２年間の事業実施時に効果測定をおこなった際に明らかになっており、特に家族と施設職員のコミュニケーション頻度や関係性が深まることが明らかになった。また、教育支援プログラムに基づく相互参加型介護講座を実施することにより、介護保険改正で新たに創設された地域密着型サービスや地域包括支援センターでは、「地域ケア」への取り組みのきっかけになっているという報告も多く聞かれている。

以上のような成果から、今年度作成した、簡便に実施できるようにパッケージ化された普及版教育支援プログラム実施テキストを用いて、これに基づく相互参加型介護教室のプログラムを、より多くの地域で展開し実施を推進することによって、認知症高齢者を在宅で介護する家族への支援の充実ならびに地域全体で家族や認知症高齢者が安心して暮らせ、そして介護するための支援の充実がはかられる。

４．事業全体の流れ

１）普及推進委員会の設置

介護者教育支援プログラムを地域における普及推進を目的とした推進委員会を設置

した。委員は、１８年度モデル事業のブロック拠点推進施設６事業所から実施担当者２名、認知症介護に関する学識者１名、全国地域包括支援センター協議会から２名、認知症介護研究・研修センター（東京・大府）から各１名、認知症介護研究・研修仙台センターから６名により構成し年回４回開催した。

２）実施テキストの作成

２００５年度・２００６年度に作成した教育支援プログラム試案の評価ならびに、効果測定の結果をもとに、内容の充実を図り、実用性が高く、活用度の高い実施テキストを作成することを目的とした。内容の検討は、普及推進委員会でおこなった。
昨年度作成したテキストからの変更点は、５部構成であったものを１冊にまとめ、講座の内容の検討をおこない内容を再編成した。内容は２部構成で、「教育支援プログラムの進め方」と「交流講座の講義とグループワーク２４」で、　　総頁数は２７８頁であった。配布は、普及研修会に参加し、その後計画書を提　　出した施設・事業所に配布した。

３）教育支援プログラム普及推進室の設置

介護者教育支援プログラムに基づく相互参加型介護講座をで円滑に運営を行うことを目的として認知症介護研究・研修仙台センター研究事業室内に設置した。

また、講座実施に必要な資料のダウンロード、研修会の普及を目的とした普及用ホームページの管理運営もおこなった。

４）普及研修会の実施

教育支援プログラムの効果的な地域展開へ向けて、実施担当者ならびに運営スタッフを対象にしたプログラムに基づく相互参加型介護講座の実施に必要な技法や能力に関する研修を実施した。実施会場は全国１２都道府県で１３回実施した。

５）普及版テキストの作成

すでに作成し各地域に配布した実施テキストの中から、特にニーズの高かった講座や内容について改訂が必要な箇所を修正、教育支援プログラムの中心的課題であるグループワーク部分について追加、昨年実施した事業所から、今後参考となりうる事業所６事業所の実施事例を追加した。さらに利用しやすくするためにサイズをコンパクトにした普及版テキストを作成した。

６）今年度の参加者数と実施施設・事業所数

本事業の展開に関係した施設・事業所数ならびに参加者数などを以下にまとめた。

① 普及研修会参加施設・事業所、参加者数

参加事業所	参加者数
５６２施設・事業所	８０２名

②相互参加型介護講座実施および実施予定施設・事業所数（平成２０年２月２９日現在）

今年度実施事業所数	来年度実施予定事業所
１９３施設・事業所	１９６施設・事業所

③相互参加型介護講座効果測定協力者数

介護家族	施設職員	地域住民	その他
１，０６４名	１，０３９名	５３５名	２６９名

④講座評価協力者数

介護家族	施設職員
１，５５９名	２，９３２名

⑤相互参加型介護講座延べ参加者数と講座回数（平成２０年２月２９日時点）

延べ講座回数	介護家族	施設職員	地域住民	企画者
３６６回	２，１５１名	２，３６６名	１，８６７名	８６７名

第2章　普及研修会の実施

１．普及研修会の概要

１）目的

教育支援プログラムの効果的な地域展開へ向けて、実施担当者ならびに運営スタッフを対象にしたプログラム実施に必要な技法や能力に関する研修を実施した。

２）開催地域および対象地区

全国１２ヶ所、１３回（北海道札幌市２回、岩手県盛岡市、宮城県仙台市、石川県金沢市、東京都杉並区、愛知県四日市市、大阪府大阪市、広島県広島市、島根県松江市、香川県丸亀市、福岡県福岡市、大分県大分市）で実施した。
参加対象地域は、全国に広報し申し込みのあった参加希望事業所については地域を選択し参加できるようにした。

３）研修会の内容

作成したテキストを基に講座のモデル講義、ファシリテートの技法、グループワークの方法等の演習を各会場で実施する。講師は認知症介護研究・研修仙台センタースタッフ２名、大府または東京センター１名、地域推進施設２名で運営を行った。

４）普及研修会参加対象者

以下の条件の全てを満たす者（事業所）を対象とした。

①特別養護老人ホーム、老人保健施設、地域包括支援センター、デイサービス、デイケア等に勤務する研修担当者またはそれに準ずる者
②テキストを使用した相互参加型講座（研修会）を年２回以上実施可能な事業所
③事業評価アンケートにご協力いただける事業所の者

５）募集方法

全国の各対象事業所に研修会参加申し込み用紙を送付した。会場ごとに締切を設け、参加希望事業所には FAX にて返信を受け付けた。参加申し込みのあった事業所には FAX にて参加案内を送付した。

2. 普及研修会の成果

1) 参加施設・事業所数

普及研修会への参加事業所及び参加者数は以下の通りである。

会場名	参加事業所数	参加者数
北海道会場	45事業所	60名
盛岡会場	30事業所	45名
宮城会場	55事業所	80名
東京会場	99事業所	136名
石川会場	20事業所	25名
三重会場	32事業所	63名
大阪会場	65事業所	92名
島根会場	19事業所	28名
広島会場	46事業所	63名
香川会場	41事業所	65名
福岡会場	89事業所	112名
大分会場	21事業所	33名
計	５６２事業所	８０２名

2）各会場の県別内訳

各会場の県別の参加者を以下にまとめた。

北海道	北海道	45事業所
盛岡会場	青森	8事業所
	秋田	4事業所
	岩手	9事業所
	山形	2事業所
	宮城	5事業所
	福島	1事業所
	静岡	1事業所
宮城会場	青森	2事業所
	山形	7事業所
	宮城	19事業所
	福島	17事業所
	東京	3事業所
	千葉	2事業所
	栃木	2事業所
	群馬	1事業所
	新潟	1事業所
	長野	1事業所
東京会場	東京	25事業所
	神奈川	19事業所
	埼玉	13事業所
	千葉	8事業所
	茨城	5事業所
	栃木	5事業所
	群馬	1事業所
	山梨	2事業所
	新潟	4事業所
	長野	6事業所
	愛知	1事業所
	静岡	10事業所
石川会場	新潟	1事業所
	長野	1事業所
	富山	7事業所
	石川	6事業所
	福井	4事業所
	京都	1事業所
三重	愛知	21事業所
	三重	11事業所
大分	兵庫	2事業所
	福岡	1事業所
	熊本	1事業所
	大分	10事業所
	宮崎	6事業所

大阪会場	東京	1事業所
	千葉	2事業所
	岐阜	1事業所
	大阪	23事業所
	兵庫	14事業所
	京都	12事業所
	滋賀	1事業所
	奈良	7事業所
	和歌山	1事業所
	岡山	1事業所
	島根	1事業所
	高知	1事業所
香川会場	大阪	2事業所
	兵庫	2事業所
	岡山	3事業所
	徳島	7事業所
	香川	22事業所
	愛媛	3事業所
	高知	6事業所
島根会場	鳥取	8事業所
	山口	1事業所
	島根	8事業所
	愛媛	1事業所
	不明	1事業所
広島会場	長野	1事業所
	愛知	1事業所
	大阪	1事業所
	兵庫	2事業所
	鳥取	1事業所
	岡山	2事業所
	広島	26事業所
	山口	7事業所
	愛媛	4事業所
	鹿児島	1事業所
福岡会場	福岡	55事業所
	佐賀	5事業所
	長崎	5事業所
	熊本	17事業所
	宮崎	1事業所
	鹿児島	1事業所

３．普及研修会のカリキュラムと内容

１）普及研修会のカリキュラムは以下とおりである。全体の時間は２時間であった。

科目	ねらい	内容	時間
教育支援プログラムの展開とテキストの活用方法	教育支援プログラムの内容を理解し、家族理解と認知症介護の質の向上との関係を理解する。相互参加型である意義をこれまでの経過や効果測定の結果から理解する。	・これまでの経緯 ・具体的な方法 ・効果測定と評価の方法	４０分
相互参加型交流講座の実際	昨年度実施施設からの報告工夫したことや困難だったことを参考に研修参加者の今年度の実践に生かす。	・実施した内容 ・実施体制の作り方 ・困難事例と工夫点ついて ・実施上のアドバイス ・質疑応答	１０分
休憩			１０分
相互参加型講座企画運営演習	事例を参考に企画を実際に行い、自事業所で実施できるようになる。 実際の演習を模擬体験し、改善策や様々なバリエーションを検討し実践のイメージを掴む。	・模擬演習体験 ・改善点や工夫した方が良い点、想定質問、についてディスカッションする ・家族約、ファシリテーター役などを模擬体験する	５０分
講義資料等のダウンロードについて	ＤＣＮＥＴからのダウンロードの方法と資料の取り扱い方法について理解する。		１０分

２）教育支援プログラムの展開とテキストの活用方法

この資料をもとに事業の概要説明をおこなった。時間は４０分であった。

独立行政法人　福祉医療機構助成事業
介護家族への教育支援プログラムの開発事業

地域と施設を結ぶ

相互参加型介護講座普及研修会

認知症介護研究・研修仙台センター
SENDAI Dementia Care Research and Training Center

研究事業

認知症介護の実践、認知症高齢者の生活の質向上に役立つ研究を実施

平成19年度
①高齢者虐待防止に関する研究（2年目）
②地域における介護予防の効果的介入に関する研究
③ケアリーダー育成に関する研究
④標準的ケアモデル構築に関する研究（2年目）
⑤介護家族の教育支援プログラムの開発（3年目）

本事業の概要

正式名称
「介護家族への教育支援プログラムの開発事業」

目的
認知症高齢者を在宅で介護する家族及び施設職員が、共通の視点で相互に情報交換し、共同学習によって専門的知識・技術の向上と介護負担の軽減をはかるために、相互参加型の介護講座を開催し、その結果をもとに介護者教育支援プログラムを作成し、広く全国に普及させていくことを目的とする。

プログラムとテキストを作成

16年度　せんだんの里でテスト
家族の声を重視ーケアケア大辞典

17年度　全国６事業所で実施
すべてを録画検証ーマニュアル作成
ファシリテーターの重要性を指摘
雰囲気作りが大切

18年度　全国５６事業所で実施
テキストの有用性確認
効果的な実施方法の検証
参加回数による効果の違い
様々な工夫やスタッフのやりがい

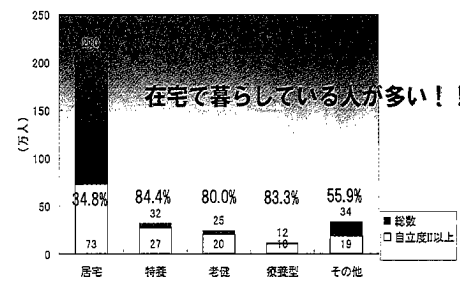
19年度　全国６００事業所で実施

認知症とは何か？

定義
「病気や怪我などで[redacted]の障害によって起こる持続的な[redacted]力や認識力の低下の状態であり、それが社会的あるいは日常的な[redacted]を行っていく上で、様々な障害をきたすものであって、一般的な症候である。」

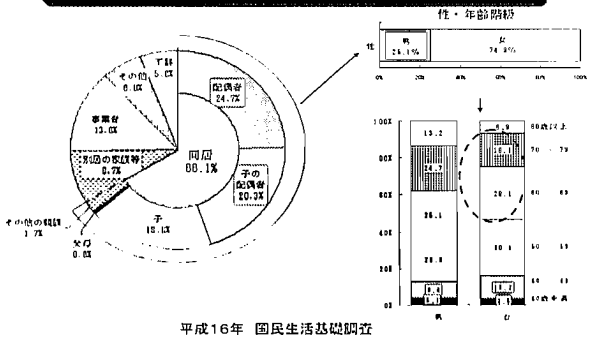
三好功峰「老年期の痴呆性疾患」医学書院

認知症高齢者の暮らしている場所は・・・



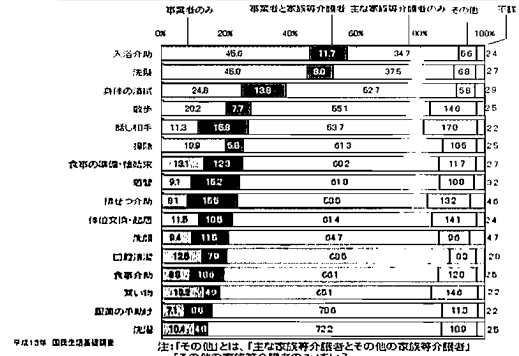
出典：高齢者介護研究会報告「2015年の高齢者介護」要介護（要支援）認定者（第1号被保険者）の痴呆性老人自立度・障害老人自立度に関する推計参照

誰が介護をしているか？



平成16年　国民生活基礎調査

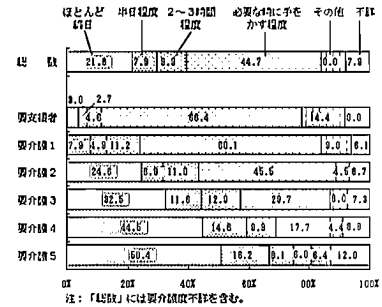
どのような介護をしてるのか？



平成13年　国民生活基礎調査

注：「その他」とは、「主な家族等介護者とその他の家族等介護者」「その他の家族等介護者のみ」をいう。

どのくらい介護をしてるのか？



注：「総数」には要介護度不詳を含む。

要介護者等の要介護度別にみた同居している主な介護者の介護時間別構成割合（H16国民生活基礎調査）

介護をする上でのストレスがある人は？

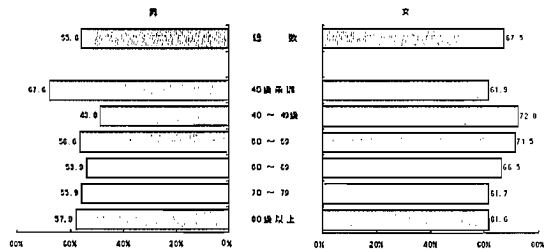


図　性・年齢階級別にみた同居している主な介護者の悩みやストレスのある者の割合

平成16年

ストレスの原因は？

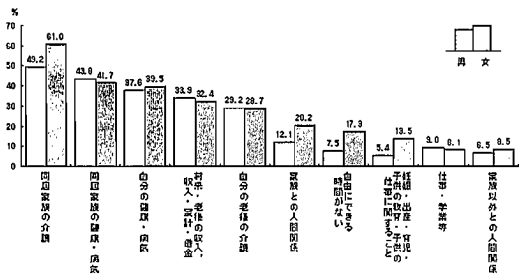


図25　性別にみた同居している主な介護者の悩みやストレスの原因の割合（複数回答）

1）認知症の人を介護する家族の心理

①病気への不安と将来の不安
　→認知症の知識を知る

②介護負担の要因
　→男性より女性、介護者の年齢、2人暮らし
　　健康状態、経済状態

③認知症介護特有の問題
　→認知機能障害、ねぎらいがない

2）家族を支援する際の心構え

介護の負担感を理解し、軽減する

頑張らない介護が理想的？？

①介護者が健康であること
→共倒れ

②手伝ってくれる人を探すこと（人を利用）
→親戚、ヘルパー、ご近所の底力

③相談する人や場所の確保
→家族関係、家族の会

④サービスを効果的に利用すること
→介護保険の利用

在宅サービスや高齢者施設に求められているケアのキーワード

利用者主体→パーソンセンタードケア
チームケア→専門職の連携
地域で支える介護→地域密着サービス
ケアの質向上→人材育成
第三者評価

これからの介護（認知症介護が標準モデル）

問題に対処するのがケア	認知症でも尊厳と自立を
問題は認知症のせい仕方がない	問題の多くはつくられた障害
本人はわからないから環境は最低でいい	環境の力で安心と力の発揮を
危険だから外に出さない	出来るだけ自然や地域とふれあいを
家族や一部スタッフだけが抱え込んでいる	地域の人や多様な専門職がチームで
サービスがバラバラ	サービスが1つにまとまりなじみの場所に行ける

新しい介護の方向性（センター方式「5つの視点」から）

1. その人らしいあり方
2. その人の安心・快
3. 暮らしの中での心身の力の発揮
4. その人にとっての安全・健やかさ
5. なじみの暮らしの継続

可能な限り本人の声を聞くことによって実現に近づく

しかし…

スタッフの声
家族とゆっくり話す機会がない
在宅の様子はよくわからない

家族の声
どんな人が介護をしているのかよく見えない
どんな思いをもって介護しているの？

地域では‥
これらが生む悲劇・・・

それぞれの教育支援プログラムとして

公的な家族支援事業

（平成12年度開始）
「介護予防・地域支え合い事業」（厚生労働省）
平成15年 1,599市町村（49%）で実施
内容 実技・講義

（平成18年度から）
「地域支援事業」（任意事業）
家族介護者支援事業：家族介護教室、家族介護者交流
対象者 *在宅介護をする家族・一般市民*

施設職員を対象とした研修
・認知症介護実践研修
・各種職能団体の実施の研修
・施設内研修
・民間の研修会

１８年度事業の概要

■モデル事業実施施設　４７都道府県　５７箇所
■期間　平成18年7月～19年3月
■講座回数　244回
■延参加者　介護家族　3,188名　63.6±11.8歳
　　施設職員　4,174名　38.9±11.9歳
　　（企画運営　1,399名）
　　延合計　7,262名

■実施認定方法
昨年度モデル事業を実施した事業所の推薦のあった、特別養護老人ホーム、老人保健施設、デイサービスセンター、地域包括支援センター

■手続き
全国7箇所で実施説明会を開催し趣旨に理解を頂いた上でモデル事業を実施

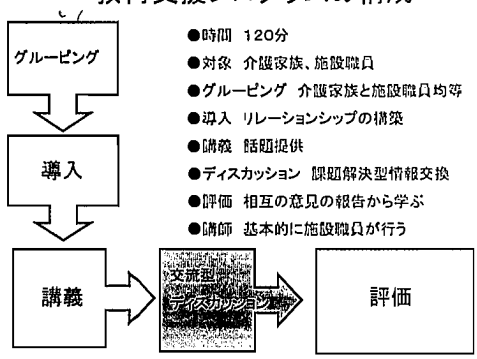
教育支援プログラムの意義

◆在宅サービスを提供する施設職員
認知症介護で必要な生活の継続性や個別性の尊重、尊厳の保持等を直接家族から情報を得ることができる

◆在宅で介護をする家族（介護家族）
施設やサービスへの安心感を向上
自身の介護の知識技術の向上
家族と施設職員との交流による介護負担感の軽減
介護肯定感の向上

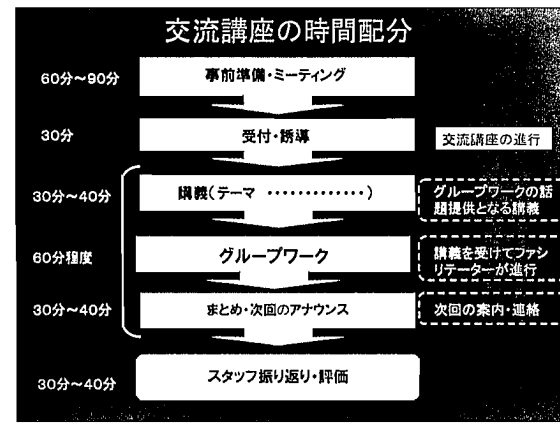
◆実施する事業所
地域展開のきっかけ
家族との信頼関係の構築
新人育成と人材育成

教育支援プログラムの構成



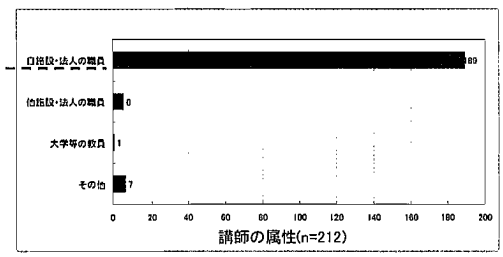
●時間　120分
●対象　介護家族、施設職員
●グルーピング　介護家族と施設職員均等
●導入　リレーションシップの構築
●講義　話題提供
●ディスカッション　課題解決型情報交換
●評価　相互の意見の報告から学ぶ
●講師　基本的に施設職員が行う

交流講座の時間配分

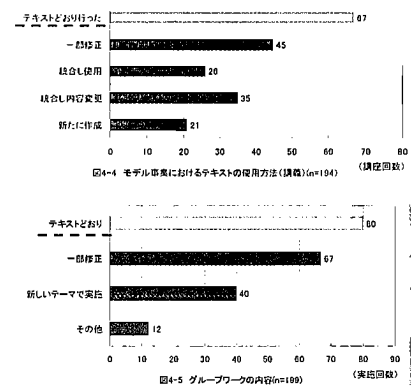


事業所のｽﾀｯﾌが講師となる講座

講座の講師は誰が行ないましたか？



結果１;テキストの有用性　テキストの使用方法は？



受講者の評価は？

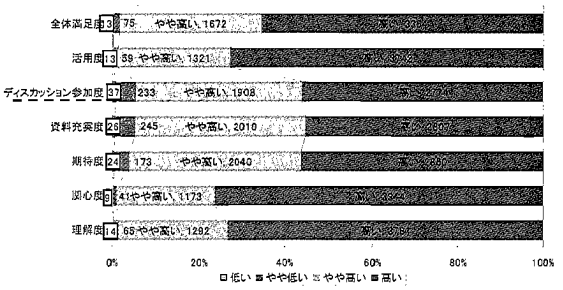


図 講座の評価

プログラム評価・効果測定

有用性

テキストの実用性　参加者の講座評価　ヒアリング調査

有効性

家族

①介護負担感 zarit介護負担尺度日本語版(短縮版)(J-ZBI 8)(荒井2003)
②介護肯定感（櫻井1999）
③認知症介護の自律性（19項目；菊池ら1997を改編）

施設職員

①MBI日本版
②認知症介護の自律性
③コミュニケーション（5項目）

教育支援プログラム参加の効果（家族）

家族の介護負担感
Zarit-8下位尺度Role strainが軽減した。
3回以上の継続参加が効果的

家族の介護肯定感
参加によって向上する
ただし、2回以上の継続参加による

家族の認知症介護の自律性
参加による総合的な効果はみられない
2回以上継続的に参加することで実践対応能力が向上する

プログラムの評価は、直後の評価と一定期間後の評価が必要

教育支援プログラム参加の効果（施設職員）

施設職員のバーンアウト
参加によるバーンアウトを軽減する効果はみられない
4回以上参加することによって情緒的消耗感が増加する

施設職員の認知症介護の自律性
参加による総合的な効果が認められた
アセスメント能力、環境調整能力が向上する
継続参加による効果はみられない

コミュニケーション
2回目以上継続参加することで家族とのコミュニケーションの満足度が向上

教育支援プログラムの有用性

テキストの実用度
事業所で、介護スタッフが活用可能でGW、講義の実用度が高い

参加者の評価
「ディスカッションへの参加」は昨年より向上
（54%）→（76%）

グループディスカッションのファシリテーターの役割が重要となる

→ファシリテーターマニュアルの改訂
講師マニュアルの充実

副次的な効果

1. 施設内の職員間連携を高める効果
寸劇の実施、炊き出し等ユニークな活動

2. サービス利用家族、当事者の参加
地域の既存団体との連携（老人クラブ、自治会）

3. 他事業所からの参加希望
ヘルパーステーションや病院

4. 他事業所からの開催希望

5. 新人育成やリーダー育成に効果的

皆さんに実施していただく講座

①スタッフと家族と地域が一緒に学び合う講座

②講師や運営は施設スタッフが行う講座

③実施施設にメリットがある講座

開催時期は
H19年10月～H20年2月中旬迄の間

SENDAI Dementia Care Research and Training Center

実施に向けて①
テキスト、マニュアルの使用方法

●実施の際は実施マニュアルをご使用ください。

●テキスト内24講座から好きなものを選びそれをそのまま使用してください。

●内容は自由に改訂して下さい
ただし評価表に記入してください

SENDAI Dementia Care Research and Training Center

実施に向けて②
ポスターとチラシについて

◆ポスター（A3版）
→ダウンロード

◆チラシ（A4版）
→ダウンロード

SENDAI Dementia Care Research and Training Center

実施に向けて③
実施に向けた工夫

既存の職員研修を活用
年4回のうち家族に2回入ってもらう

家族会を活用
家族会に職員が入ってもらう

一般向けの介護教室を活用
一般向けにケアスタッフが入る

SENDAI Dementia Care Research and Training Center

実施に向けて④
計画書の提出

①計画書を提出して下さい
日程にあわせてテキストとアンケートを送付します

②実施施設についてHPに掲載させて頂きます

③終了後に事業所、施設長様、担当者様宛に報告書などを送付させて頂きます

SENDAI Dementia Care Research and Training Center

実施の留意点

①期間内に2回以上開催して下さい

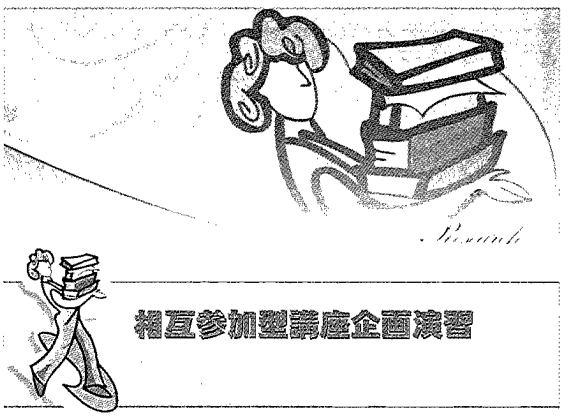
②テキストを活用して下さい
テキストの評価をお願い致します

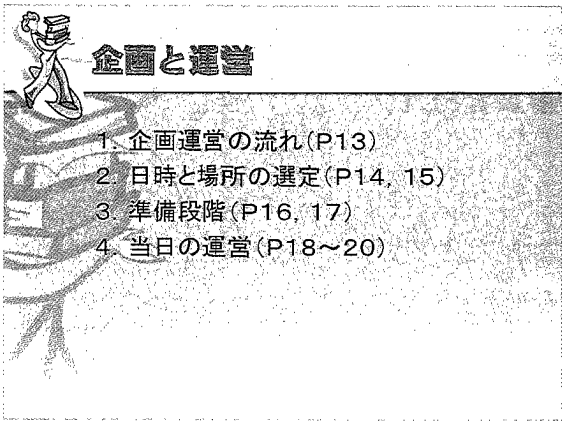
②アンケートのご協力をお願いします
事前、事後、参加者評価、テキスト評価
（計画書が届き次第郵送します）

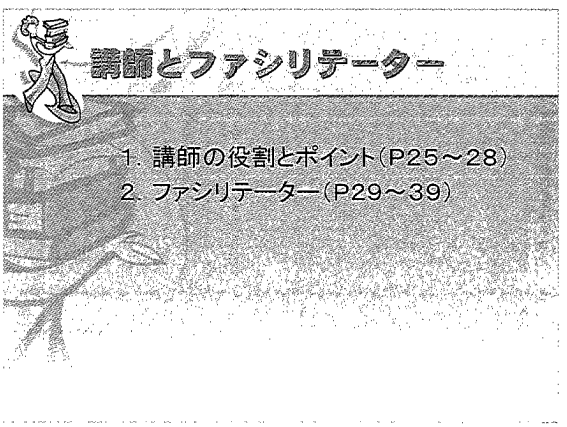
SENDAI Dementia Care Research and Training Center

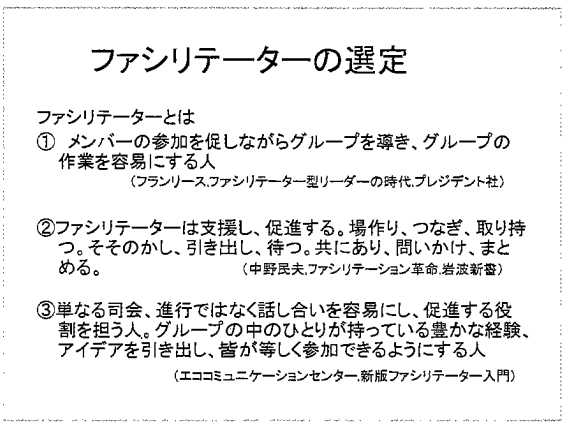
2）相互参加型講座企画運営演習

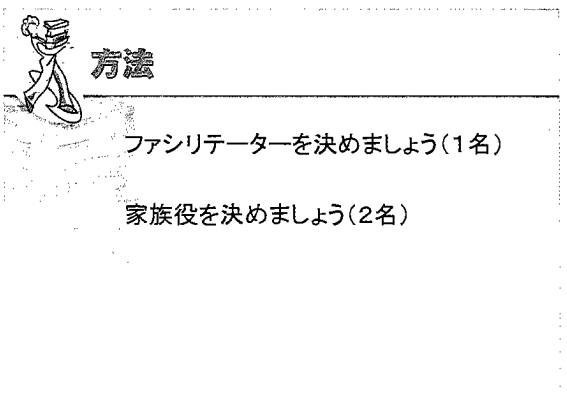
企画運営演習では、家族役、ファシリテーター役等を決めてﾛｰﾙﾌﾟﾚｲを行った。時間は５０分であった。

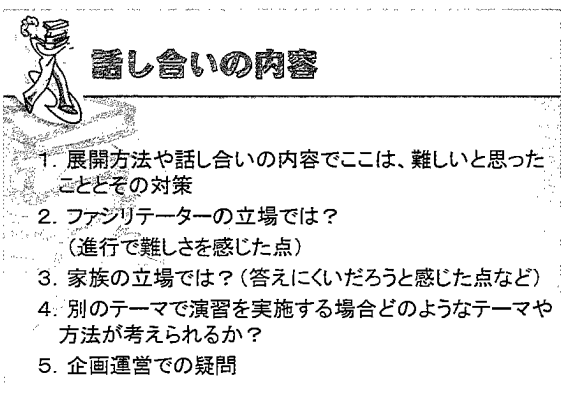








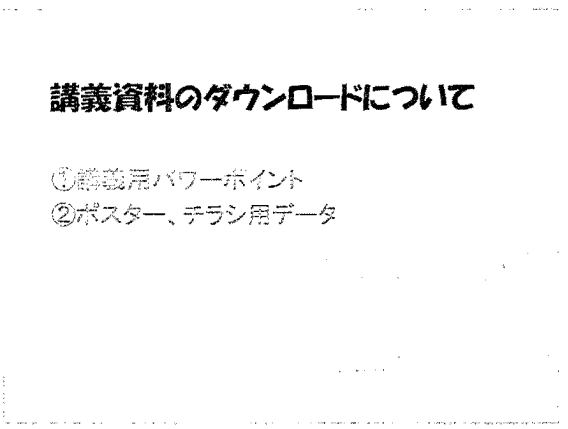


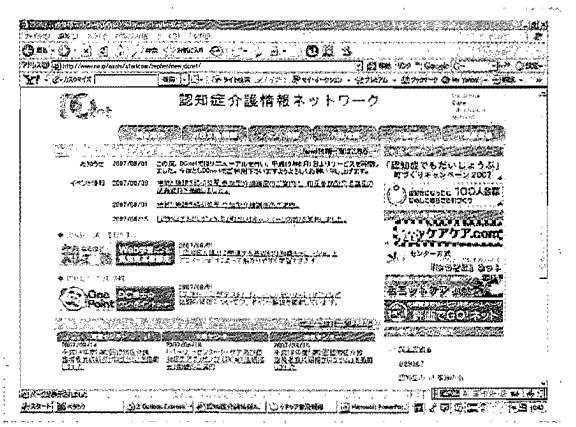


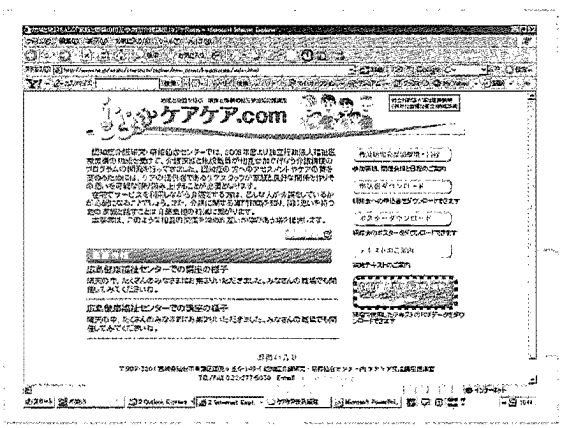
相互参加型企画運営演習ワークシート

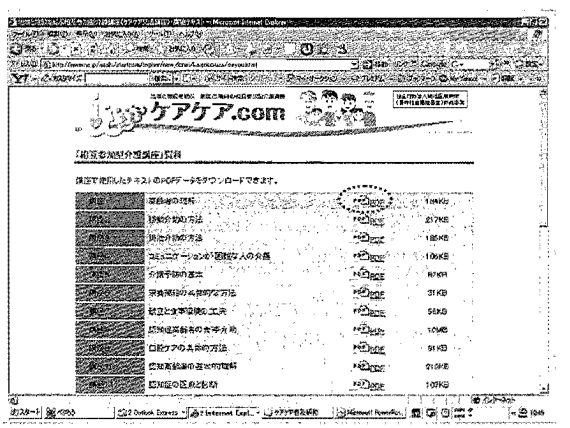
1. 展開方法や話し合いの内容でここは、難しいと思ったこととその対策
①一参加者として ②ファシリテーターとしては？（進行で難しさを感じた点） ③家族の立場では？（答えにくいだろうと感じた点など）
2. 別のテーマで演習を実施する場合どのようなテーマや方法が考えられるか？
3. 企画運営での疑問点

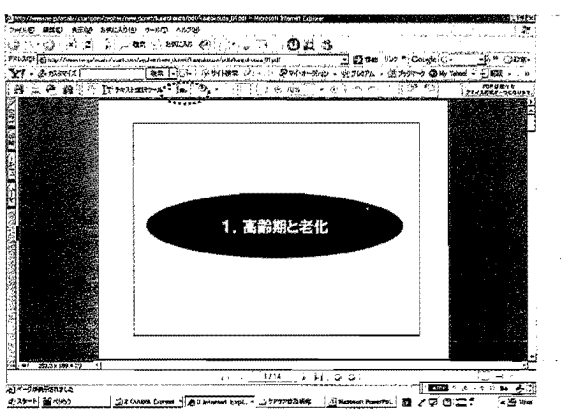
3）講義資料等のダウンロードについて
テキストのパワーポイントを使用できるようにダウンロード可能とした。

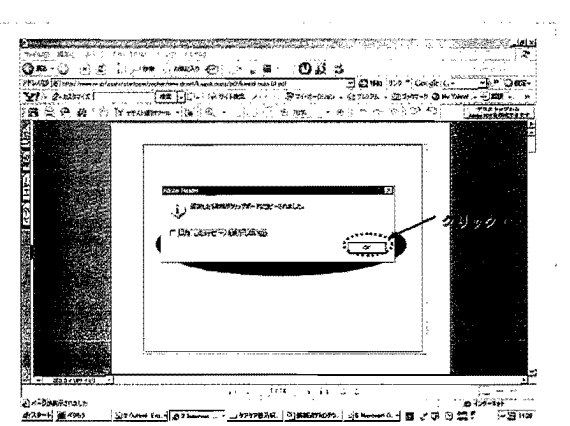




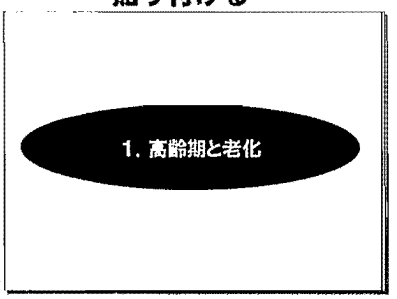








パワーポイントを開いておき貼り付ける



ダウンロードの方法

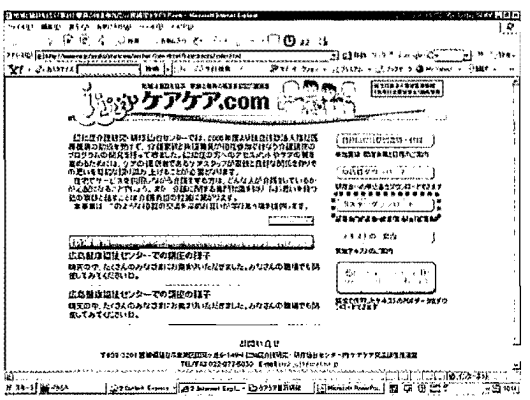
Acrobat Readerをダウンロード

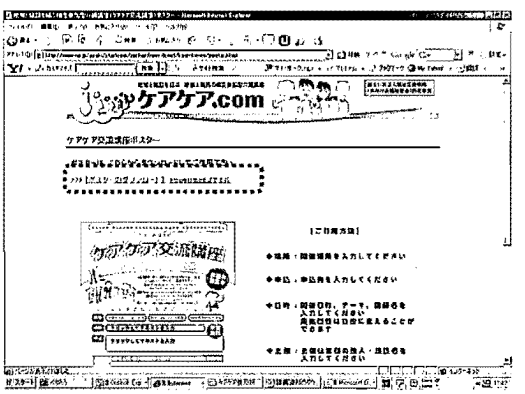
PDFファイルをダウンロード

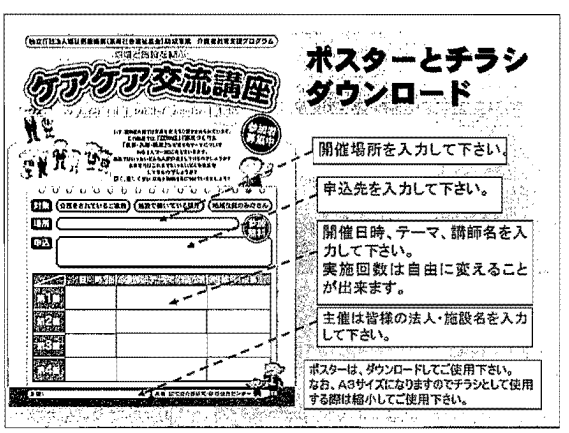
スナップショットツールをクリック

クリップボードに貼り付け（全体を選択）

パワーポイント画面に貼り付ける







ダウンロードされたデータの取り扱い

著作権法に触れますので今回参加された方以外にはデータを配布しないで下さい。

ケアケア交流講座以外の目的で使用される場合は推進室に連絡を入れて下さい。

サイト内のデータの著作権は認知症介護研究・研修仙台センター内にあります。著作権法により無断での転載、複製などの行為を禁止します。
ただし、普及研修会に参加した方のみ使用可能となっております。
ご不明の場合は下記にご連絡下さい。

社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター
ケアケア推進室　千田　・　佐藤
〒989-3201　仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1
TEL／FAX：022-277-5030
E-mail:kenkyuj@dcnet.gr.jp

４．普及研修会研修会の会場と事例提供者

以下の日程で普及研修会を実施しそれぞれ１８年度モデル事業の実施施設から事例報告を依頼した。（資料の詳細は資料１１）

No.	実施日	説明会実施場所〔会場名〕	事例提供者	参加人数
1	平成19年8月7日（火）	盛岡市地域交流センター	社会福祉法人 典人会 小野寺 真	45名
2	平成19年8月20日（月）	東北福祉大学ステーションキャンパス	財団法人たかの寸福祉公社 ケアタウンたかの寸 佐藤 真	80名
3	平成19年8月23日（木）	丸亀市保健福祉センター（ひまわりセンター）	医療法人社団功寿会 老人保健施設千手苑 岡部 壽子 ・ 藤原 実紀子	65名
4	平成19年8月24日（金）	広島県健康福祉センター	医療法人紀典会 老人保健施設 エスペランスわけ 大森 珠江 ・ 小林 麻雄	63名
5	平成19年8月30日（木）	島根県立産業交流会館（くにびきメッセ）	医療法人社団 もりもと 金子 弘子 ・ 田中 大造	28名
6	平成19年8月31日（金）	石川県勤労者福祉文化会館（フレンドパーク石川）	社会福祉法人長寿会 長寿園デイサービスセンター 横山 博一 ・ 松栄紀美子	25名
7	平成19年9月3日（月）	認知症介護研究・研修東京センター	社会福祉法人東京弘済園 三鷹高齢者センターけやき苑 佐藤 尚美	136名
8	平成19年9月6日（木）	社会福祉法人青山里会内あおぞらホール	有限会社伊藤ファーマシー デイハウス沙羅 伊藤 美和 ・ 砂原直子	63名
9	平成19年9月11日（火）	福岡県総合福祉センター（クローバープラザ）	社会福祉法人初栄会 特別養護老人ホーム青葉園 大庭 健司郎 ・ 松本隆	112名
10	平成19年9月12日（水）	大分県総合社会福祉会館	社会福祉法人同心会 特別養護老人ホームしおさい 小野 淳哉 ・ 神田 京子	33名
11	平成19年9月13日（水）	天満研修センター	社会福祉法人玉美福祉会 特別養護法人ホーム向日葵 梅木 千春	92名
12	平成19年9月17日（月）	北海道医療大学札幌サテライトキャンパス	社会福祉法人さつき会 特別養護老人ホーム栖さつき苑 波潟幸敏・小河秀子・能登純子	23名
13	平成19年9月18日（火）	北海道医療大学札幌サテライトキャンパス	釧路市社会福祉協議会阿寒支所 林隆治 ・ 藤田清美	37名

第３章　普及事業の成果

１．ホームページの作成と運用管理

１）作成の目的

教育支援プログラム普及推進室においてプログラム実施支援ホームページを作成し管理を行った。教育支援プログラムに基づく相互参加型介護講座（通称：ケアケア交流講座）を実施する実施事業所の企画立案の支援と講座で講義を実施する施設職員の講義資料をダウンロードし配布すること、ならびに普及研修会の参加者募集を目的としたホームページ「ケアケア.com」を開設し運用と管理を行った。

２）使用方法

このホームページ作成は、認知症介護研究・研修センター（仙台、東京、大府）の運営するWebサイト「ＤＣ―ＮＥＴ」のサーバーを利用し、そこからアクセスできるように設定した。

全国１２カ所で開催された、普及研修会の参加者に対して、ホームページのアクセス方法を伝え、ダウンロード画面より講義の際に必要なマイクロソフトパワーポイントで作成した講義資料のダウンロード方法を伝達した。ダウンロードした資料は、教育支援プログラム実施テキストの内容に沿ったものとなっている。さらに、ダウンロード頁には、自事業所で実施の際、広報作業等で必要なポスターおよびチラシもダウンロード可能であるために活用を促した。

また、作成したサイトは、普及研修会の非参加者も閲覧可能となっているために、本事業の事業説明と内容も、あわせて説明するページを作成し普及と啓発を行った。

３）ホームページの管理

ホームページの管理および運用は、認知症介護研究・研修センター（仙台、東京、大府）の運営するWebサイト「ＤＣ―ＮＥＴ」の管理、運用の委託を行っている協力会社に依頼したが、普及研修会等の記事の作成、パワーポイントの作成、更新依頼については認知症介護研究・研修仙台センター内の「介護家族への教育支援プログラム普及推進室（通称：ケアケア推進室）」がおこなった。

２．ホームページ閲覧者数

普及を目的としたホームページの閲覧者数は図３－１の示すとおりであった。この

数字は、単純に何人がこのサイトに訪れ閲覧したかという数字である。

全国１２カ所で開催された、普及研修会は８月に岩手県盛岡市で開催され９月まで実施された。最も、閲覧が多かったのは９月で４１，７５３人が訪れ、次いで８月で２８，６１９人、同等に１０月が２８，２９２人であった。一方、少ない月は、１１月で１１，５５０人であった。この数値から、研修会直後に一度閲覧し、その後実際に講座をする時期に再度閲覧していることが読み取れる。また、閲覧者数が少ない月であっても１０，０００件を越す閲覧数で、公開している７ヶ月で１５３，４７３件の閲覧者数は、１日平均７３０名以上が訪れていることを鑑みると、普及効果は十分に得られたといえよう。

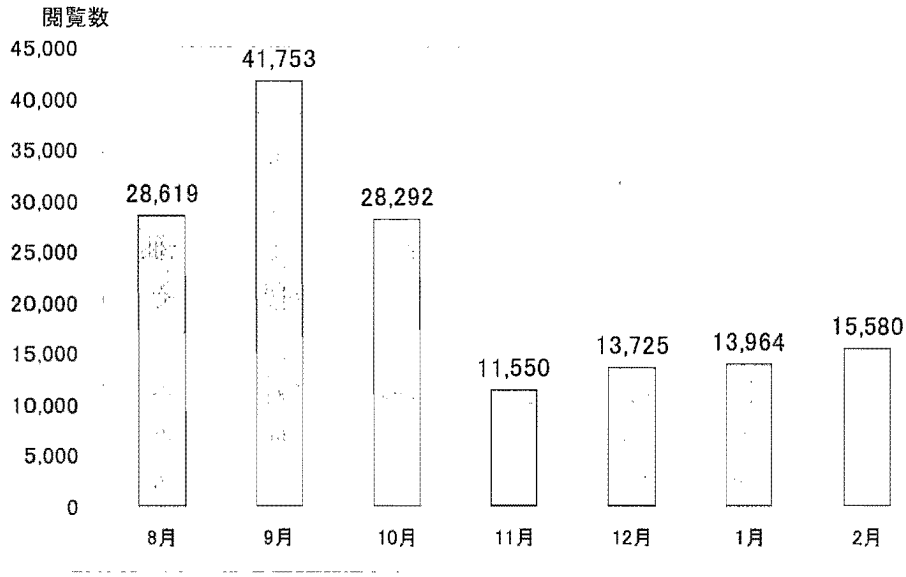


図３－１ケアケア.com 月別閲覧数

３．資料のダウンロード数

講座の円滑な企画、運営を支援することを目的に各種資料をダウンロード画面よりダウンロード可能とした。実施する講師が使用する際の講義資料となるパワーポイントデータ（ＰＤＦ版）と講座企画運営時に必要なポスターならびに普及研修会への参加申込書のダウンロード数の経過については図３－２、表３－１に示したとおりであった。

全体では、９月のダウンロード数が９，６４６件で最も多く、次いで、１０月で５，１４９件、８月３，８６０件、２月３，６８４件と続いた。一方、少なかった月は１２月で２，８６３件であった。この結果は、閲覧者数と同様に、普及研修会開催直後に増加し、その後実際の講座開催時に必要な講座科目のダウンロードを行う傾向があったためと考えられる。

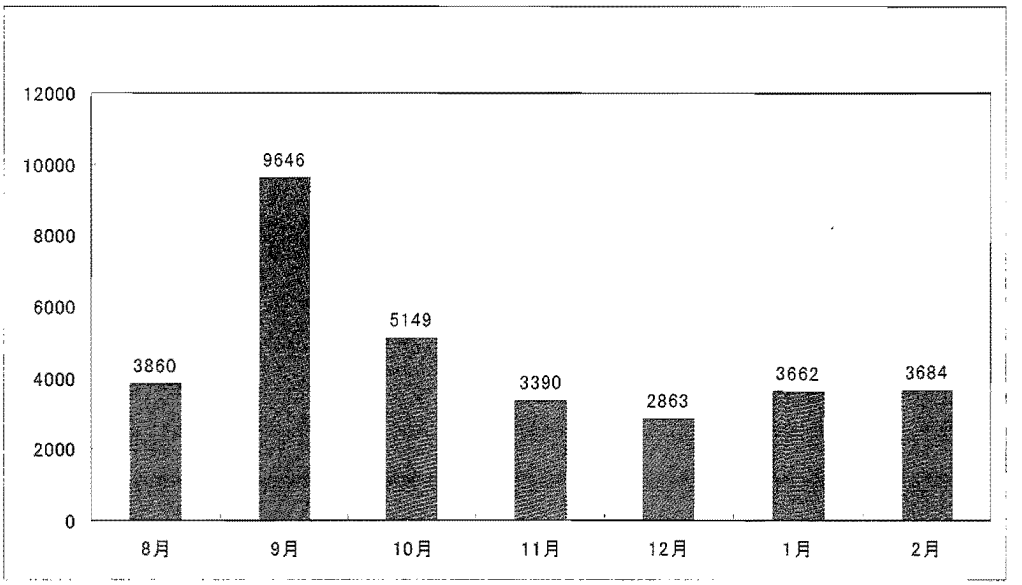


図3－2　講義資料月別ダウンロード数

表3－1　講義資料ダウンロードの詳細

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
講座１　高齢者の理解	338	888	492	227	209	332	316	2802
講座２　移動介助の方法	161	432	314	220	181	242	190	1740
講座３　排泄介助の方法	168	400	201	195	112	125	80	1281
講座４　コミュニケーションが困難な人の介助	133	259	124	131	133	109	116	1005
講座５　介護予防の基本	125	222	175	103	75	69	66	835
講座６　栄養補助の具体的な方法	87	163	122	66	75	59	51	623
講座７　献立と食事環境の工夫	96	200	110	82	66	124	217	895
講座８　認知症高齢者の食事介助	378	753	279	231	199	155	225	2220
講座９　口腔ケアの具体的方法	146	530	194	148	115	207	276	1616
講座１０　認知症高齢者の具体的理解	209	505	339	214	153	147	189	1756
講座１１　認知症の医療と診断	232	582	284	187	112	227	270	1894
講座１２　認知症の人の心理と対応	213	496	300	169	169	322	332	2001
講座１３　認知症の予防の考え方	148	506	329	235	178	298	378	2072
講座１４　認知症を介護する家族のこころ	162	464	169	143	149	253	187	1527
講座１５　介護者のストレスの基本的理解	163	459	228	187	97	167	101	1402
講座１６　介護者のストレス軽減	98	268	149	94	55	83	59	806
講座１７　ストレス軽減のためにできること	94	227	124	64	59	85	54	707
講座１８　ストレス解消の事例	85	266	117	84	57	77	57	743
講座１９　認知症の人の環境作りのポイント	119	295	146	106	179	92	88	1025
講座２０　在宅介護の環境を考える	98	212	104	53	43	63	63	636
講座２１　地域社会の環境づくり	110	232	139	51	104	76	50	762
講座２２　介護保険制度を利用するには	101	200	127	57	68	84	74	711
講座２３　介護保険制度の具体的なサービス利用	92	259	93	68	69	60	57	698
講座２４　地域の社会資源の有効活用	161	524	211	75	84	82	89	1226
ポスター	69	74	56	43	33	32	50	357
申込書	74	230	223	157	89	92	49	914
	3,860	9,646	5,149	3,390	2,863	3,662	3,684	32254

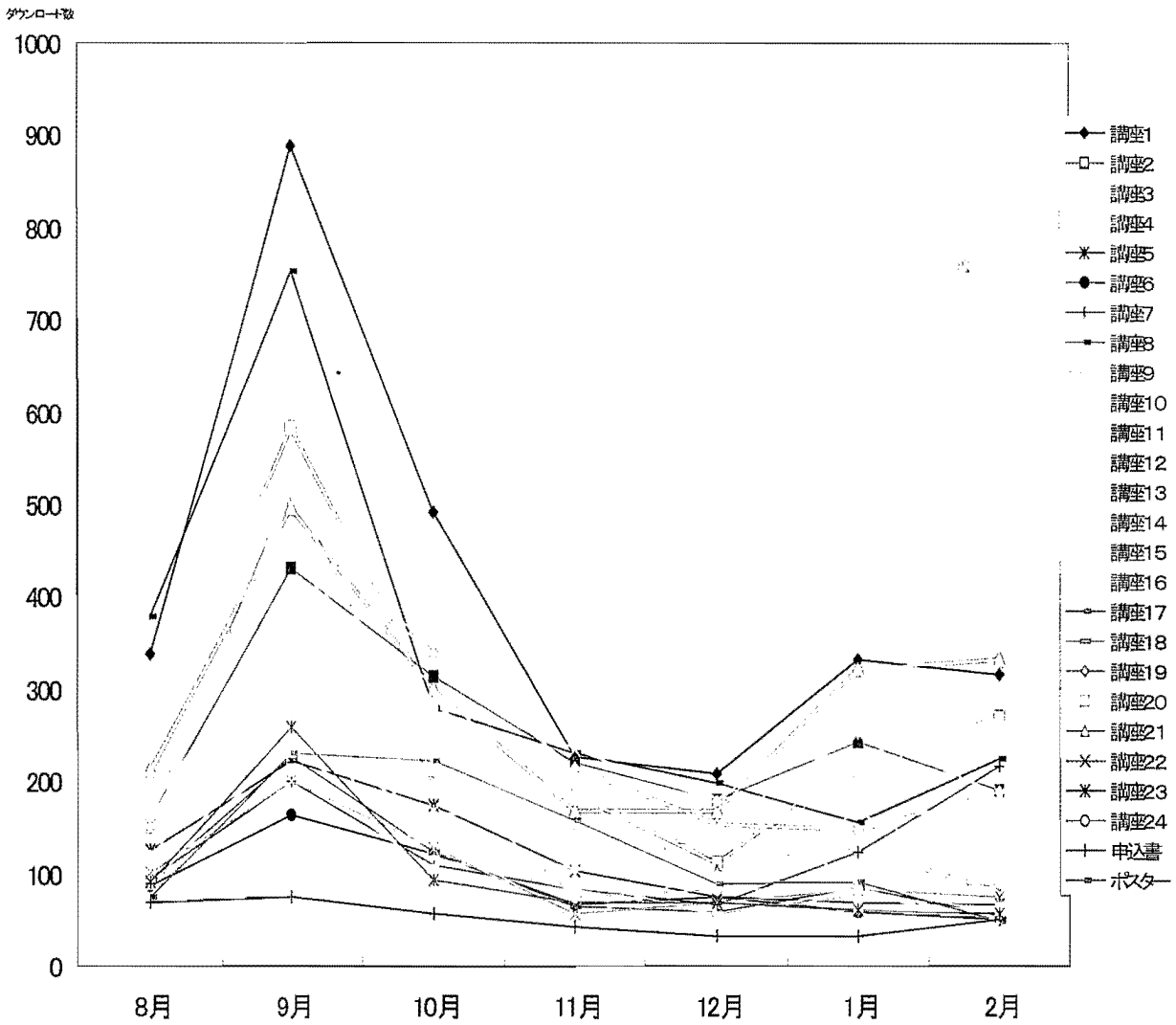


図3－3 ケアケア.com ダウンロード数の経過

さらに、２４講座の資料それぞれのダウンロード数は、図３－３に示したとおりであった。「講座１高齢者の理解」は９月、１０月、１２月、１月で最もダウンロード数が多かった。「講座１０認知症高齢者の基本的理解」、「講座１２認知症の人の心理と対応」、「講座９口腔ケアの具体的方法」は、１月、２月にダウンロード数が増加している。これは、実際に講座として取り上げられた講座であったことが推測される。

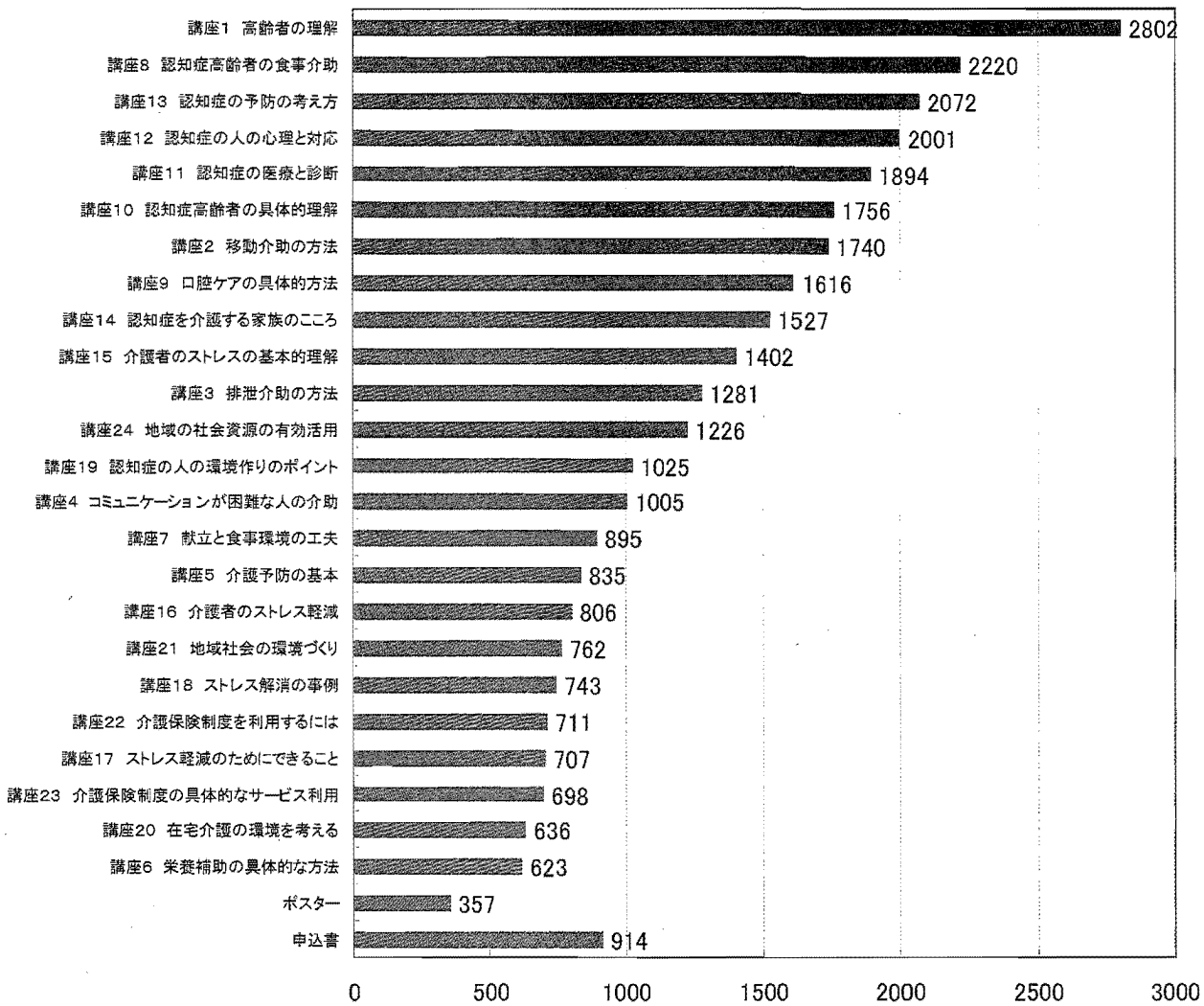


図3－4 ダウンロード数の合計

図３－４は、ダウンロードされた講義資料を昇順に並べ替えたものである。最もダウンロード数が多かった講座は、「講座１高齢者の理解」で２，８０２件、次いで「講座８認知症高齢者の食事介助」で２，２２０件、「講座１５認知症予防の考え方」で２，０７２件、「講座１２認知症の人の心理と対応」２，００１件と続いた。

認知症を取り上げた講座と介護技術について取り上げた講座はダウンロード件数が増加しており、講座を実施した多くの事業所や施設で要望が高いことが明らかになった。一方、ストレスに関する講座は、今回のように計画までが短期間の場合、それぞれの理解が深まる段階まで交流が進んでいないことなども勘案し実施が難しかったのではないかと思われる。環境づくり等の内容については、在宅で介護する家族と、施設で介護する職員との立場の違いから取り扱いが難しく、相互参加型の講座の科目としては工夫が必要であろう。

４．教育支援プログラム実施テキストの作成

１）実施テキストの作成

２００６年度に作成した、介護家族への教育支援プログラム実施マニュアルおよびテキストを改訂し、今年度実施した普及研修会に使用することを目的に実施テキストを作成した。

改訂のポイントとして、保管しやすく、取り扱いやすいようにするために１冊にしたこと。そして、全体の文章表現の統一を図り、プログラムの特徴である家族と施設職員のディスカッションの場であるグループワークについては、昨年度５６事業所で実施されたモデル事業などを参考に全面的見なおしを行った。

２）実施テキストの作成（普及版）

普及版テキストは、今年度２００以上の事業所で開催された教育支援プログラムの評価をもとに、最も使用されている講座部分を抜粋したものである。さらに、実践事例として、様々な事業所・施設形態の例として特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホームを取り上げ、さらに先駆的な展開活用事例として地域連携、他施設連携、人材育成等を６事例取り扱った。

また、教育支援プログラムの中心的なテーマである家族と施設職員のディスカッションの場であるグループワークの事例の実施した施設からの要望が多かったことから、さらに２事例を加え、１講座につき３事例提示した。

講座については、普及用 Web サイトからダウンロード件数が多かったものを中心に、普及推進委員会で検討し、以下の１２講座を取り上げることとした。

１．高齢者の理解　（吉川悠貴）
２．認知症の医療と診断　（浅野弘毅）
３．認知症高齢者の基本的理解　（加藤伸司）
４．認知症高齢者の心理と対応（加藤伸司）
５．認知症の予防（吉川悠貴）
６．認知症の人を介護する家族のこころ（加藤伸司）
７．認知症高齢者の食事介助（山田裕子・草壁利江）
８．移動介助の具体的方法（一原浩・太田秀男）
９．認知症の人への環境づくり（杉村和子・三木一雄・渡辺泰・松下真弓）
１０．介護者のストレス軽減（大久保幸積・守屋秀一・行徳和秀）
１１．口腔ケアの具体的方法（土田良平・城地まさみ）
１２．地域社会資源の有効活用（小野寺義彦・千脇隆志）

作成したテキストは、今年度実施もしくは来年度実施予定の事業所・施設と普

及するために必要と思われる機関へ配布した。また、その他の機関で要望がある場合は頒布する。

5．地域の事業所での展開

普及研修会参加後の今年度実施予定の事業所は２０７施設・事業所であった。以下に記載するリストは２月２９日の段階で計画書が提出された施設・事業所である。なお、年度計画との関係で来年度以降実施予定の事業所も掲載した。

（資料１２、１３）

第4章　教育支援プログラムの地域での実施と評価

１．各地域での教育支援プログラムの実施概要

１）事業評価の目的

事業評価は、教育支援プログラムに基づく相互参加型交流講座の運営が円滑に行えるような実施テキストであったのか、また、実施テキストに記載されていた内容を活用した企画運営者、講師の評価、そしてその講座に参加した家族、職員がどのように評価したかによって、問題点、課題を明らかにすることを目的とした。

また、この評価をもとに普及版テキストを作成する上での参考資料を得る目的もあった。

２）実施までの手続き

各地域における施設・事業所での実施については第２章で記載した全国１２地区で計１３回実施した普及研修会の参加者に企画・運営の方法を指導した。その際に、実施計画書を配布し、各事業所へ持ち帰り検討後実施の可否をＦＡＸにて返信を依頼した。ただし、参加者は必ず年度内に実施することを義務づけしたのではなく、可能な限り今年度１回程度は実施することを依頼し、年度途中での計画は困難である場合は、来年度実施してもらうこととした。

今年度実施もしくは来年度実施の意向を記入した計画書をＦＡＸで返信した事業所にのみ、実施テキストを配布した。

また、実施の際に必要となるパワーポイントで作成した講義資料は、普及研修会内で案内をした方法で、「ケアケア.com」からダウンロードできる旨を伝えた。

なお、計画書から明らかになった年度内実施施設ならびに来年度実施施設は下記の通りである（巻末資料参照）。

３）事業評価の方法

各地域の２０７施設・事業所で実施された、教育支援プログラムの事業の評価は、参加者からの各講座後に毎回実施した①参加者評価と、全講座修了後に講座企画運営者および講師が記入した②テキスト・事業評価表にて実施した。

評価表の回収は、平成１９年２月２９日を締め切りとして郵送で回収した。なお、３月に講座を実施した施設・事業所については適宜返送を依頼した。

評価項目は、次の通りである。

①参加者評価

参加者属性、理解度、関心度、期待度、資料評価、ディスカッション参加自己評価、今後の活用度、満足度、自由記述

②テキスト有用性・実用性・事業評価

実施講座名、講師属性、参加者数、使用テキスト、テキスト活用評価（講義・グループワーク）、グループワークの方法（自由記述）、テキスト要望、事業所理解度、自由記述

以上の２つの調査結果をもとに、普及事業の評価として実施した。①については、教育支援プログラムの内容及び運用上の評価であり、②については、教育支援プログラムの目的である、職員が講師になり講座を展開することへの評価、また実施テキストの活用度と要望を問うた内容となっている（巻末資料参照）。

２．参加者の評価（参加者評価アンケートの結果）

１）参加者の評価の概要

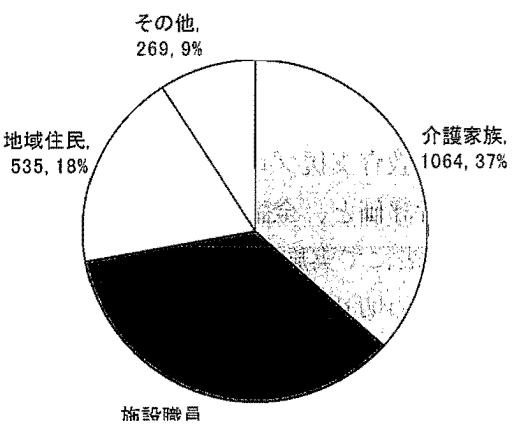
今年度実施した事業所は１９３施設・事業所であったが、事業評価を回収できたのは１６５事業所であった。したがってここで示す数値は実施し且つ調査票の回収が行われた事業所分のみである。

また、各施設での講座は、年度末に実施された事業所が多かったため、調査票の報告書作成段階で調査票回収に至っていない事業所が多くある。

調査票は、１６５事業所から３，１０７票回収した（３月１日時点）。

２）参加者の属性

参加者の属性は以下の通りであった。



参加者の属性は、介護家族が１，０６４名（３７％）でもっとも多く、次いで施設職員で１，０３９名（３６％）、地域住民５３５名（１８％）、その他２６９名（９％）と続いた。

本事業の主旨である相互参加型の講座を実施するためには、非常にバランスの良い参加者であった。

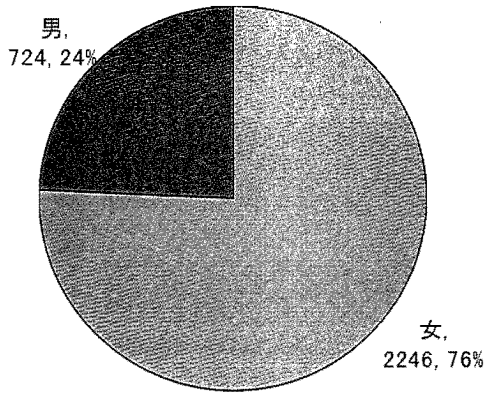


図4－2　対象者の性別(N＝2, 970)

対象者の性別は、女性が２，２４６名（７６％）で、男性が、７２４名（２４％）であった。

参加者の多くが女性であることが明らかになった。

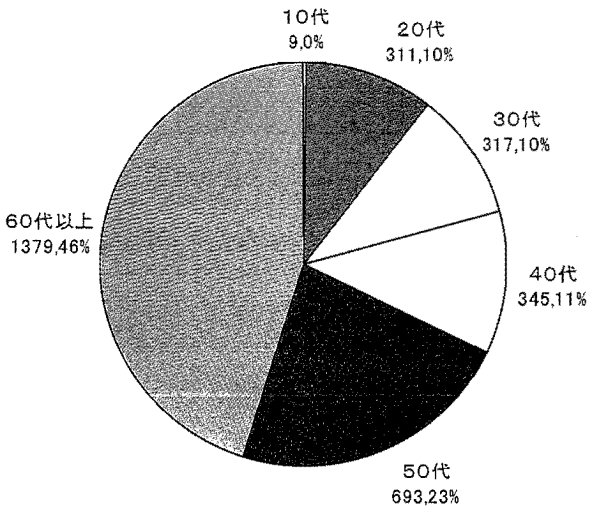


図4－3　対象者の性別(N＝3, 054)

年代では、６０歳以上がもっとも多く、１，３７９名（４６％）で、次いで５０代６９３名（２３％）、４０代３４５名（１１％）、３０代３１７名（１０％）、２０代３１１名（１０％）、１０代９名（０％）の順であった。

評価対象者は、５０代以上が全体の７割を占めることが明らかになった。

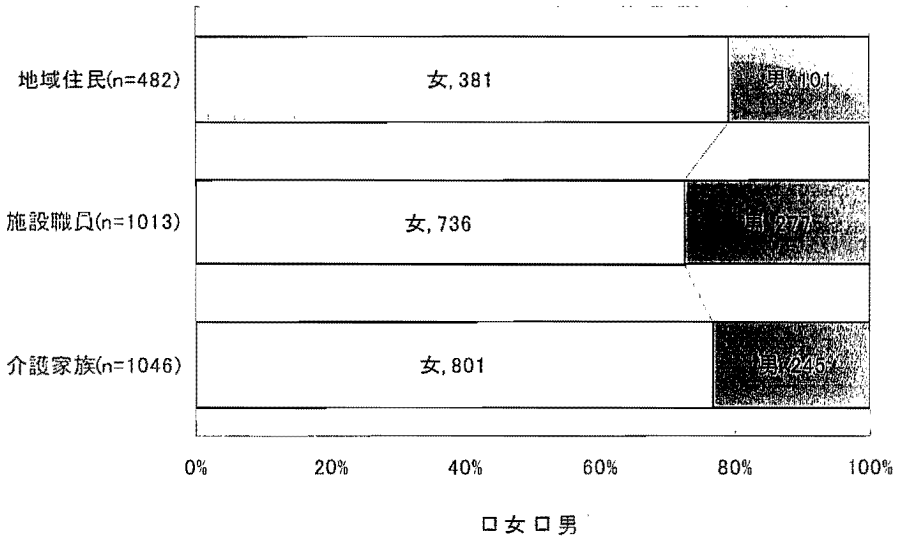


図4－4　対象者の性別×属性

対象者の性別を属性別で比較すると、いずれの属性に置いてもほぼ同じ比率で男女が構成されている。

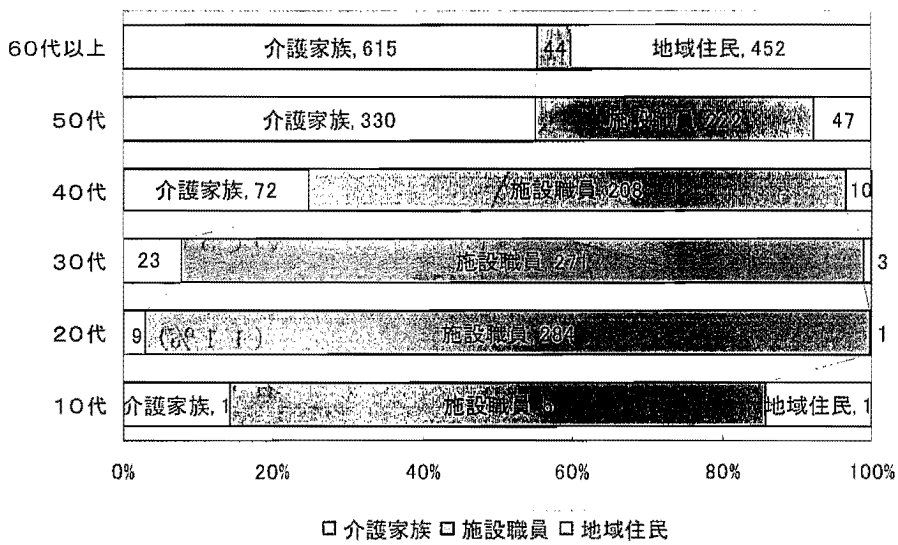


図4－5　対象者の年代×属性

対象者の年代を属性別で比較すると、介護家族は５０代、６０代が多く、施設職員は２０代、３０代、４０代の占める割合が高い。また、地域住民も介護家族と同様に６０代の占める割合が高いことがわかる。

3）講座の評価

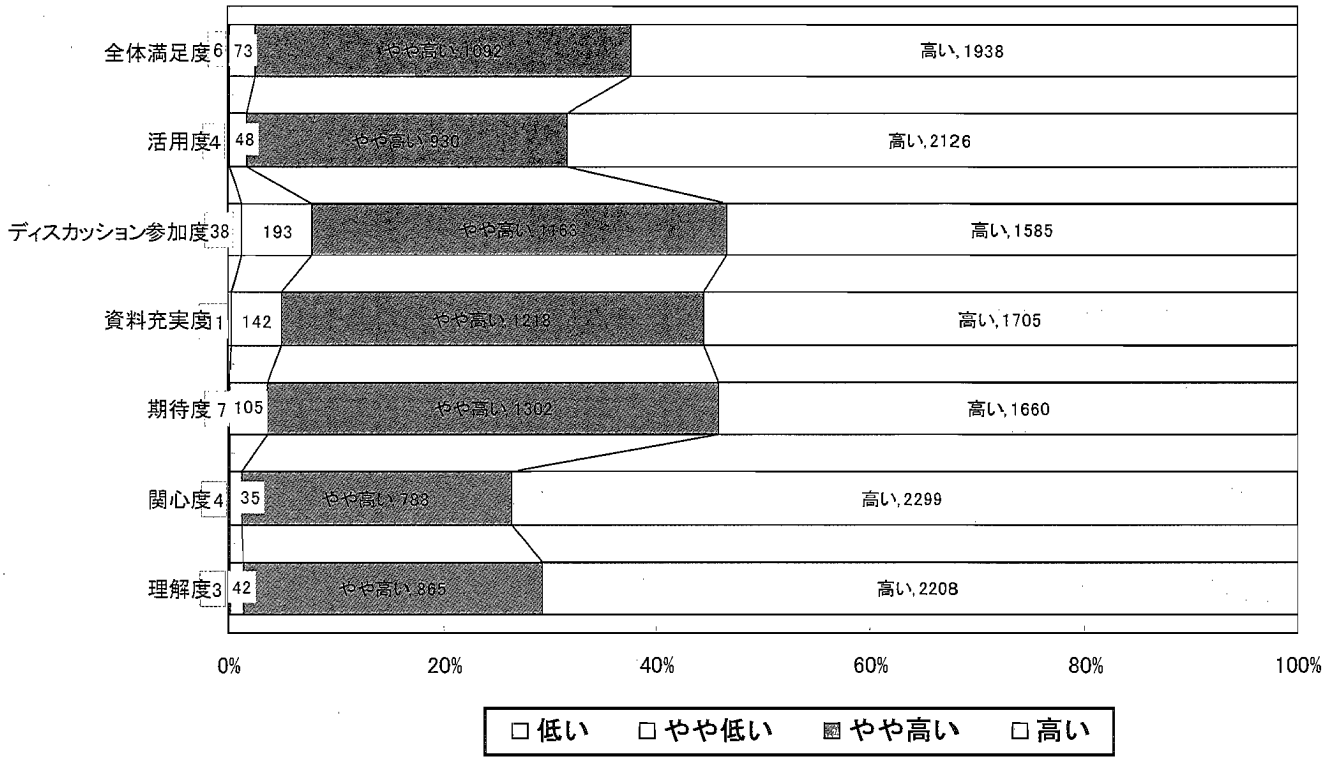


図4－6 講座の評価（N＝2，970）

講座受講後参加者に、内容の理解度、関心度、期待度、資料充実度、ディスカッションの参加度、講座内容の今後の活用度、全体の満足度それぞれについて、「非常に満足」から「不満足」までの４段階で評価を求めた。

結果、いずれの項目についても、「高い」と「やや高い」を含めると高い評価であった。特に、「活用度」と「理解度」「関心度」は高い評価を得ており、事業の意図と合致する結果であった。一方、「ディスカッション参加度」は他の項目より低い評価が多くなることが明らかになった。

4）参加者群による比較

評価対象者を、介護家族、施設職員、地域住民の属性別で、各評価について比較を行った。

① 講座の理解度

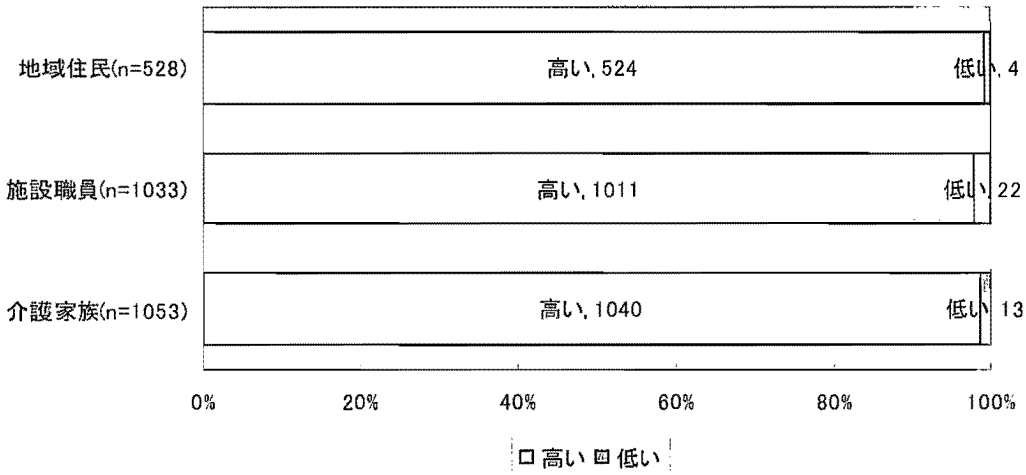


図4－7 講座の理解度

「講座は理解しやすかったか」という、理解度の評価を、介護家族、施設職員、地域住民で比較したところ、いずれの属性においても９割以上の参加者が高い評価を示した。属性に関係なく、理解しやすい講座内容であったといえる。

②講座の関心度

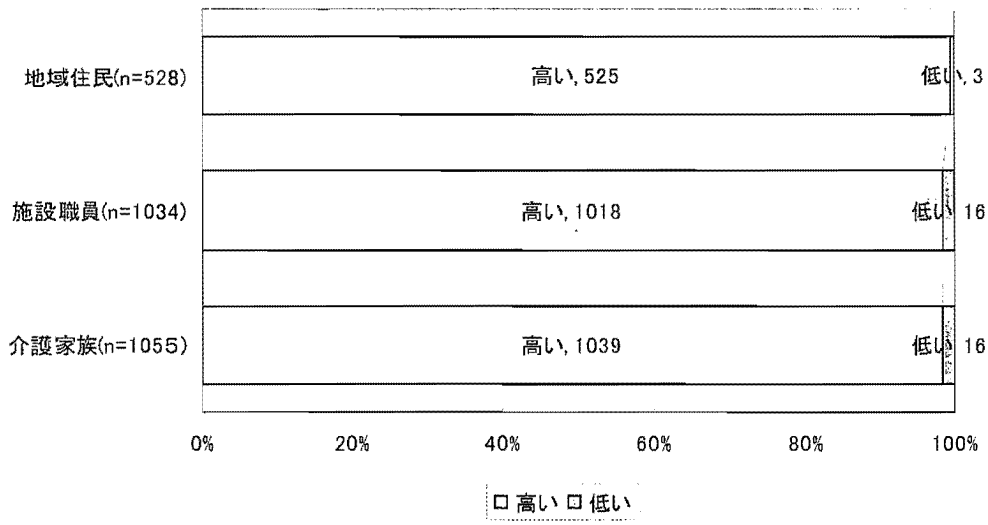


図4－8 講座の関心度

「講座の内容に関心はもてたか」という関心度の評価を、介護家族、施設職員、地域住民で比較したところ、いずれの属性においても９割以上の参加者が高い評価を示していた。属性に関係なく、理解しやすい講座内容であったといえる。

③講座の期待度

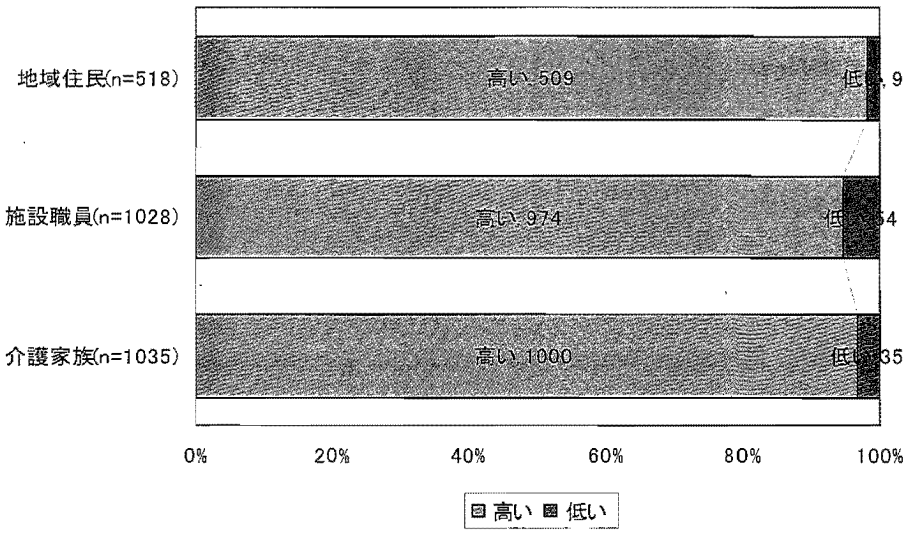


図4－9 講座の期待度

「講座の内容は期待通りだったか」という期待度の評価を、介護家族、施設職員、地域住民で比較したところ、いずれの属性においても９割以上の参加者が高い評価を示していた。属性に関係なく、期待に応えることができたといえる。

④資料充実度

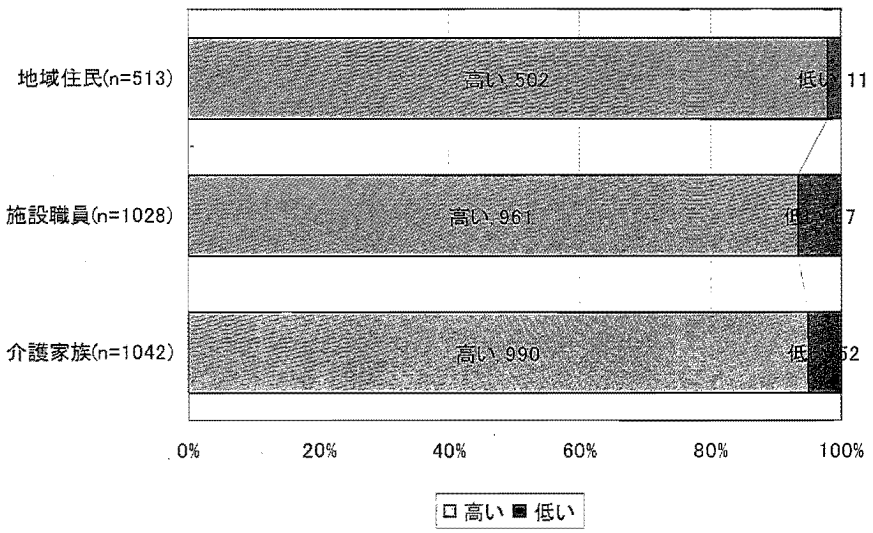


図4－10 資料の充実度

「資料は十分だったか」という資料の充実度の評価を、介護家族、施設職員、地域住民で比較したところ、いずれの属性においても９割以上の参加者が高い評価であることが示された。施設職員は他と比べると低評価者が多くなったことから、専門性の違いが現れる結果となった。

⑤ディスカッション参加度

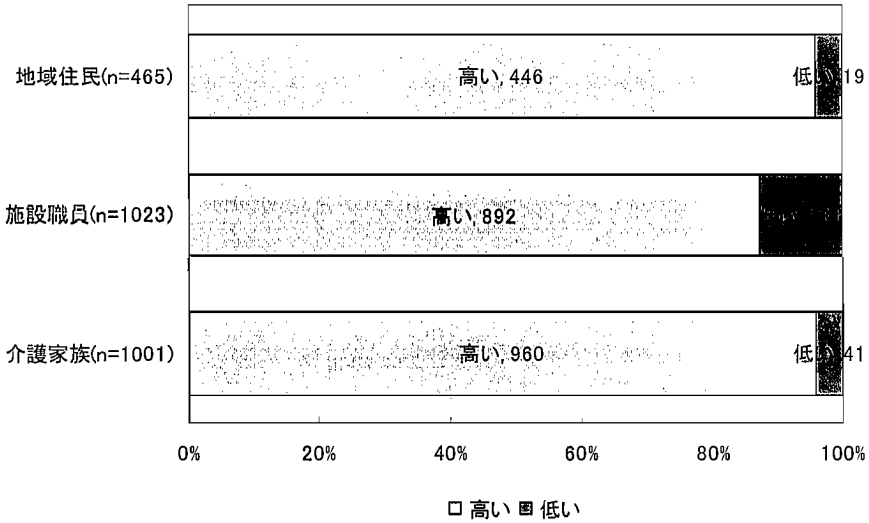


図4－11　ディスカッションの参加度

「ディスカッションには十分参加できたか」というディスカッション参加度の評価を、介護家族、施設職員、地域住民で比較したところ、いずれの属性においても８割以上の参加者が高い評価を示している。施設職員は他と比べると低評価者が多くなったことは、否定的ではなく、自省や家族との関係性配慮の結果の可能性も推察される。

⑥今後の活用度

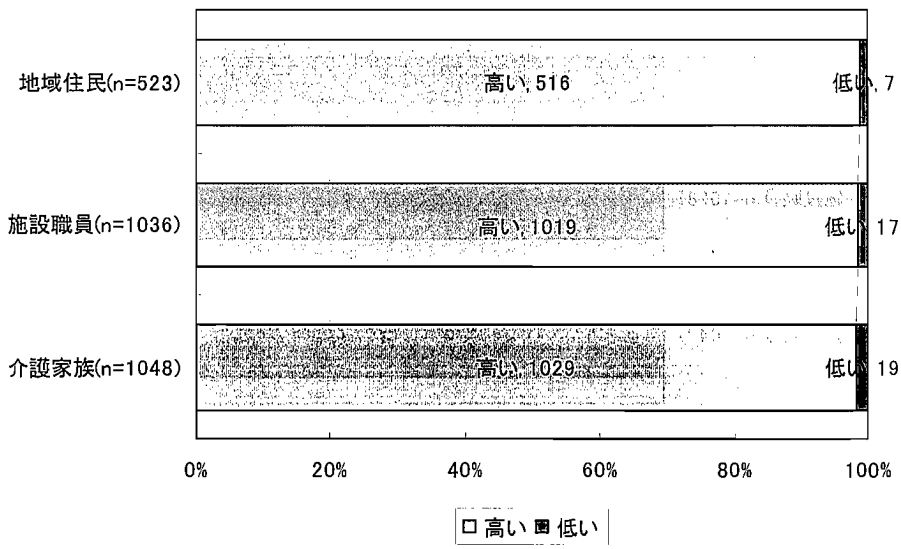


図4－12　今後の活用度

「講座の内容は今後活用できそうか」という活用度の評価を、介護家族、施設職員、地域住民で比較したところ、いずれの属性においても９割以上の参加者が高い評価を示した。

⑦全体の満足度

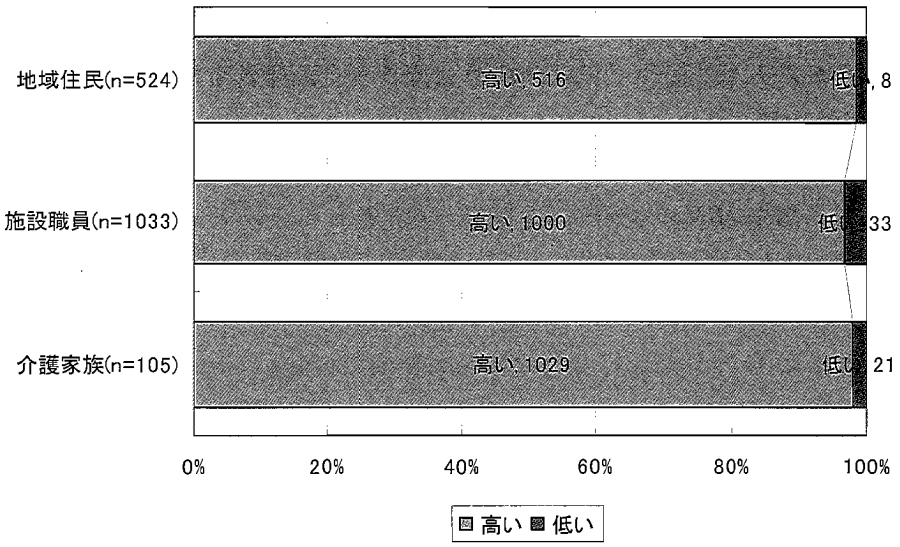


図4－13 全体の満足度

「講座をとおしての全体の満足度は」という全体の満足度の評価を、介護家族、施設職員、地域住民で比較したところ、いずれの属性においても９割以上の参加者が高い評価を示した。

5）まとめ

講座の参加者の講座に対する評価をまとめると以下のようになる。

①参加者の性別は、属性に関係なく女性が多く全体の７割以上を占めており、年代では全体で５０代以上が７割を占め、属性別では、介護家族、地域住民の年齢は高く、施設職員の年齢は低いことが明らかになった。また、それぞれの属性は、介護家族と施設職員はバランスよくほぼ同じ割合の参加者であった。

②参加者の講座に対する評価はいずれの項目についても評価は９割以上高い評価をしていることが示された。しかし、施設職員については、家族との関係性を配慮することや、専門性を求めることから、介護家族や地域住民よりも「ディスカッションの参加度」、「資料の充実度」で評価が微量ではあるが低くなることが示された。

３．テキストの有用性・実用性評価（事業評価アンケートの結果）

１）調査の概要

事業評価は、以下について実施者である普及研修会参加の施設・事業所における教育支援プログラムに基づく相互参加型交流講座企画運営者に対して以下の内容について評価を依頼した。

①今年度に実施した講座の内容

②自施設・事業所内での講師の充足度（有用性）

③相互参加型交流講座実施テキストの活用度（実用性）

方法は、テキストの送付とあわせて調査票を送付し、全講座修了後郵送での返送を依頼した。

なお、今年度実施事業所は１９３事業所で本調査票の回収は１６５事業所であり回収率は７９．７％であった（２月２９日現在）。

２）延べ開催回数および参加人数

事業評価における延べ参加者数および延べ講座実施回数は以下の通りであった。

	参加者数			
延べ講座回数	介護家族	施設職員	地域住民	企画者
３６６回	２１５１名	２３６６名	１８６７名	８６７名

延べ参加者数　７，２５１名

実施事業所　２０７施設・事業所

延べ講座回数　３６６回

（平成２０年３月１日現在の集計）

3）講座講師担当者の属性

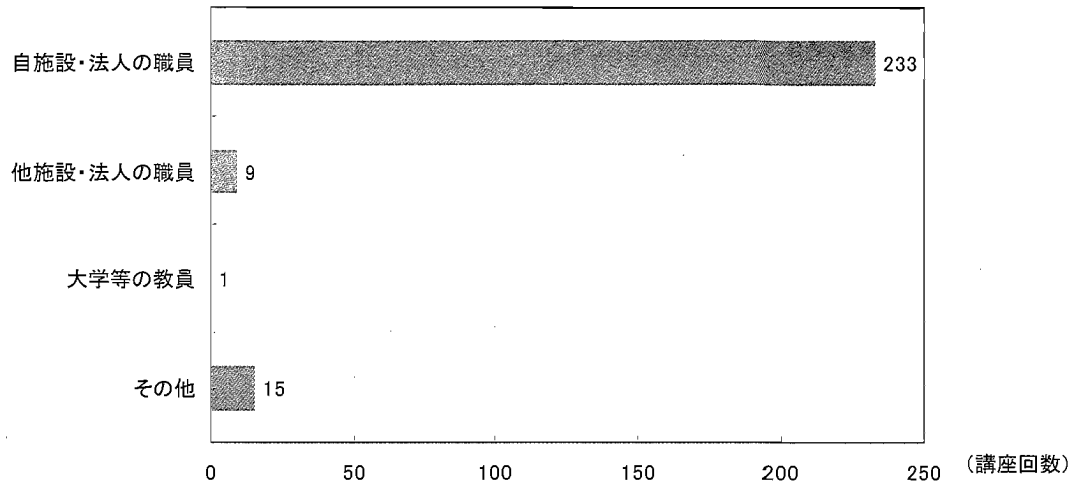


図4－14 講座講師担当者の属性(n＝258)

自施設・事業所内での講師の充足度およびテキストのコンセプトであった誰でも講師になれるという観点で有用性を明らかにすることを目的に、実施した講座の講師を誰が担当したのかを聞いた。結果、「自施設・法人の職員」が２３３名でもっとも多かった（全２５８講座中)。これは本事業の目的に合致していることが示された。

4）講座講師担当者の職種

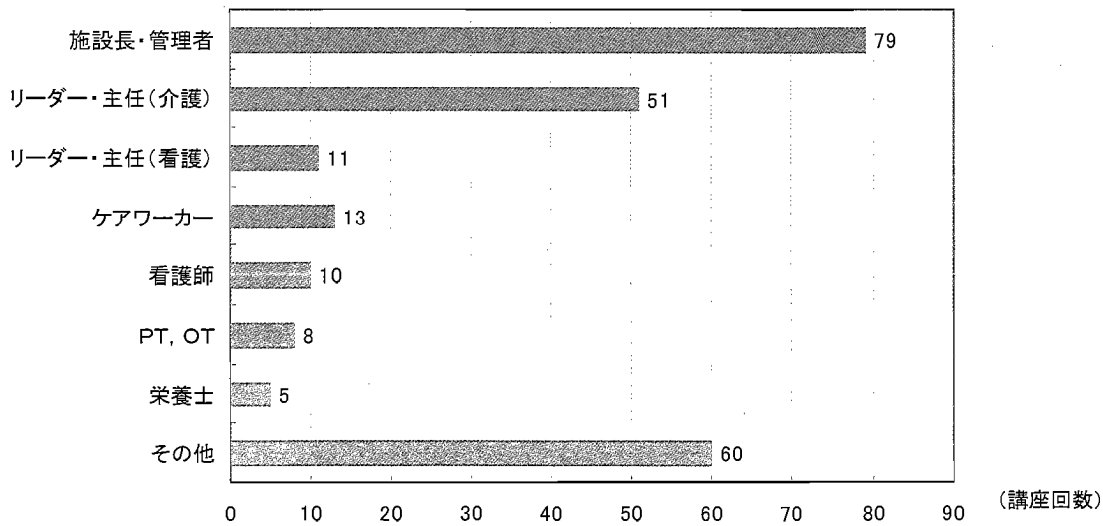


図4－15 講座講師担当者の職種(n＝258)

講座講師担当者の職種について聞いたところ、「施設長・管理者」が７９名でもっとも多く、「その他」を除くと、「リーダー・主任（介護)」で５１名、「ケアワーカー」で１３名であった。「その他」６０名には介護支援相談員、保健婦が多く含まれ多くの職種で活用可能であった。この結果から、テキストの有用性は高いことが示された。

5）使用したテキスト（テキストの活用度）

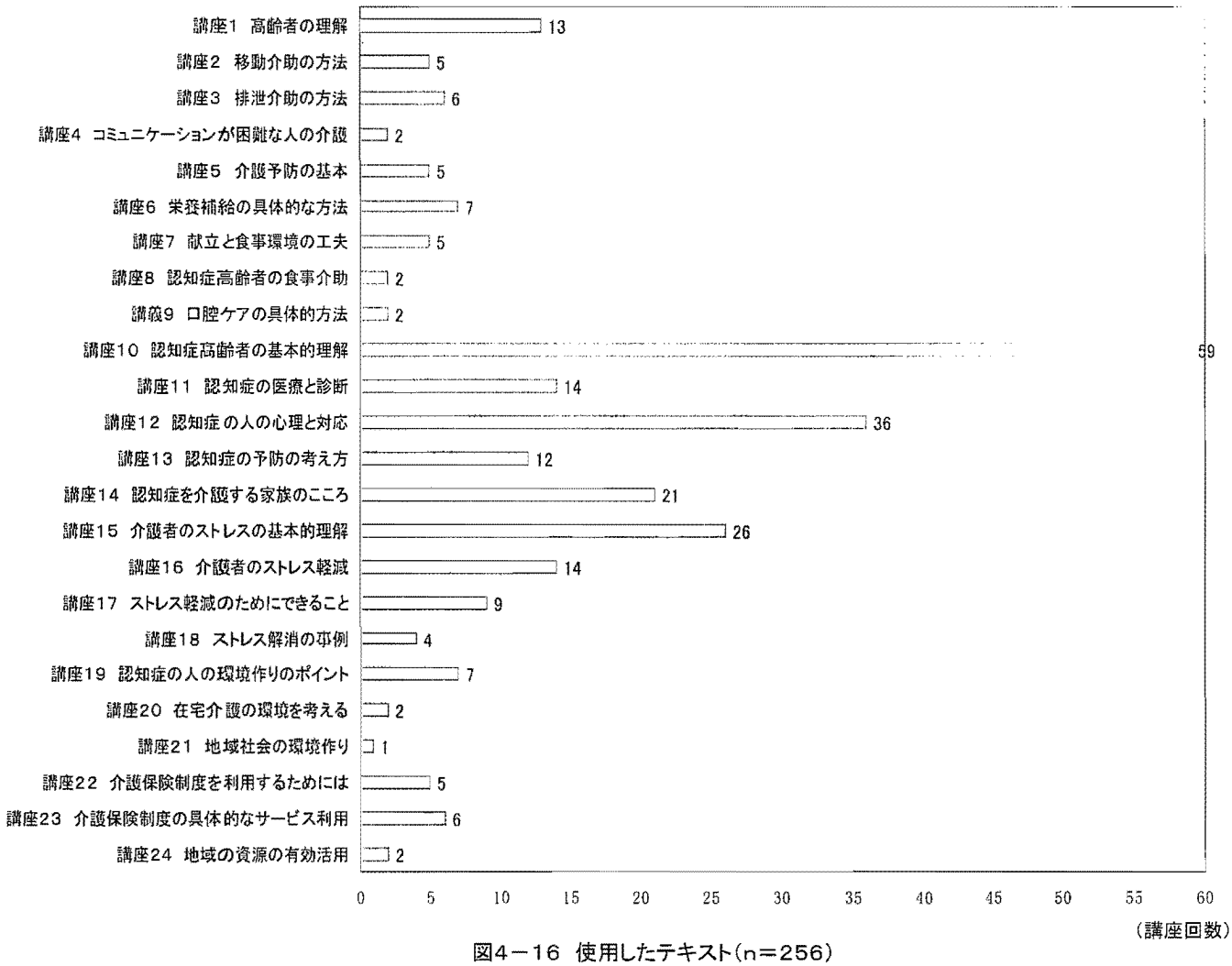


図4－16 使用したテキスト(n＝256)

講座を実施する際にテキストのどの部分を活用し実施したかを明らかにし、普及版テキスト作成の際の参考資料を得ることと、テキストの活用度を明にすることを目的に、全２５６講座について使用したテキストについて回答を得た。

結果、「認知症高齢者の理解」が５９講座ともっとも多く、次いで「認知症の人の心理と対応」３６講座、「介護者のストレスの基本的理解」２６講座、「認知症を介護する家族のこころ」２１講座、と続いた。このことから、認知症に関する項目の使用頻度が高いことが示された。

6）テキストの使用方法（講義部分）

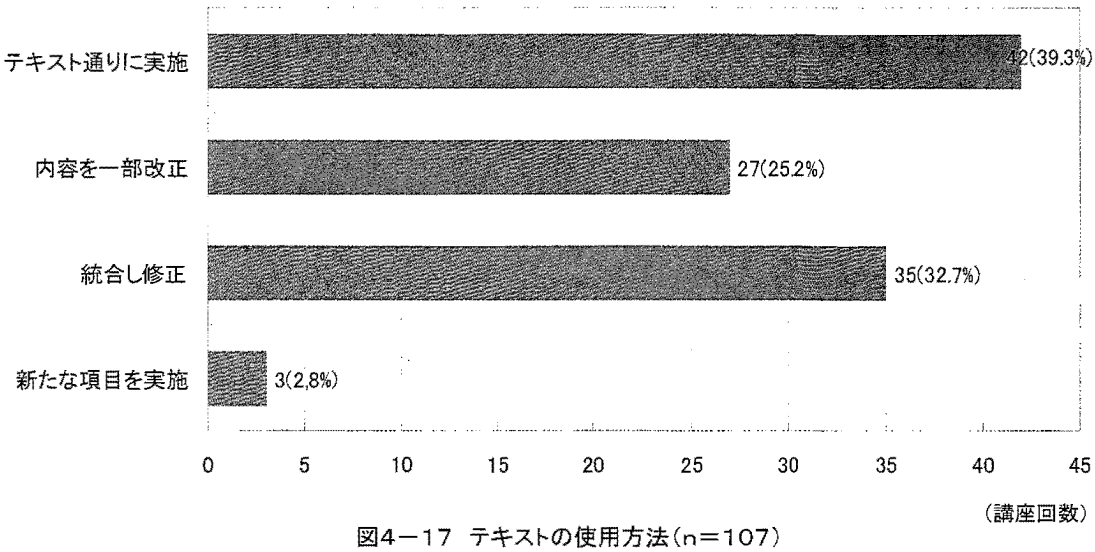


図4－17 テキストの使用方法(n＝107)

本事業で作成し配布した、実施テキストの実用性を評価することを目的に、テキストの講義部分の使用方法について回答を得た。結果、１０７講座中、４２講座（３９．３％）が「テキスト通り実施」と回答し、「統合し修正」が３５講座（３２．７％）、「内容を一部改正」が２７講座（２５．２％）であった。「新たな項目を実施」が３講座（２．８％）であったことからも、実用性の高さが示された。

7）テキストの使用方法（演習部分）

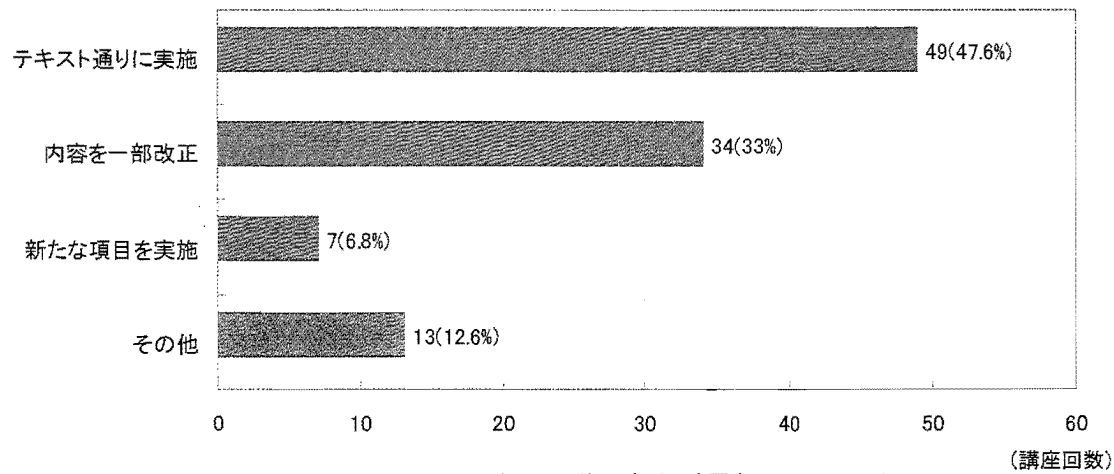


図4－18 テキストの使用方法:演習部分(n＝103)

実施テキストの演習部分の実用性を評価することを目的に、その使用方法について回答を得た。結果、１０３講座中、「テキスト通りに実施」が４９講座（４７．６％）と回答し、「内容を一部修正」３４講座（３３％）、「新たな項目を実施」７講座（６．８％）であった。これらから、教育支援プログラムの中心的な内容である演習部分についても実用性の

高さが示された。

8）まとめ

講座の参加者の講座に対する評価をまとめると以下のようになる。

①今回の教育支援プログラム実施テキストの実用・有用性ならびに事業評価の結果では、今年度実施事業所は、１９３事業所であり、３６６回の講座が全国で実施され、延べ7，２５１名の参加者であった。

②講座の講師担当者の属性から、教育支援プログラム実施テキストの有用性を検討したところ、8割以上の事業所で講師を自施設・事業所で充足しており、さらに様々な職種の職員が担当していることからも、講師育成という視点からの有用性を確認することができた。

③教育支援プログラム実施テキストの活用度については、認知症に関連する内容の活用度が高いことから認知症に関する実施テキストのより充実が求められる。

④講義および講座のテキストの使用方法から、その実用性を検討すると、4割以上がそのまま活用し、講座の統合や一部修正などで8割以上実施されていることから実用性は高いといえる。

第５章　教育支援プログラムの効果測定

１．評価の目的

本事業で開発及び普及を行っている教育支援プログラムは、参加する介護家族と施設職員および地域住民に対して、参加による介護の直接的または間接的な効果をもたらすことを期待している。過去２年間の事業においても、それぞれ参加による効果が認められてきた。初年度においては、家族の介護ストレッサーへの対処スタイルの肯定的な変容と介護負担感の軽減が認められた。２年目は、全国的にモデル事業を展開することによって、さらに拡大したサンプルを対象とすることによって、対象者介護負担感の軽減と介護の自律的行動の向上に影響があることが明らかになった。同様に施設職員についても複数年の調査によって、介護負担感およびバーンアウト傾向へ良好な働きかけが可能であることが明らかになってきた。

こうした効果は、介護家族にとっては、自らの介護体験を話し、介護場面をふり返る場の獲得と、講座によって職員との会話の中での学びや気づき、そして介護サービス利用への安心感へと繋がっている。また、施設職員においても、介護家族と同じ場で同じテーマでディスカッションをすることによって、家族との関係づくりの場になったり、または在宅での高齢者の様子を聞く機会になったり、あるいは高齢者の背景を知る機会になっている。

今年度は、過去２年で実施した内容を中心に確認の意味も含め、介護家族の介護負担感、介護の自律性を測定し、より主観的な部分にも踏み込んで聞いていく。施設職員については、対照群を設定し、参加による効果を比較し、バーンアウトではなく職員の業務としての介護の動機付けにつながる自己効力感（セルフエフィカシー）に焦点をあてて測定を試みた。これらの効果測定をおこなうことによって、継続的なそれぞれの介護質向上への取り組みに繋がる展開方法を検討することが目的である。

２．方法

対象者は、今年度教育支援プログラムに基づく相互参加型介護講座を実施した２０７施設・事業所が実施する講座に参加した、介護家族、施設職員、地域住民である。

期間は、平成１９年１０月から、講座実施計画書にて今年度実施の意思表示をした事業所に実施テキストと調査票を同封して配布した。

手続きは、それぞれ講座開始前に事前調査票を配布し、同意が得られた参加者に記入を依頼した。また、全講座修了後には事後調査票を配布し同じく記入を依頼した。質問紙は事前事後の比較を行うために自己記入式の記名でおこなった。

施設職員の対照群は、来年度以降に実施するという意思表示をした事業所を対象に依頼した。なお、回収は、施設職員２，９３２名、介護家族１，５５９名であった。

3．介護家族の参加による効果（結果）

1）介護家族の属性

表5－1　教育支援プログラム参加者(介護家族)基本属性

		事前		事後	
参加者年齢		65.42±11.52		65.51±11.35	
参加者性別	男性	344 名	(23%)	233 名	(24%)
	女性	1139 名	(77%)	738 名	(76%)
	計	1483 名		971 名	
要介護者の有無					
	あり	465 名	(33%)	317 名	(35%)
	なし	615 名	(43%)	329 名	(36%)
	以前していた	337 名	(24%)	270 名	(29%)
	計	1417 名		916 名	
サービスの満足度					
	満足	439 名	(75%)	525 名	(76%)
	どちらかといえば満足	137 名	(24%)	159 名	(23%)
	どちらかといえば不満	5 名	(1%)	4 名	(1%)
	不満	1 名	(0%)	1 名	(0%)
	計	582 名		689 名	
利用しているサービス(複数回答)					
	ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ、ﾃﾞｲｹｱ	329 名	(42%)	378 名	(45%)
	ショートステイ	159 名	(21%)	172 名	(20%)
	訪問系サービス	50 名	(6%)	66 名	(8%)
	長期入所	253 名	(33%)	289 名	(34%)
	その他のサービス	18 名	(2%)	27 名	(3%)
	利用していない	180 名	(23%)	158 名	(19%)

介護家族の属性を表５－１に示した。平均年齢は、６５歳を越えており、女性が７割以上であることから介護者の身体的負担感の大きさが推測される。要介護者の有無では、現在介護をしているまたは、以前していた参加者が６割程度でまったく介護経験の無い参加者が４割いる。サービス満足度については、９割以上が満足していることからも、施設や事業所についての肯定的な認識を持っていると言える。サービスについては、在宅やショートステイの利用が多く、長期入所は３割と少ない傾向にある。

2）これまでの介護講座への参加

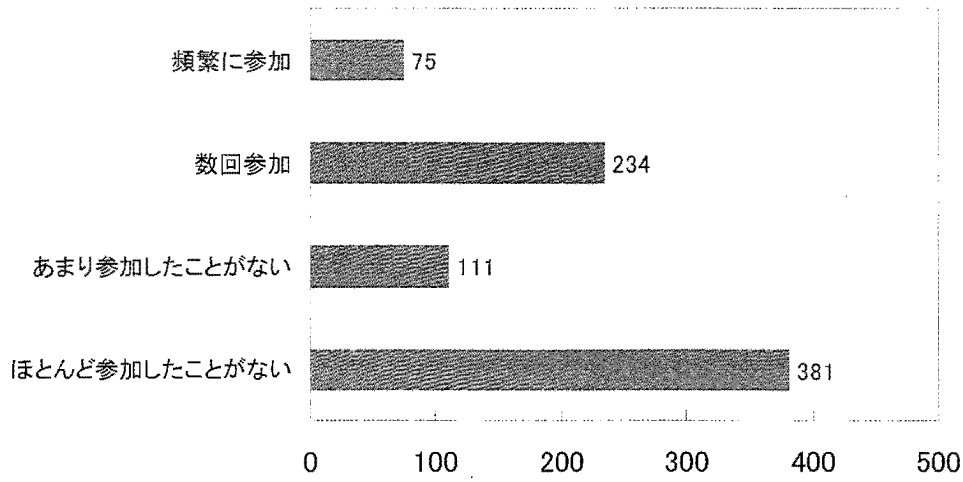


図5－1　過去の介護講座の参加（N＝801）

「これまでに、行政や他の団体が主催する介護講座に参加したことがあるか」という質問については、「ほとんど参加したことがない」が３８１名でもっとも多く、次いで「数回参加」２３４名と続いた（図５－１）。このことから本事業に参加した家族は、介護について学ぶ機会は少なかったことが伺える。

3）参加した講座の内容

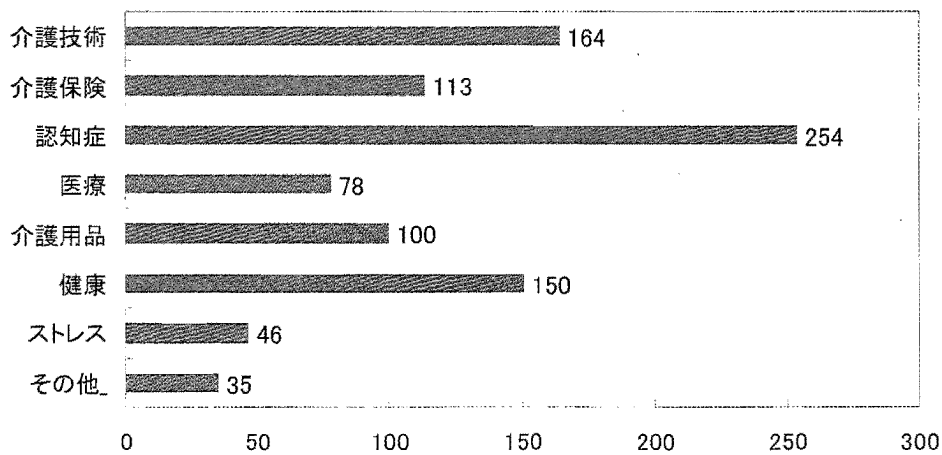


図5－2　過去に受けた介護講座の内容（N＝941）

「過去に受けた講座の内容」という質問については、「認知症」が２５４名もっとも多く、次いで「介護技術」１６４名、「健康」が１５０名、「介護保険」が１１３名と続いた（図５－２）。認知症に関する講座は回数も多く参加する機会が増えていることを踏まえても多い割合でありニーズも高い。

4）施設職員とのコミュニケーション

(1)施設職員とのコミュニケーション

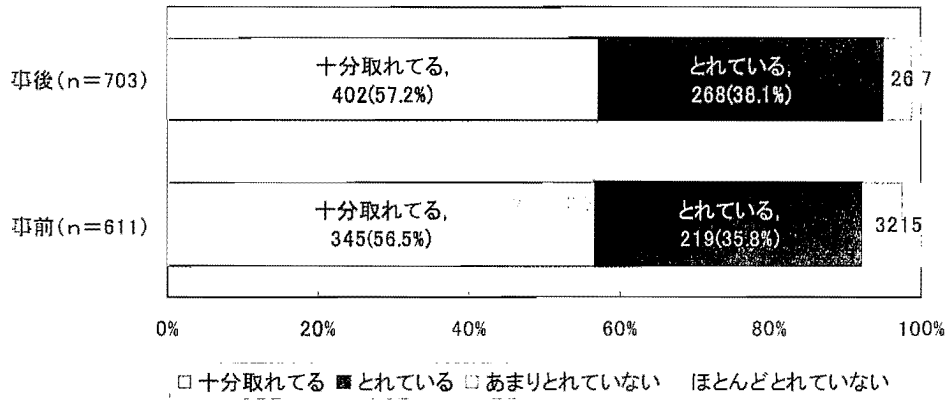


図5－3 施設職員とのコミュニケーション

図５－３は、「利用している施設職員とのコミュニケーションは十分か」を講座参加の事前と事後を比較したものである。事前、事後いずれも「十分にとれている」がもっとも多い回答であった。事後ではわずかであるが「とれている」「十分とれている」という回答が増加していることが示された。

②相談できる職員の数

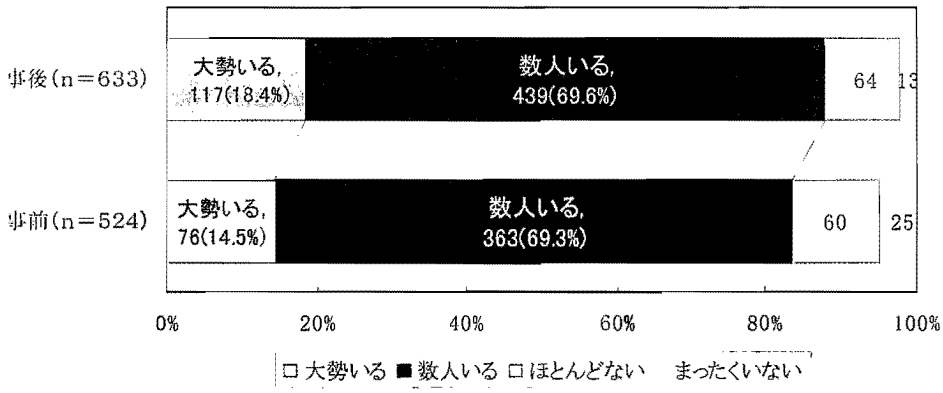


図5－4 相談できる職員の数

図５－４は、「利用している施設の職員で在宅介護のことで相談できる職員はいるか」を講座参加の事前と事後で比較し示した。事前、事後の比較では、事後の回答で「大勢いる」が１１７名（１８．４%）で増加していることが示された。参加によって相談できる職員が増加したことが明らかになった。

③職員への相談希望

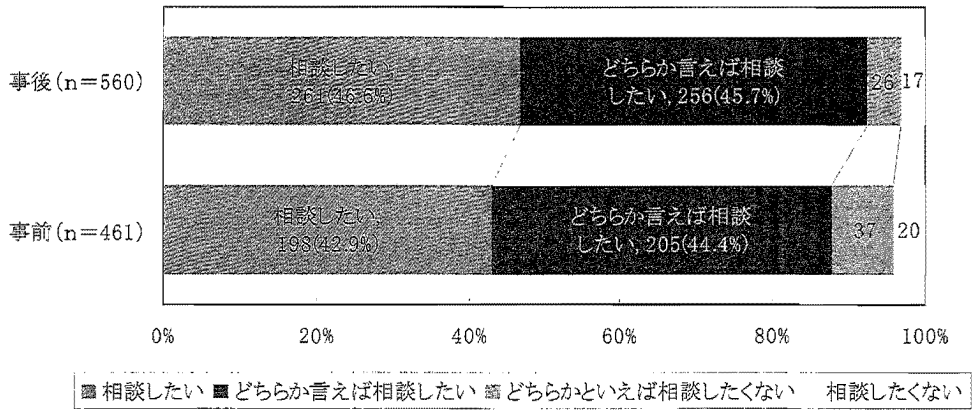


図5－5 職員への相談希望

図５－５は、「利用している施設の職員と在宅介護のことについて相談したいと思うか」について、講座参加の事前と事後で比較し示した。事前より事後のほうが「相談したい」２６１名（４６．６％）、「どちらかといえば相談したい」２５６名（４５．７％）がそれぞれ増加しており、講座参加により職員に相談したいと思う介護家族が多くなることが明らかになった。

④他の家族との会話希望

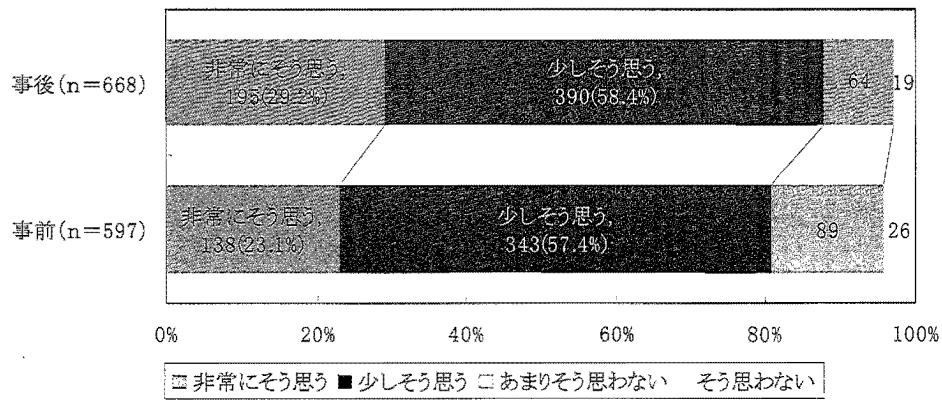


図5－6 他の家族との会話希望

図５－６は「介護サービスを利用する他の家族と介護について会話をしたいと思うか」について、講座参加の事前と事後で比較し示した。事前より事後のほうが、「非常にそう思う」１９５名（２９．２％）、「少しそう思う」３９０名（５８．４％）がそれぞれ増加しており、講座に参加することによって他の家族との会話意欲が増加して

いることが明らかになった。

⑤他の家族との会話内容

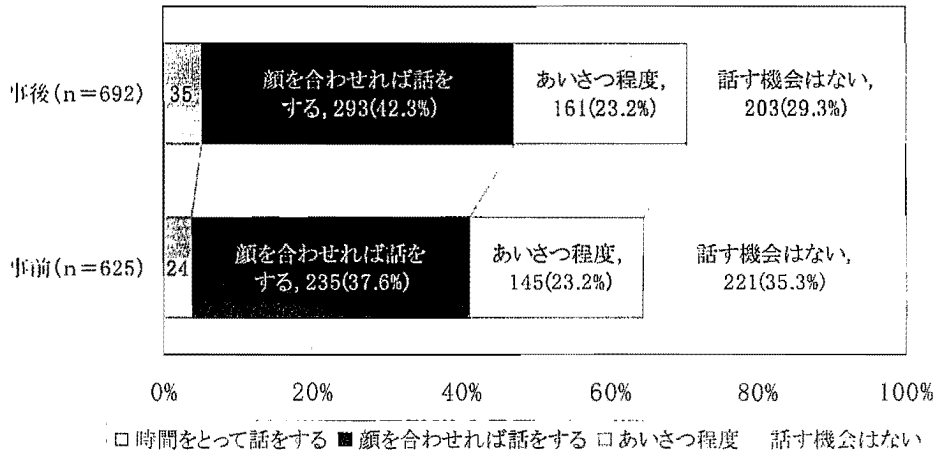


図5－7 他の家族との会話希望

図５－７は、「介護サービスを利用されている他の家族と話をすることはあるか」について、講座参加の事前と事後で比較し示した。事前より事後のほうが「話す機会はない」２０３名（２９．３％）で減少し、「顔を合わせれば話をする」２９３名（４２．３％）で増加していることから、講座参加によって、他の家族との会話に対して意欲的になっていることが明らかになった。

5）介護負担尺度得点の比較

表5－2 Zarit－8日本語短縮版介護負担尺度得点の比較

項目	事前	事後
1 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか	1.87±1.28	1.75±1.19
2 介護を受けている方のそばにいると腹が立つことがありますか	1.27±1.13	1.24±1.09
3 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	1.03±1.22	0.98±1.13
4 介護を受けている方のそばにいると、気が休まらないと思いますか	1.46±1.29	1.36±1.21
5 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことはありますか	1.20±1.27	1.10±1.18
6 介護を受けている方が家にいるので、友達を家に呼びたくても呼べないと思ったことがありますか	1.02±1.31	0.96±1.22
7 介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	1.15±	1.09±1.15
8 介護を受けている方に対して、どうしていいか判らないと思うことはありますか	1.46±1.24	1.34±1.13
合計	10.47	10.02

介護家族の介護負担を測定するために、Ｚａｒｉｔ介護負担尺度日本語版（短縮版）〔Ｊ－ＺＢＩ８〕（荒井２００２）を使用して事前事後の比較をした。最高点は３２点で数値が大きくなるほど介護負担感が高いという解釈になる。

結果、事前調査では、１０．４７点であったのに対し、事後では１０．０２となったことから、講座参加による介護負担感の軽減の効果が示された。

これは、昨年同様の結果を得ている。

6）介護肯定評価尺度得点の比較

表5－3 介護肯定評価尺度得点の比較

項目		事前	事後
1	介護を義務からではなく望んでいる	2.55±0.88	2.45±0.87
2	介護をするのが楽しいと感じる	2.07±0.74	2.09±0.75
3	介護をするのが自分の生きがいになっている	2.09±2.13	2.13±0.84
4	介護をすることによって満足感が得られる	2.38±0.86	2.36±0.82
5	介護をすることによって相手と親密になったように感じる	2.62±0.87	2.61±0.88
6	介護のおかげで人間的に成長したと思う	2.80±0.86	2.80±0.85
7	介護をすることで学ぶことがたくさんある	3.21±0.75	3.20±0.76
8	介護をすることは、自分の老後のためになると思う	3.16±0.84	3.17±0.80
9	介護のおかげで難しい状況に対処する力など自信がついた	2.71±0.8.	2.76±0.79
10	介護を必要としている人が喜ぶのをみてうれしくなる	3.17±0.80	3.10±0.80
11	相手が介護に感謝したり、喜んでいると感じる	2.88±0.87	2.86±0.83
12	介護をしていて、逆に自分が元気づけられたり励まされたりする	2.61±0.90	2.69±0.84
合計		32.31	32.27

表５－３は介護肯定評価尺度（櫻井１９９９）から１２項目を使用し事前と事後を比較した。得点が高い方が介護をより肯定的に評価していると解釈する。最高点は４８点である。

結果、事前が３２．３１点で、事後が３２．２７点で参加による変化は見られなかった。

7）認知症介護の自律性尺度得点の比較（家族）

表5－4認知症介護の自律性尺度得点の比較

	項目	事前		事後	
		得点	SD	得点	SD
1	認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	2.72	0.85	2.81	0.81
2	その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	2.55	0.87	2.68	0.80
3	その人の環境の変化の影響を予測することができる	2.53	0.89	2.64	0.82
4	その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	2.76	0.78	2.79	0.76
5	これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	2.76	0.85	2.83	0.79
6	現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	2.86	0.80	2.85	0.75
7	突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	2.48	0.84	2.60	0.79
8	その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	2.63	0.88	2.72	0.81
9	認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	2.47	0.89	2.53	0.84
10	その人が出来る事を推測する事ができる	2.70	0.84	2.72	0.79
11	その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	2.66	0.83	2.81	1.84
12	１日や１週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	2.64	0.87	2.72	0.79
13	その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	2.57	0.83	2.66	0.76
14	その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	2.78	0.84	2.78	0.80
15	訴えを受け入れる事ができる	2.76	0.79	2.81	0.74
16	その人の現状と感情が一致しないときを知っている	2.70	0.83	2.78	0.78
17	突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	2.51	0.81	2.62	0.80
18	様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	2.74	0.81	2.78	0.77
19	その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	2.58	0.85	2.70	0.77
	合計	50.4		51.84	

表５－４は、認知症介護の自律性尺度得点を講座の参加の前後で比較した。得点が高い方が認知症介護の様々な突発的な場面で対応し行動に移せると解釈する。最高点は７６点である。結果、事前が５０．４点で、事後が５１．８４点で講座参加後のほうが自律的な行動ができるということが示された。

8）介護家族の効果測定結果まとめ

相互参加型講座に参加した、家族の特性ならびに効果測定の結果を以下にまとめた。

①介護家族の属性は、利用しているサービスや施設に対して肯定的に捉えており、利用サービスはショートステイやデイサービスなどが多く、在宅介護を実際にしている家族が多い。また、今回以外の介護講座に参加したことのある家族は少なく、参加しやすい雰囲気だったことが伺える。

②介護家族は、講座に参加することによって、職員とのコミュニケーションが良好になることが明らかになった。施設職員の相談相手が増加し、相談意欲も向上することが今回の結果から示唆された。

③家族間のコミュニケーションも円滑になり、これまであいさつ程度であったが、顔を合わせると積極的に会話をするようになっている。

④介護負担感については、若干ではあるが軽減する効果がみられている。

⑤認知症介護の自律的対応、行動についてもわずかではあるが向上が見られる。こうした技術が伴う内容については、今回の講座で効果を示すのは難しく、より専門的な内容が必要になると思われる。

⑥介護の肯定的評価についてはほとんど変化が見られなかった。

4．施設職員の参加による効果（結果）

1）施設職員の属性

表5－5施設職員の属性

		対照群		事前のみ		事後のみ		事前事後群	
平均年齢		36.67±11.67		38.86±11.95		39.91±11.67		39.91±12.06	
			%		%		%		%
性別	女性	1,279名	74.8	233名	72.4	407名	72.9	247名	75.3
	男性	430名	25.2	89名	27.6	151名	27.1	81名	24.7
	計	1709名		322名		558名		328名	
事業所	特養	833名	49.2	70名	22.0	131名	24.1	111名	34.2
	老健	469名	27.7	121名	38.1	182名	33.5	85名	26.2
	療養型	1名	0.1	0名	0.0	1名	0.2	0名	0.0
	病院	33名	2.0	2名	0.6	2名	0.4	3名	0.9
	GH	35名	2.1	22名	6.9	46名	8.5	25名	7.7
	包括センター	37名	2.2	15名	4.7	23名	4.2	9名	2.8
	在介	20名	1.2	15名	4.7	33名	6.1	23名	7.1
	デイサービス	113名	6.7	19名	6.0	58名	10.7	28名	8.6
	ヘルパーステーション	39名	2.3	13名	4.1	17名	3.1	7名	2.2
	訪問看護ステーション	3名	0.2	2名	0.6	2名	0.4	3名	0.9
	小規模多機能	2名	0.1	5名	1.6	5名	0.9	3名	0.9
	研修期間	3名	0.2	0名	0.0	1名	0.2	0名	0.0
	その他	104名	6.1	34名	10.7	42名	7.7	28名	8.6
	計	1692名		318名		543名		325名	
職種	介護主任	146名	8.6	29名	9.3	63名	12.0	35名	10.9
	介護職員	999名	59.1	110名	35.3	182名	34.6	110名	34.3
	ケアマネ	129名	7.6	57名	18.3	103名	19.6	66名	20.6
	PT/OT	32名	1.9	15名	4.8	1名	3.6	8名	2.5
	ヘルパー	52名	3.1	11名	3.5	20名	3.8	11名	3.4
	看護主任	31名	1.8	6名	1.9	51名	9.7	10名	3.1
	看護師	142名	8.4	26名	8.3	13名	2.5	18名	5.6
	保健師	2名	0.1	0名	0.0	74名	14.1	2名	0.6
	研修機関職員	2名	0.1	0名	0.0	0名	0.0	1名	0.3
	その他	154名	9.1	58名	18.6	1名	0.2	60名	18.7
	計	1689名		312名		526名		321名	
参加形態	講座参加者			194名	70.0	19名	90.5	203名	63.6
	講座企画者			83名	30.0	2名	9.5	116名	36.4
	計			277名		21名		319名	

表５－５では、施設職員の属性を示した。平均年齢は、対照群（36.6 歳）がもっとも若く、他の群は３９歳前後でほぼ同じ年齢層であった。性別は、すべての群で７割が女性で３割が男性という割合であった。事業所別では対照群と事前事後群は特別養護老人ホームがもっとも多く、事前のみ、事後のみ群は老人保健施設の割合が多かった。職種では、すべての群において介護職員が多かった。

２）講座参加回数

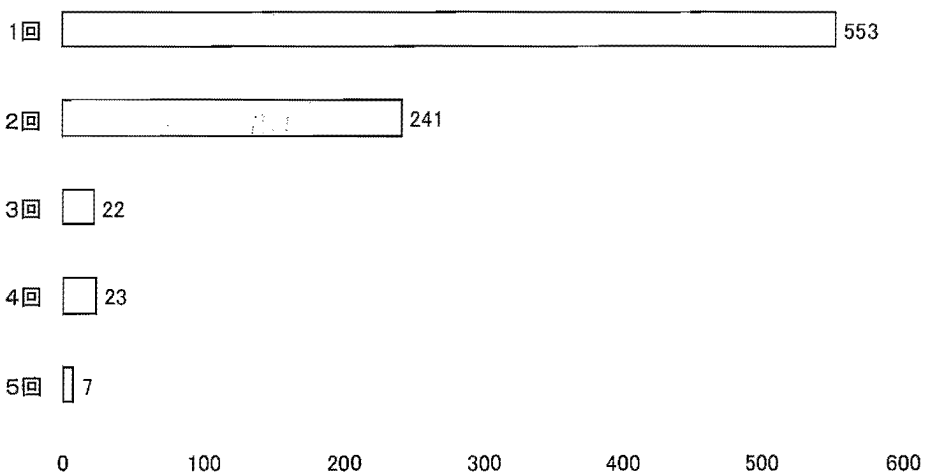


図５－８ 講座参加回数

図５－８は講座参加回数を示した。「１回」が５５３名でもっとも多く、次いで「２回」で２４１名であった。今年度の講座の開始時期と回数制限を行っていないために回数は少ない。

3）家族とのコミュニケーション

①家族との話す機会

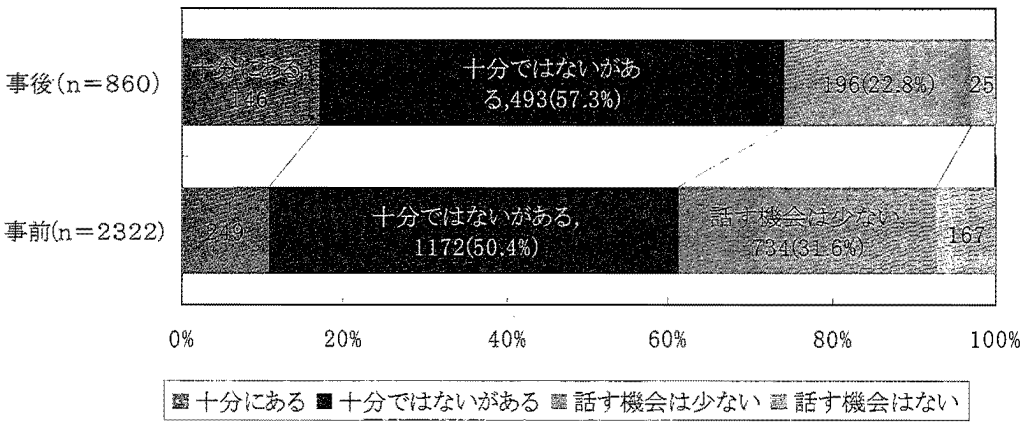


図5－9　家族と話す機会

図５－９は、「施設サービスを利用している家族と話す機会はどの程度あるか」について、講座参加の事前、事後を比較し示した。事前より事後の法が「話す機会は少ない」１９６名（２２．８％）が減少し、「十分ではないがある」４９３名（５７．３％）の割合が増加していることから、講座参加によって話す機会が増加していることが明らかになった。

②家族との情報交換の必要性

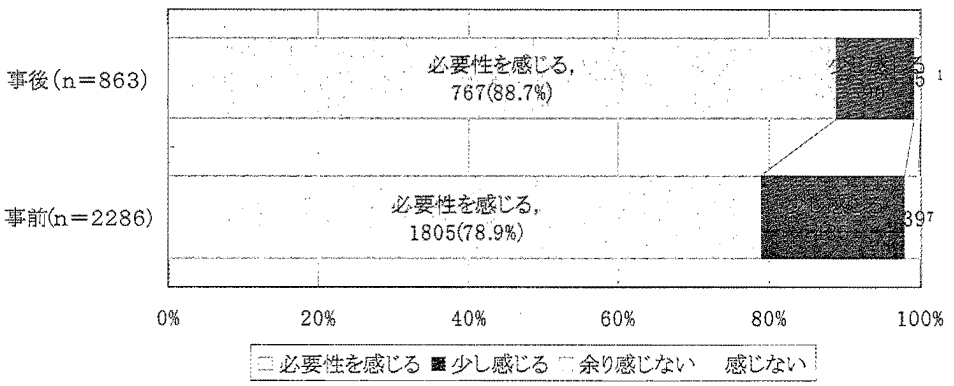


図5－10　家族との情報交換の必要性

図５－１０は、「家族と介護に関する話をしたり情報交換の必要性を感じるか」について、講座参加の事前と事後を比較し示した。事前よりも事後のほうが「必要性を感じる」７６７名（８８．７％）という回答の割合が高かったことから、参加によって家族との交流する意欲が高くなることが示された。

③スタッフ間の話し合いの機会

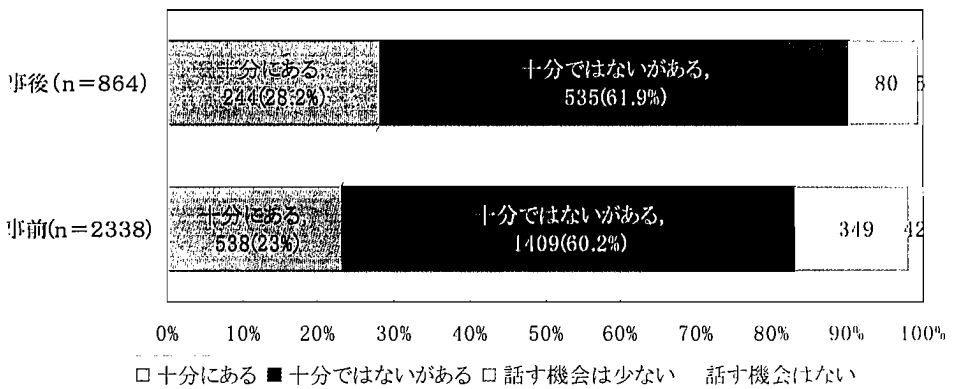


図5－11　スタッフ間の話し合いの機会

図５－１１は、「同じ職場のスタッフと介護について話し合いをする機会は十分にあるか」について、講座参加の事前と事後で比較した。事前よりも事後のほうが「十分にある」２４４名（２８．２%）の割合が増加していることからも講座参加によって職員間のコミュニケーション頻度も増加していることが示された。

4）職員の主観的職場内ストレスの事前事後比較

①介護上の精神的負担

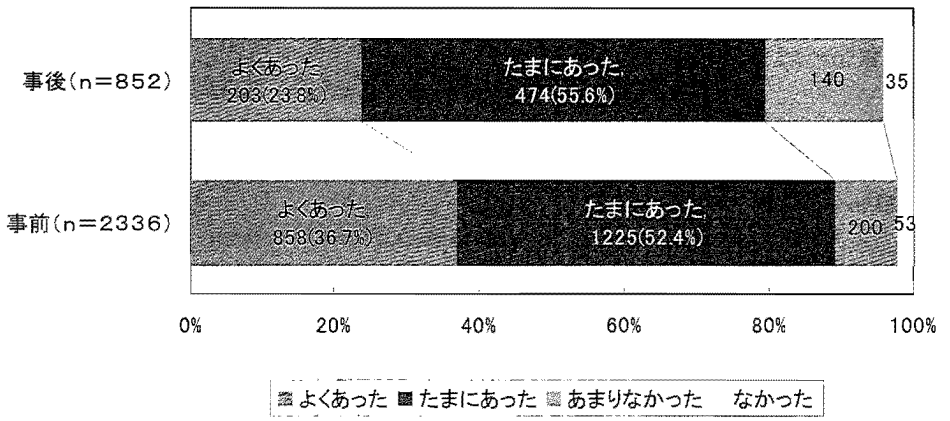


図5－12 介護上の精神的負担

図５－１２は、「介護をする上で精神的な負担を感じることはありましたか」について、講座参加前後で比較をしたところ、事前のほうが、「よくあった」８５８名（３６．７％）が事後よりも多く、講座に参加する前のほうが負担感を感じている人の割会が高かった。このことから、講座には介護の負担感が軽減する可能性がある。

②利用者との関係での負担感

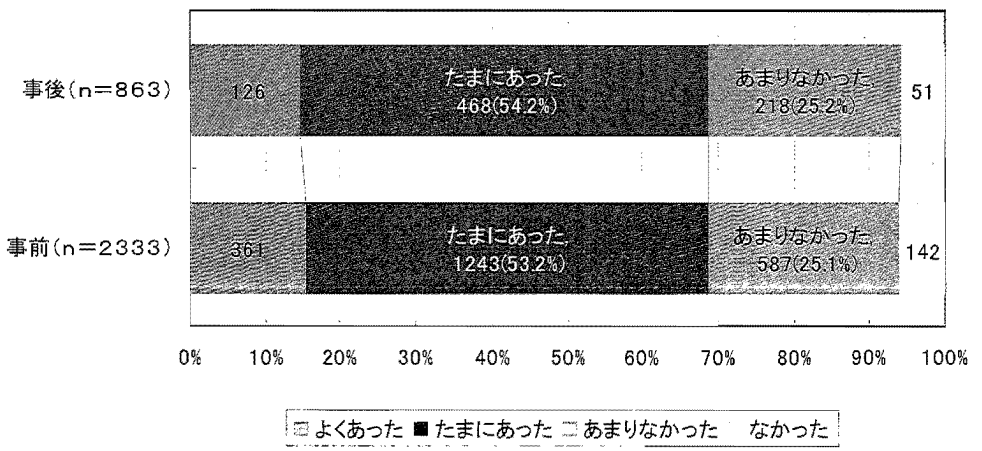


図5－13 利用者との関係での負担感

図５－１３は、「離礁者との関係やコミュニケーションで精神的な負担を感じることはあったか」について、時講座参加の事前と事後で比較したものである。
事前も事後もほとんど変化がないことが示された。

③上司との関係での負担感

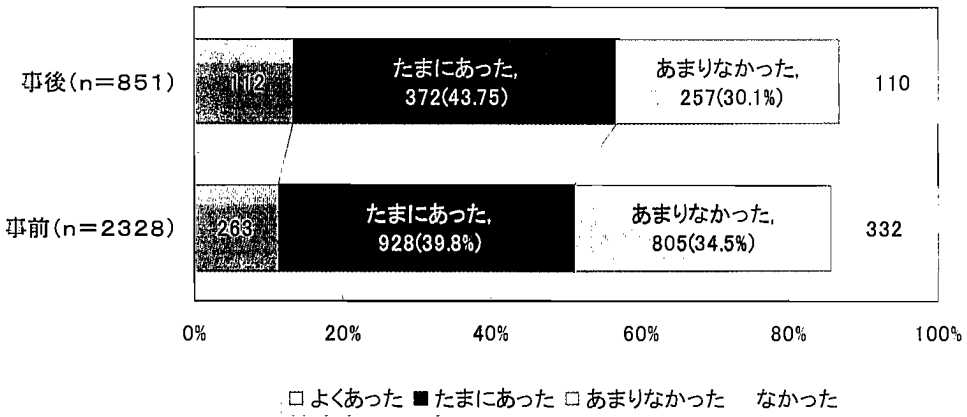


図5－14 上司との関係での負担感

図５－１４は、「上司との関係で精神的負担感を感じることはあったか」について、講座参加の事前と事後で比較をした。事前よりも事後のほうが「あまりなかった」２５７名（３０．１%）、が減少し、「たまにあった」３７２名（４３．７%）が増加していることから、参加によって上司との関係性が負担に感じている人が多くなっていることが示された。

④同僚との関係での負担感

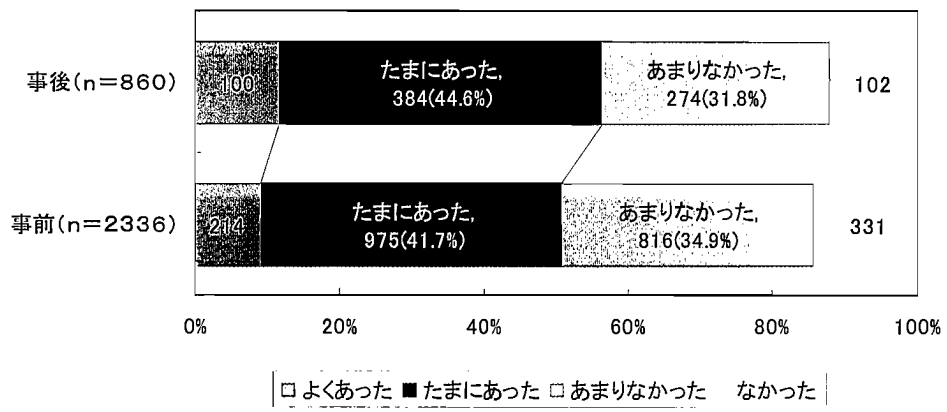


図5－15 同僚との関係での負担感

図５－１５は、「同僚との関係で精神的な負担感を感じることはあったか」について、講座参加の事前の事後で比較を行った。事前より事後のほうが、「たまにあった」３８４名（４４．６５）が増加し、「あまりなかった」２７４名（３１．８%）で減少していることから、参加によって同僚との関係での負担感が増加していることが示された。

⑤勤務時間等の負担感

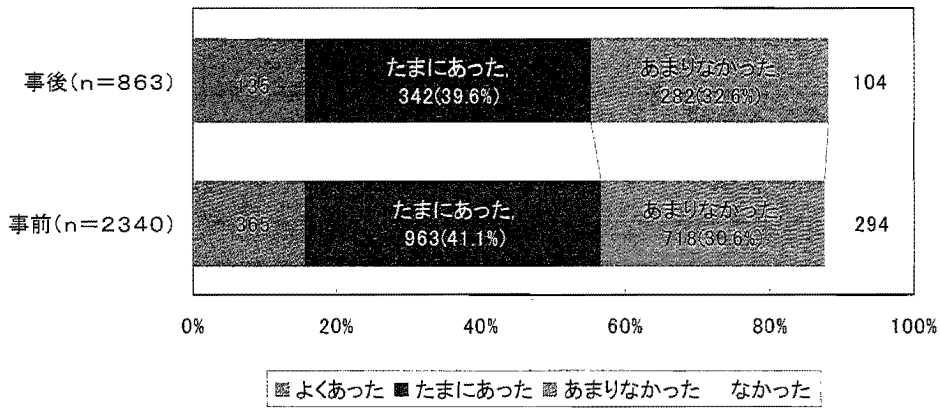


図5－16 勤務時間等での負担感

図５－１６は、「勤務時間や休みについて精神的な負担感を感じることはあったか」について、講座参加の事前と事後で比較を行った。各項目の割合で大きな違いがないことが示された。

5）認知症介護の自律性尺度得点の比較（職員）

表5－6 認知症介護の自律性尺度得点の比較

	項目	事前		事後	
		得点	SD	得点	SD
1	認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	2.80	0.61	2.92	0.56
2	その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	2.67	0.62	2.83	0.58
3	その人の環境の変化の影響を予測することができる	2.68	0.63	2.81	0.61
4	その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	2.83	0.56	2.94	0.53
5	これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	2.53	0.64	2.69	0.62
6	現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	2.92	0.61	2.99	0.57
7	突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	2.64	0.64	2.73	0.62
8	その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	2.85	0.63	2.93	0.61
9	認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	2.61	0.72	2.82	0.69
10	その人が出来る事を推測する事ができる	2.81	0.59	2.91	0.57
11	その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	2.66	0.62	2.81	0.60
12	１日や１週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	2.64	0.66	2.80	0.60
13	その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	2.83	0.59	2.88	0.58
14	その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	2.67	0.67	2.81	0.63
15	訴えを受け入れる事ができる	3.02	0.60	3.07	0.59
16	その人の現状と感情が一致しないときを知っている	2.77	0.67	2.90	0.63
17	突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	2.64	0.66	2.76	0.66
18	様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	2.69	0.62	2.81	0.58
19	その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	2.70	0.64	2.82	0.63
	合計	51.96		54.21	

表５－６は、認知症介護の自律性尺度得点を講座の参加の前後で比較した。得点が高い方が認知症介護の様々な突発的な場面で対応し行動に移せると解釈する。最高点は７６点である。結果、事前が５１．９６点で、事後が５４．２１点で講座参加後のほうが自律的な行動ができるということが示された。

6）職員の自己効力感の評価の比較

表５－７　**自己効力感の比較**

項目		事前		事後	
		得点	ＳＤ	得点	ＳＤ
1	何か仕事をするときは、自信をもってやるほうである	0.52	0.50	0.55	0.50
2	過去の失敗やいやな経験を思い出して、暗い気持ちになるときがよくある	0.52	0.50	0.52	0.50
3	友人より優れた能力がある	0.17	0.38	0.18	0.38
4	仕事を終えた後、失敗したと感じることの方が多い	0.63	0.48	0.64	0.48
5	人と比べて心配性なほうである	0.35	0.48	0.39	0.49
6	何かを決めるとき、迷わずに決定するほうである	0.30	0.46	0.31	0.46
7	何かをするとき、うまくゆかないのではと不安になることのほうが多い	0.52	0.50	0.54	0.50
8	引っ込み思案なほうだと思う	0.46	0.50	0.50	0.50
9	人より記憶力がよいほうである	0.20	0.40	0.21	0.41
10	結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	0.53	0.50	0.58	0.49
11	どうやったらよいか決心がつかずに仕事に取りかかれないことがよくある	0.71	0.45	0.70	0.46
12	他の人より優れた能力がある	0.17	0.37	0.18	0.38
13	どんなことでも積極的にこなすほうである	0.38	0.49	0.44	0.50
14	小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	0.53	0.50	0.56	0.50
15	積極的に活動するのは、苦手なほうである	0.49	0.50	0.52	0.50
16	世の中に貢献できる力があると思う	0.43	0.49	0.52	0.50
合計		６．９		７．７３	

表５－７は、自己効力感評価尺度ＧＳＥＳ（坂野・東條１９８６）得点を講座参加の事前事後で比較した表である。得点が高い方が自己効力感を高く認知していると解釈される。最高点は１６点である。結果、講座の事前は６．９点であったのに対し、事後では７．７３点であったことから、講座に参加することにより自己効力感は向上することが示された。

7）施設職員の効果測定結果まとめ

相互参加型講座に参加した、職員の特性ならびに効果測定の結果の要点を以下にまとめた。

①施設職員の属性は、平均年齢は３９歳前後で、性別は７割が女性で３割が男性という割合であった。役職は介護職員が多い。

②講座に参加することによって、家族とのコミュニケーションの頻度が増加し、その必要性も感じるようになっている。また、同じ職場のスタッフ間のコミュニケーション頻度も向上している。

③介護負担の主観的評価では、参加による変化は見られず、職場ストレスはかえって増加する傾向がある。

④認知症介護の自律性の評価は、家族よりも向上することが明らかになった。この尺度は専門性や洞察力が必要な項目が多いことが要因として考えられる。

⑤自己効力感の評価尺度得点は参加することによって向上することが明らかになった。

5．講座の事後評価の介護家族と施設職員による比較

1）グループワークの発言評価×属性

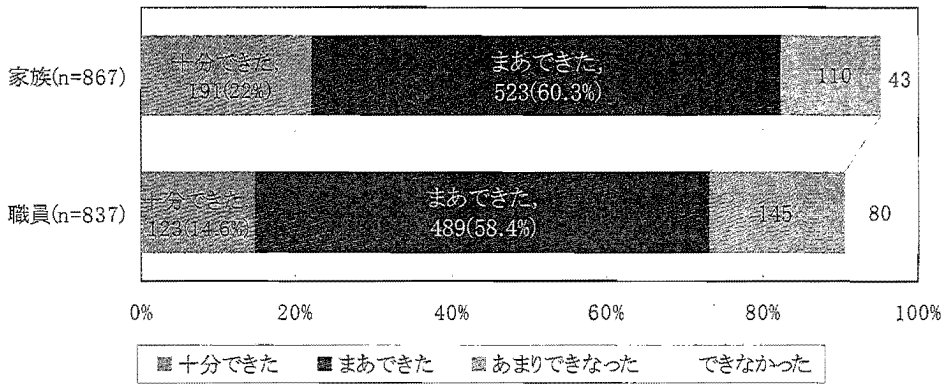


図5－17 グループワークの発言評価

図５－１７は、「講座内で実施されたグループワークをふり返りどの程度発言できたか」について、家族と施設職員で比較を行った。家族のほうが職員よりも「まあできた」５２３名（６０．３%）、「十分できた」１９１名（２２%）の比率が高い。このことから家族のほうが発言に対しての満足度が高いことが明らかになった。

2）講座全体の会話評価×属性

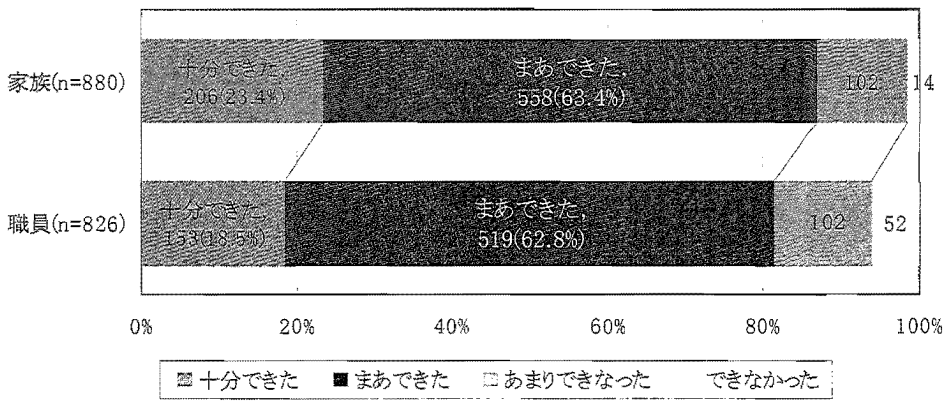


図5－18 講座全体の会話評価

図５－１８は、「講座全体をふり返り、参加した家族や地域住民とどの程度会話できたか」について、家族と施設職員の比較を行った。家族のほうが職員よりも「まあできた」５５８名（６３．４%）、「十分できた」２０６名（２３．４%）で比率が高く、家族の発言数と満足度の高さが示された。

3）グループワークの満足度×属性

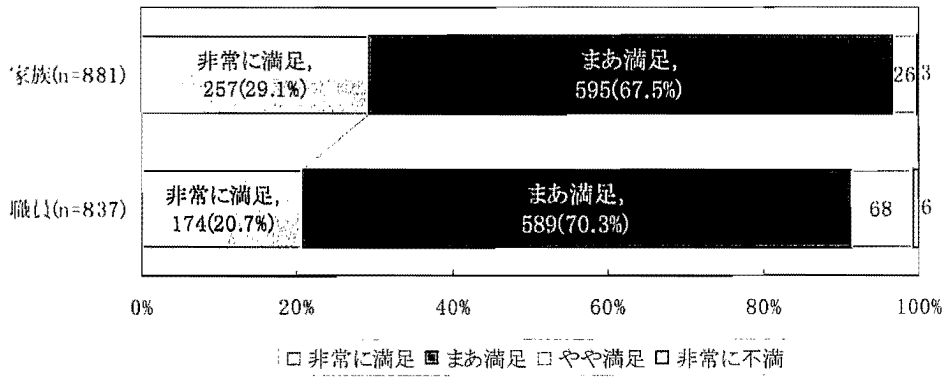


図5－19 グループワークの満足度

図５－１９は、「グループワークをふり返り発言の程度に限らずに満足度は」について、家族と職員の比較を行った。結果、属性に限らず満足度は非常に高く９割を越える参加者が「まあ満足」もしくは「非常に満足」と回答している。特に家族の満足度が高いことが示された。

4）今後の活用度×属性

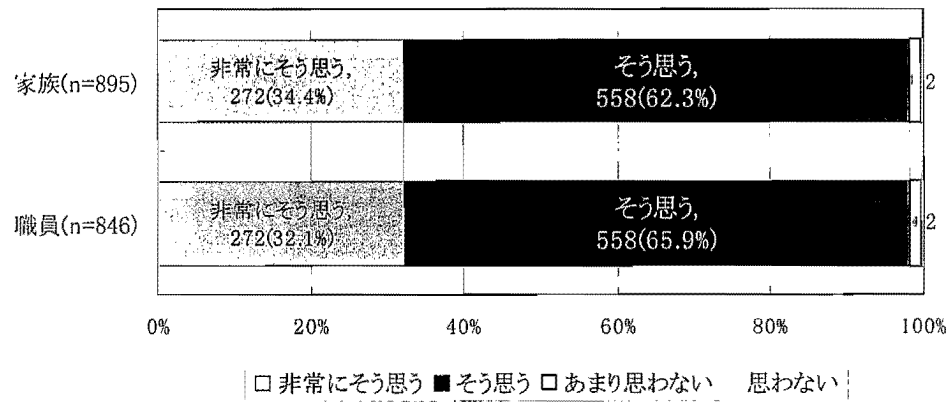


図5－20 今後の活用度

図５－２０は、「この講座は、今後の仕事や介護に生かせる内容だった」について、家族と職員の比較を行った。家族も施設職員も属性にかかわらず非常に高い評価であった。

5）講座全体の事後評価のまとめ

相互参加型講座の事後評価の要点を以下にまとめた。

①教育支援プログラムの中心となるグループワークの発言や参加への満足度はいずれも高いが、特に家族の満足度は高いことから、家族支援という視点では非常に効果的である。

②今後の活用度は職員、家族の属性にかかわらず９割以上の参加者が今後の介護や業務に活用できると評価している。

第６章　本事業の成果

本事業は、認知症高齢者を在宅で介護する家族に対する専門的知識・技術の向上と在宅介護サービス提供施設・事業所の介護の質向上をはかるために、在宅の介護家族とサービス提供事業所の介護職員相互参加型の介護講座を開催し、その結果をもとに効果的な介護者教育支援プログラムを開発し、認知症介護研究研修センター（仙台・東京・大府）を拠点に広く全国に普及させていくことを目的として実施した。

本事業の成果に対する評価は、認知症高齢者を在宅で介護する家族の介護の負担の軽減、及び介護技術の向上に寄与することであるが、それはひいては認知症になっても尊厳が保持され、健康で安心感のある生活がどの程度実現したかを評価することが求められる。こうした視点で評価をするために即時的な効果測定をおこなうことは現段階では困難である。

そこで、本事業の成果については、事業目的の達成度から「全国への普及」、「参加者の評価」、「効果測定」、「３年間の成果」について以下に記載する。

１）全国への普及

過去２年間で開発し、一定の有用性、有効性が検証された教育支援プログラムに基づく相互参加型介護講座を、多くの地域の施設・事業所で実施を目指し、全国１２カ所、１３回の普及研修会を開催した。普及研修会には、４７都道府県すべてから参加し５６２施設・事業所の参加と８０２名が参加し、相互参加型介護講座の意義を理解し、実施に向けて前向きな姿勢を表明した。年度途中の普及研修会であったために、今年度の実施は１９３カ所であったが、来年度以降の事業計画に取り入れるという施設・事業所は１９７カ所で、合計すると４９０カ所にのぼり、研修会に参加した７１％が実施することになる。

さらに、実施を支援するためのＷＥＢサイト「ケアケア.com」の閲覧者数は１５３，４７３名であり、講座実施に必要な講義資料ダウンロード数は３２，２５４件あったことからも研修会参加者以外の人も多くこのサイトに訪れ、事業に関心を示していたことが推察される。

また、１９３カ所で実施された講座の延べ講座回数は３６６回、参加者の延べ人数は、介護家族２，１５１名、施設職員２，３６６名、地域住民１，８６７名、講座企画運営者８６７名、合計で７，２５１名がこの講座にかかわっていた（２月２９日時点で確認できた施設・事業所からの報告）。参加した事業所は、特別養護老人ホーム、

老人保健施設、グループホーム、デイサービス、地域包括支援センター、社会福祉協議会など多様な事業所であった。

以上のことから全国への普及効果は十分に評価できるのではないかと考えている。

2）参加者の評価

普及研修会に参加し、今年度相互参加型介護講座を実施した施設・事業所に関しては、実施の際に終了後に参加者に所定の評価表への記入を依頼した。評価表への記入は、施設職員が２，９３２名、介護家族１，５５９名の協力が得られ、満足度、関心度、理解度、期待度、資料充実度すべての項目において９割以上肯定的な評価であった。そして、「今後介護に活用できそうである」という質問には、家族、職員の属性に関わらず９割以上が活用できると回答していた。

また、自由記述には、介護家族からは「参加してみてよかったので、今後も是非続けて欲しい」、「参考になりました、明日から開けてきた気がします」、「みんさんで楽しく学べたことがよかった」、「同じ思いをしている人と話ができてうれしかった」等の意見があがっており、施設職員からは「地域の人の考えていることがわかった」、「家族の気持ちを理解するという意味でも貴重な時間だった」、「話し合いでいろいろな立場の人がいることがわかりました。これからの参考にしていきたい」、「交流の大切さは次に繋げることができるから」「家族・地域の方を交えてディスカッションが出来て楽しかったです。普段のように専門的な方との勉強会だけじゃなくて地域の方の生の声が聞けて良かった。」 などの意見や感想がだされた。一方では、「時間が短すぎた」、「アンケートが多すぎる」、「定期的開催をお願いしたい。介護にいっぱいいっぱいの人ほど話に来れない。その方にどういう支援をしたらいいのか。」という提言や意見もだされていた。

以上のことから、参加した家族、職員にとって非常に学びが多く継続的な開催を望む声が多く、介護家族と施設職員との距離を近くすることができる講座であると評価できる。

3）効果測定

相互参加型介護講座に参加した介護家族、施設職員それぞれにどのような効果があったかを、客観的な指標を用いて効果を測定するために、いくつかの尺度を用いて測定を試みた。データの収集方法は、講座を実施した施設・事業所に依頼し、調査票を参加者に初回講座受講時に記入、そして最終回の講座修了後に再度配布回収の協力を得て実施した。質問紙の項目は、介護家族は、属性、施設職員とのコミュニケーション、家族間のコミュニケーション、介護負担感尺度、介護肯定感評価尺度、介護自律性評価尺度で、施設職員には、属性、家族とのコミュニケーション、職員間のコミュニケーション、業務ストレス、自己効力感、介護自律性尺度であった。これらの項目

は、過去２年間の事業でも測定している。結果は、今回もほとんどの項目で同様の結果が得られ、その効果があることが明らかになった。今回の特徴的な結果としては、家族では、介護負担感は軽減するが、肯定感は大きな変化がなく、コミュニケーションが全般的に向上することである。これは、今年度の講座は普及を目的としているので１回だけの実施も可能で制限を設けなかったことも要因であると推察される。昨年度の結果では、２回以上の参加で効果が現れることが明らかになっている。

施設職員では、介護の自律性が家族と比較すると、大きく向上することが示された。これは、自律性は認知症介護の専門性や応用力が必要な項目であるためにこうした結果が現れたと考えられる。一方で、業務ストレスへは、あま大きな変化をもたらさないことも示唆されていた。業務ストレスは、個人レベルで解決できない、給与や勤務体系がこの結果をもたらしており、それが自己効力感にも影響を及ぼしていることが考えられる。法人のトップであり、施設全体で取り組むことが必要であり、今後、今回の講座を継続的に開催する為にもきわめて重要な課題である。

４）３年間の成果

本事業は、３年前の２００５年から助成を受けて、今年度が最終年度となった。

初年度は、内容の検討を行うために、６事業所で６回計３６回の講座を、内容やテーマは自由に実施した。延べ参加者数は１，３８９名であった。実施の条件として「必ず相互参加であること」、「ディスカッションを入れること」、の２点を条件に、講師は当センタースタッフなどが訪問し実施した。そして、すべての講座を録画し内容を検討委員会で検討し、最終的にそれをもとに実施テキストの試案を作成した。

２年目は、初年度に作成した試案をもとに全国５６カ所に配布し、テキストの評価、事業自体の評価、講座の有用性、参加者の効果測定によって、教育支援プログラムの検証により、一定の効果と有用性の確認ができた。延べ講座回数は、２４４回で参加者数は７，４７２名であった。

そして、最終年はこれまでの成果をもとに全国の普及を行い、その成果はこれまで述べてきたとおりであった。講座への参加者数は２年目とほぼ同数であったが、実施した施設・事業所が約４倍に増加し、来年度以降の実施意思を表明している施設・事業所も約２００カ所であることからも全国的な普及の第一を大きく踏み出したと評価できるのではないだろうか。

また、今年度は成果物として普及版実施テキストを作成した。このテキストは、「だれでもが講師になれる」ことを目標に作成したもので、いわば介護講座の講師のための赤本である。これまでの介護講座はその道のプロや専門家で無ければ難しいという多くの認識から経費や人材の問題があった。こうした認識は、普及を妨げるおおきな要因になっていたために、それを解消するために実施テキストは改訂を繰り返し作成した。普及版テキストは、コンパクトなサイズで、これまでの事業成果とモデル事業

をおこなった施設・事業所の意見を反映させた内容である。これを用いてさらに広く普及し、そしてより実施しやすく、効果的な相互参加型の講座が展開することを願っている。

繰り返しになるが、最終的にはこの講座をとおして、同じ地域住民である家族と介護サービスを提供する施設職員が共に考え、協力し合うことによって、認知症になっても安心して暮らせる、そして在宅で認知症の人を介護する立場になっても安心して暮らせる地域を形成するための一助になることが本事業の目的である。

謝　辞

本事業にご協力いただきました多くのご家族の皆さまと施設職員の皆さまに厚く御礼申し上げます。
また、モデル事業にご協力いただいた施設職員の皆さまに深く感謝致します。

報告書作成にご協力いただいた皆さま
誠にありがとうございました。

三浦　春香　　戸栗あおい　　沖田　未来　　田中　英輔　　岩佐　有幾
鹿野佐千子　　操　　夏子　　佐藤明里沙　　草刈　健治　　小山　知美

資　料

資料１．効果測定事前調査票（介護家族）
資料２．効果測定事前調査票（施設職員）
資料３．効果測定事後調査票（介護家族）
資料４．効果測定事後調査票（施設職員）
資料５．講座参加者評価票
資料６．事業評価調査票
資料７．普及推進委員会議事録（１～４回）
資料８．普及用講座実施支援ホームページ
資料９．今年度講座実施施設・事業所一覧
資料１０．来年度講座実施予定施設・事業所一覧
資料１１．普及研修会事例報告資料１～１３

資料１

効果測定事前調査票（介護家族）

地域と施設を結ぶ

アンケートご協力のお願い（ご家族・一般向け）

本アンケートは、参加されたみなさんの声をお聞きし、よりよい在宅介護の支援方法を検討することを目的としたアンケートです。また、全国でも同じ内容のアンケートを実施しております。

ご記入頂いた内容は、個人が特定できないよう数値化し、目的以外には一切使用致しませんのでご安心してご記入下さい。

まず、お名前を伺います。

お名前	在宅で介護をしていますか
	1．はい　2．以前していた 3．いいえ

（認知症介護研究・研修仙台センターが数値化して管理致します。ご協力お願いします。
管理責任者　矢吹知之）

Q1．あなたご自身や介護を受けている方のことについてうかがいます。

F1．あなたの性別	F2．あなたの年齢	F3．　在宅での介護期間
女　・　男	歳	約　　年　　ヶ月

F4．利用しているサービス

1．デイサービス、デイケア　2．ショートステイ　3．各種訪問サービス　4．入所（長期）
5．その他　　6．利用なし

F5．現在利用しているサービスの満足度についてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んで下さい。

1．満足している　2．どちらかと言えば満足　3．どちらかと言えば不満　4．不満である

F6．介護を受けている方の日常生活動作についてうかがいます。あてはまる番号1つを○で囲んで下さい。

1．非常に活発（自立している）
2．自立しているが日常生活を送ることが困難になり始めている（歩行困難、トイレなどで後始末不十分）
3．日常生活に軽度の介助や見守りが必要（杖歩行、ポータブルトイレ、しびん等使用）
4．日常生活に部分介助が必要（脱衣不自由、食事部分介助、時々失禁）
5．全面的に介助が必要（寝たきり、食事全面介助、おむつ等使用）

F7．介護を受けている方の認知症についてうかがいます。あてはまる番号1つを○で囲んで下さい。

1．認知症なし
2．軽度（最近の出来事をしばしば忘れる、年月日が不正確、趣味や注意力が減退）
3．中等度（最近の記憶が困難、場所、人物が不正確、しばしば失禁）
4．重度（新しい記憶は全く記憶できない、年月日、時間、人、物すべてわからない、会話困難）

Q2. これまでの介護教室や講座についてうかがいます。

1）これまで、行政や他の事業所なども含め介護講座に参加したことがありますか？

1．頻繁にある（約　　回位）　2．頻繁ではないが数回ある（約　　回位）

3．あまり参加したことがない　4．ほとんど参加したことがない

2）具体的にどんな内容の講座ですか？（複数回答可）

1．介護技術　2．介護保険　3．認知症　4．医療　5．介護用品　6．健康

7．ストレス　8．その他（　　）

Q3. 利用している施設等についてうかがいます。それぞれの質問についてあてはまる番号1つを○で囲んで下さい。

1）利用している施設の職員とコミュニケーション（会話など）は充分にとれていると思いますか？

1．充分取れている　2．充分ではないがとれている

3．あまりとれていない　4．ほとんどとれていない

2）利用している施設の職員で在宅介護のことで相談できる職員はいますか？

1．大勢いる　2．数人いる　3．ほとんどいない　4．まったくいない

3）利用している施設の職員と在宅介護のことについて相談したいと思いますか？

1．相談したい　2．どちらかといえば相談したい　3．どちらかといえば相談したくない

4．相談したくない

4）相談したい場合どのようなことについて相談をしたいと思っていますか？簡単にご記入下さい。

5）施設等の介護サービスを利用している他の家族と介護について話をしたいと思いますか？

1．非常にそう思う　2．すこしそう思う　3．あまりそう思わない　4．そう思わない

6）施設等の介護サービスを利用されている他の家族と話をしたりすることはありますか？

1．時間をとってよく話をする　2．顔を合わせれば話をする　3．あいさつ程度

4．あまり会う機会、話す機会がない

Q4．各質問について、今の気持ちに最もあてはまると思う番号を○で囲んで下さい。

		思わない	たまに思う	時々思う	よく思う	いつも思う
1	介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか	0	1	2	3	4
2	介護を受けている方のそばにいると腹が立つことがありますか	0	1	2	3	4
3	介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	0	1	2	3	4
4	介護を受けている方のそばにいると、気が休まらないと思いますか	0	1	2	3	4
5	介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことはありますか	0	1	2	3	4
6	介護を受けている方が家にいるので、友達を家に呼びたくても呼べないと思ったことがありますか	0	1	2	3	4
7	介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	0	1	2	3	4
8	介護を受けている方に対して、どうしていいか判らないと思うことはありますか	0	1	2	3	4

Q5．各質問について今の気持ちに最も近いと思う番号を○で囲んでください。

		全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	非常にそう思う
1	介護を義務からではなく望んでいる	1	2	3	4
2	介護をするのが楽しいと感じる	1	2	3	4
3	介護をするのが自分の生きがいになっている	1	2	3	4
4	介護をすることによって満足感が得られる	1	2	3	4
5	介護をすることによって相手と親密になったように感じる	1	2	3	4
6	介護のおかげで人間的に成長したと思う	1	2	3	4
7	介護をすることで学ぶことがたくさんある	1	2	3	4
8	介護をすることは自分の老後のためになると思う	1	2	3	4
9	介護のおかげで難しい状況に対処する力など自信がついた	1	2	3	4
10	介護を必要としている人が喜ぶのをみてうれしくなる	1	2	3	4
11	相手が介護に感謝したり、喜んでいると感じる	1	2	3	4
12	介護をしていて、逆に自分が元気づけられたり励まされたりする	1	2	3	4

後もう少しです。ご協力お願いします。→裏面にお進み下さい→

Q6. 現在の介護の状況の方法や考え方の記述があります。あなたの介護場面を思い出して最も現状に近いと思われる番号を○で囲んで下さい。
（「その人」は、あなたが介護をしている人のことを指しています）

		できない	どちらかといえばできない	どちらかといえばできる	できる
1	認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	1	2	3	4
2	その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	1	2	3	4
3	その人の環境の変化の影響を予測することができる	1	2	3	4
4	その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	1	2	3	4
5	これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	1	2	3	4
6	現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	1	2	3	4
7	突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	1	2	3	4
8	その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	1	2	3	4
9	認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	1	2	3	4
10	その人が出来る事を推測する事ができる	1	2	3	4
11	その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	1	2	3	4
12	１日や１週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	1	2	3	4
13	その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	1	2	3	4
14	その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	1	2	3	4
15	訴えを受け入れる事ができる	1	2	3	4
16	その人の現状と感情が一致しないときを知っている	1	2	3	4
17	突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	1	2	3	4
18	様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	1	2	3	4
19	その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	1	2	3	4

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。
今後も講座にもぜひご参加下さい。

【責任者】認知症介護研究・研修仙台センター
研修研究員　矢吹知之
連絡先　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6-149-1　TEL/FAX022-303-7565
【個人情報は責任者のみが厳重に取り扱いいたします】

資料２

効果測定事前調査票（施設職員）

地域と施設を結ぶ

アンケートご協力のお願い（施設職員・スタッフ向け）

本アンケートは、本講座を、介護負担の軽減や施設サービスの質の向上に向けたものとするために、参加されたみなさんの声をお聞きすることを目的としたアンケートです。また、全国でも同じ内容のアンケートを実施しております。

ご記入頂いた内容は、個人が特定できないよう数値化し、目的以外には一切使用致しませんのでご安心してご記入下さい。

Ｑ１．あなたご自身のことについてうかがいます。

性　別	年　齢	現在の施設・事業所や法人での総勤務年数
女　・　男	歳	約　　年　　ヶ月

Ｆ１．事業所の種別（もっともあてはまる番号１つを○で囲んで下さい。）

１．特別養護老人ホーム　２．老人保健施設　３．療養型病床群　４．病院　５．グループホーム
６．地域包括支援センター　７．在宅介護支援センター　８．デイサービスセンター
９．ヘルパーステーション　１０．訪問看護ステーション　１１．小規模多機能ホーム
１２．研修機関　１３．その他（　　）

Ｆ２．現在の職種（所有資格ではなく仕事内容であてはまる番号１つを○で囲んで下さい。）

１．介護リーダー（介護主任）　２．ケアワーカー（介護職員）３．介護支援専門員（ｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰ）
５．ＰＴ・ＯＴ　６．ホームヘルパー　７．看護師（主任）　８．看護師　９．保健師
１０．研修機関職員　１１．その他

Ｆ３．今回の参加形態	１．講座の参加者　　２．講座の企画・運営者

● お名前をご記入下さい。

お名前

（認知症介護研究・研修仙台センターが数値化して管理致します。ご協力お願いします。）
管理責任者：矢吹知之

Q2. 家族やスタッフ間のコミュニケーションについてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んで下さい。

1）施設などの介護サービスを利用されているご家族と話をする機会はどの程度ありますか？

1．十分にある　2．十分ではないがある　3．話す機会は少ない　4．話す機会はほとんどない

2）在宅で介護をする家族と介護に関する話をしたり、情報交換の必要性を感じることはありますか？

1．必要性を感じる　2．少し必要性を感じる　3．あまり必要性は感じない　4．必要だと感じない

3）同じ職場のスタッフと介護の方法等について話し合いをする機会は充分ですか？

1．十分にある　2．十分ではないがある　3．話し合いの機会は少ない

4．話し合いの機会はほとんどない

Q3. 職場のストレスについてうかがいます。ここ一ヶ月間を振り返ってその頻度を考えて、最もあてはまる番号を○で囲んで下さい。

1）介護や仕事をする上で精神的な負担を感じることはありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

2）利用する高齢者との関係やコミュニケーションで精神的な負担を感じることはありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

3）上司との関係で精神的負担を感じることがありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

4）同僚との関係で精神的な負担を感じることはありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

5）勤務時間や休みについて精神的な負担を感じることがありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

Q４．現在の介護の状況の方法や考え方の記述があります。あなたの日常の介護場面を想定し最も現状に近いと思われる数字を一つ選び○で囲んで下さい。
あまり深く考えずにありのままの姿を答えて下さい。
（「その人」とは、あなたが介護をしている人のことを指します）

		できない	どちらかといえばできない	どちらかといえばできる	できる
1	認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	1	2	3	4
2	その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	1	2	3	4
3	その人の環境の変化の影響を予測することができる	1	2	3	4
4	その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	1	2	3	4
5	これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	1	2	3	4
6	現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	1	2	3	4
7	突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	1	2	3	4
8	その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	1	2	3	4
9	認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	1	2	3	4
10	その人が出来る事を推測する事ができる	1	2	3	4
11	その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	1	2	3	4
12	１日や１週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	1	2	3	4
13	その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	1	2	3	4
14	その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	1	2	3	4
15	訴えを受け入れる事ができる	1	2	3	4
16	その人の現状と感情が一致しないときを知っている	1	2	3	4
17	突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	1	2	3	4
18	様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	1	2	3	4
19	その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	1	2	3	4

後もう少しです。ご協力お願いします
→裏面にお進み下さい→

Q５．以下に１６個の質問があります。各項目を読んで、今のあなたにあてはまるかどうかを判断して下さい。あてはまる場合は「はい」に、あてはまらない場合は「いいえ」を○で囲んで下さい。どちらでもない場合でも、近いと思われる方に必ず○をつけて下さい。あまり深く考えずにありのままの姿を答えて下さい。

1	何か仕事をするときは、自信をもってやるほうである	はい　・　いいえ
2	過去の失敗やいやな経験を思い出して、暗い気持ちになるときがよくある	はい　・　いいえ
3	友人より優れた能力がある	はい　・　いいえ
4	仕事を終えた後、失敗したと感じることの方が多い	はい　・　いいえ
5	人と比べて心配性なほうである	はい　・　いいえ
6	何かを決めるとき、迷わずに決定するほうである	はい　・　いいえ
7	何かをするとき、うまくゆかないのではと不安になることのほうが多い	はい　・　いいえ
8	引っ込み思案なほうだと思う	はい　・　いいえ
9	人より記憶力がよいほうである	はい　・　いいえ
10	結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	はい　・　いいえ
11	どうやったらよいか決心がつかずに仕事に取りかかれないことがよくある	はい　・　いいえ
12	友人より優れた能力がある	はい　・　いいえ
13	どんなことでも積極的にこなすほうである	はい　・　いいえ
14	小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	はい　・　いいえ
15	積極的に活動するのは、苦手なほうである	はい　・　いいえ
16	世の中に貢献できる力があると思う	はい　・　いいえ

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

次回も講座に是非ご参加下さい。

【責任者】認知症介護研究・研修仙台センター
研修研究員　矢吹知之
連絡先　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1　TEL/FAX022-303-7565
【個人情報は責任者のみが厳重に取り扱いいたします】

資料３

効果測定事後調査票（介護家族）

事 後

地域と施設を結ぶ

アンケートご協力のお願い（ご家族・一般向け）

本アンケートは、参加されたみなさんの声をお聞きし、役に立つ在宅介護の支援方法を検討することを目的としたアンケートです。また、全国でも同じ内容のアンケートを実施しております。

ご記入頂いた内容は、個人が特定できないよう数値化し、目的以外には一切使用致しませんのでご安心してご記入下さい。

まず、お名前を伺います。

お名前	在宅で介護をしていますか
	1．はい　2．以前していた 3．したことがない

（認知症介護研究・研修仙台センターが数値化して管理致します。ご協力をお願いします。
管理責任者：矢吹知之）

Q1．あなたご自身や介護を受けている方のことについてうかがいます。

F1．あなたの性別	F2．あなたの年齢	F3．　在宅での介護期間
女　・　男	歳	約　　年　　ヶ月

F4．利用しているサービス
1．デイサービス、デイケア　2．ショートステイ　3．各種訪問サービス　4．入所（長期） 5．その他　　6．利用なし

F5．現在利用しているサービスの満足度についてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んでください。
1．満足している　2．どちらかと言えば満足　3．どちらかと言えば不満　4．不満である

F6．　今年度はこの講座に何回参加されましたか？	計　　回

Q2．利用している施設等についてうかがいます。それぞれの質問についてあてはまる番号を○で囲んで下さい。

1）利用されている施設や事業所の職員とコミュニケーションは充分にとれていると思いますか？

1．十分取れている　　2．十分ではないがとれている

3．あまりとれていない　　4．ほとんどとれていない

2）利用している施設の職員で在宅介護のことで相談できる職員はいますか？

1．大勢いる　2．数人いる　3．ほとんどいない　4．まったくいない

3）利用されている施設や事業所の職員と在宅介護のことについて相談したいと思いますか？

1．相談したい　　2．どちらかといえば相談したい　3．どちらかといえば相談したくない

4．相談したくない

4）施設サービスを利用している他の家族と介護について話をしたいと思いますか？

1．非常にそう思う　2．すこしそう思う　3．あまりそう思わない　4．そう思わない

5）施設のサービスを利用されている他の家族と話をしたりすることはありますか？

1．時間をとって良く話をする　　2．顔を合わせれば話をする　　3．あいさつ程度

4．あまり会う機会、話す機会がない

Q3．この講座についてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んで下さい。

1）講座内で実施されたグループワークを振り返り、全体的にどの程度発言ができましたか？

1．十分に発言できた　　2．まあ発言できた　　3．あまり発言できなかった

4．ほとんど発言できなかった

2）講座全体を振り返り、参加された施設の職員や地域の人とどの程度会話が出来ましたか？

1．十分に会話ができた　　2．まあ会話ができた　　3．あまり会話ができなかった

4．ほとんど会話はできなかった

3）講座内で実施されたグループワークを振り返り、発言の程度に限らず満足度はどの程度ですか？

1．非常に満足　　2．まあ満足　　3．やや不満　　4．非常に不満

4）講座全体を振り返り満足度はどの程度ですか？

1．非常に満足　　2．まあ満足　　3．やや不満　　4．非常に不満

5）講座は今後の介護や生活に生かせる内容でしたか？

1．非常にそう思う　　2．そう思う　　3．あまりそう思わない　　4．思わない

Q4．各質問について今の気持ちに最もあてはまると思う番号を○で囲んで下さい。

		思わない	たまに思う	時々思う	よく思う	いつも思う
1	介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか	0	1	2	3	4
2	介護を受けている方のそばにいると腹が立つことがありますか	0	1	2	3	4
3	介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	0	1	2	3	4
4	介護を受けている方のそばにいると、気が休まらないと思いますか	0	1	2	3	4
5	介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことはありますか	0	1	2	3	4
6	介護を受けている方が家にいるので、友達を家に呼びたくても呼べないと思ったことがありますか	0	1	2	3	4
7	介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	0	1	2	3	4
8	介護を受けている方に対して、どうしていいか判らないと思うことはありますか	0	1	2	3	4

Q5．各質問について今の気持ちに最も近いと思う番号を○で囲んでください。

		全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	非常にそう思う
1	介護を義務からではなく望んでいる	1	2	3	4
2	介護をするのが楽しいと感じる	1	2	3	4
3	介護をするのが自分の生きがいになっている	1	2	3	4
4	介護をすることによって満足感が得られる	1	2	3	4
5	介護をすることによって相手と親密になったように感じる	1	2	3	4
6	介護のおかげで人間的に成長したと思う	1	2	3	4
7	介護をすることで学ぶことがたくさんある	1	2	3	4
8	介護をすることは、自分の老後のためになると思う	1	2	3	4
9	介護のおかげで難しい状況に対処する力など自信がついた	1	2	3	4
10	介護を必要としている人が喜ぶのをみてうれしくなる	1	2	3	4
11	相手が介護に感謝したり、喜んでいると感じる	1	2	3	4
12	介護をしていて、逆に自分が元気づけられたり励まされたりする	1	2	3	4

後もう少しです。ご協力お願いします。→裏面にお進み下さい→

事 後

Q6．現在の介護の状況の方法や考え方の記述があります。あなたの介護場面を思い出して最も現状に近いと思われる番号を○で囲んで下さい。
（「その人」は、あなたが介護をしている人のことを指しています）

		できない	どちらかといえばできない	どちらかといえばできる	できる
1	認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	1	2	3	4
2	その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	1	2	3	4
3	その人の環境の変化の影響を予測することができる	1	2	3	4
4	その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	1	2	3	4
5	これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	1	2	3	4
6	現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	1	2	3	4
7	突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	1	2	3	4
8	その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	1	2	3	4
9	認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	1	2	3	4
10	その人が出来る事を推測する事ができる	1	2	3	4
11	その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	1	2	3	4
12	１日や１週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	1	2	3	4
13	その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	1	2	3	4
14	その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	1	2	3	4
15	訴えを受け入れる事ができる	1	2	3	4
16	その人の現状と感情が一致しないときを知っている	1	2	3	4
17	突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	1	2	3	4
18	様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	1	2	3	4
19	その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	1	2	3	4

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

ご不明の点は、下記までご連絡下さい。

【責任者】認知症介護研究・研修仙台センター
研修研究員　矢吹知之
連絡先　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1　TEL/FAX022-303-7565
【個人情報は責任者のみが厳重に取り扱いいたします】

資料４

効果測定事後調査票（施設職員）

事　後

地域と施設を結ぶ
家族と職員による相互参加型交流講座

アンケートご協力のお願い（施設職員・スタッフ向け）

本アンケートは、本講座を、介護負担の軽減や施設サービスの質の向上に向けたものとするために、参加されたみなさんの声をお聞きすることを目的としたアンケートです。また、全国でも同じ内容のアンケートを実施しております。

ご記入頂いた内容は、個人が特定できないよう数値化し、目的以外には一切使用致しませんのでご安心してご記入下さい。

Ｑ１．あなたご自身のことについてうかがいます。

性　別	年　齢	現在の施設・事業所や法人での総勤務年数
女　・　男	歳	約　　年　　ヶ月

Ｆ１．事業所の種別（もっともあてはまる番号１つを○で囲んで下さい。）

１．特別養護老人ホーム　２．老人保健施設　３．療養型病床群　４．病院　５．グループホーム
６．地域包括支援センター　７．在宅介護支援センター　８．デイサービスセンター
９．ヘルパーステーション　１０．訪問看護ステーション　１１．小規模多機能ホーム
１２．研修機関　１３．その他（　　）

Ｆ２．現在の職種（もっともあてはまる番号１つを○で囲んで下さい。）

１．介護リーダー（主任）　２．ケアワーカー（介護職員）３．ケアマネージャー　４．ＰＴ・ＯＴ
５．ホームヘルパー　６．看護師（主任）　７．看護師　８．事務職員　９．その他

Ｆ３．今年度はこの講座に何回参加されましたか	計　　回
Ｆ４．今回の参加形態	１．講座の参加者　　２．講座の企画・運営者

● お名前をご記入下さい。

お名前

認知症介護研究・研修仙台センターが数値化して管理致します。ご協力お願いします。

管理責任者：矢吹知之

Q2．この講座についてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んで下さい。

1）講座内で実施されたグループワークを振り返り、全体的にどの程度発言ができましたか？

1．十分に発言できた　2．まあ発言できた　3．あまり発言できなかった
4．ほとんど発言できなかった

2）講座全体を振り返り、参加された家族や地域の人とどの程度会話が出来ましたか？

1．十分に会話ができた　2．まあ会話ができた　3．あまり会話ができなかった
4．ほとんど会話はできなかった

3）講座内で実施されたグループワークを振り返り、発言の程度に限らず満足度はどの程度ですか？

1．非常に満足　2．まあ満足　3．やや不満　4．非常に不満

4）この講座は今後の仕事や介護に生かせる内容だった。

1．非常にそう思う　2．そう思う　3．あまりそう思わない　4．思わない

Q3．家族やスタッフ間のコミュニケーションについてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んで下さい。

1）施設のサービスを利用されているご家族と話をする機会はどの程度ありますか？

1．充分にある　2．充分ではないがある　3．話す機会は少ない　4．話す機会はほとんどない

2）家族と介護に関する話をしたり、情報交換の必要性を感じることはありますか？

1．必要性を感じる　2．少し必要性を感じる　3．あまり必要性は感じない　4．必要だと感じない

3）同じ職場のスタッフと介護について話し合いをする機会は充分ですか？

1．充分にある　2．充分ではないがある　3．話し合いの機会は少ない
4．話し合いの機会はほとんどない

Q4．職場のストレスについてうかがいます。ここ1ヶ月間を振り返ってその頻度から最もあてはまる番号を○で囲んで下さい。

1）介護をする上で精神的な負担を感じることはありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

2）利用者との関係やコミュニケーションで精神的な負担を感じることはありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

3）上司との関係で精神的負担を感じることがありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

4）同僚との関係で精神的な負担を感じることはありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

5）勤務時間や休みについて精神的な負担を感じることがありましたか？

1．よくあった　2．たまにあった　3．あまりなかった　4．なかった

Q５．現在の介護の状況の方法や考え方の記述があります。あなたの日常の介護場面を想定して最も現状に近いと思われる数字を一つ選び○で囲んで下さい。
あまり深く考えずにありのままの姿を答えて下さい。
（「その人」とは、あなたが介護をしている人のことを指します）

		できない	どちらかといえばできない	どちらかといえばできる	できる
1	認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	1	2	3	4
2	その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	1	2	3	4
3	その人の環境の変化の影響を予測することができる	1	2	3	4
4	その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	1	2	3	4
5	これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	1	2	3	4
6	現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	1	2	3	4
7	突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	1	2	3	4
8	その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	1	2	3	4
9	認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	1	2	3	4
10	その人が出来る事を推測する事ができる	1	2	3	4
11	その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	1	2	3	4
12	１日や１週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	1	2	3	4
13	その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	1	2	3	4
14	その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	1	2	3	4
15	訴えを受け入れる事ができる	1	2	3	4
16	その人の現状と感情が一致しないときを知っている	1	2	3	4
17	突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	1	2	3	4
18	様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	1	2	3	4
19	その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	1	2	3	4

後もう少しです。ご協力お願いします

事　後

Q6.　以下に１６個の質問があります。各項目を読んで、今のあなたにあてはまるかどうかを判断して下さい。あてはまる場合は「はい」に、あてはまらない場合は「いいえ」を○で囲んで下さい。どちらでもない場合でも、近いと思われる方に必ず○をつけて下さい。あまり深く考えずにありのままの姿を答えて下さい。

1	何か仕事をするときは、自信をもってやるほうである	はい　・　いいえ
2	過去の失敗やいやな経験を思い出して、暗い気持ちになるときがよくある	はい　・　いいえ
3	友人より優れた能力がある	はい　・　いいえ
4	仕事を終えた後、失敗したと感じることの方が多い	はい　・　いいえ
5	人と比べて心配性なほうである	はい　・　いいえ
6	何かを決めるとき、迷わずに決定するほうである	はい　・　いいえ
7	何かをするとき、うまくゆかないのではと不安になることのほうが多い	はい　・　いいえ
8	引っ込み思案なほうだと思う	はい　・　いいえ
9	人より記憶力がよいほうである	はい　・　いいえ
10	結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	はい　・　いいえ
11	どうやったらよいか決心がつかずに仕事に取りかかれないことがよくある	はい　・　いいえ
12	友人より優れた能力がある	はい　・　いいえ
13	どんなことでも積極的にこなすほうである	はい　・　いいえ
14	小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	はい　・　いいえ
15	積極的に活動するのは、苦手なほうである	はい　・　いいえ
16	世の中に貢献できる力があると思う	はい　・　いいえ

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

ご不明な点は、下記までご連絡下さい。

【責任者】認知症介護研究・研修仙台センター
研修研究員　矢吹知之
連絡先　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1　TEL/FAX022-303-7565
【個人情報は責任者のみが厳重に取り扱いいたします】

資料５

講座参加者評価票

地域	回数	テーマ

※この欄は記入しないで下さい

アンケートご協力のお願い

この度は、ご参加頂きありがとうございました。
今後の講座の参考にさせて頂きたいと思いますので、アンケートのご記入をよろしくお願いいたします。

Q1. 開催日〔　　月　　日〕
参加者〔 1. 介護をされている家族　2. スタッフ　3. 地域住民　4. その他 〕
性　別〔 1. 女　2. 男 〕
年　齢〔 1. 10代　2. 20代　3. 30代　4. 40代　5. 50代　6. 60代以上 〕

Q2. 講座に参加していかがでしたか？

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	思わない
1. 今日の内容はわかりやすく理解できた・・・・・・・・				
2. 今日の内容に興味・関心がもてた・・・・・・・・・・・・				
3. 今日の内容は期待した通りだった・・・・・・・・・・・・				
4. 今日の資料は充分だった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
5. 話し合いなどに充分参加することができた・・・・				
6. 今日の内容は今後に生かせそうだ・・・・・・・・・・・・・				
7. 全体的に満足できる内容だった・・・・・・・・・・・・・・・・				

Q3. 講座に対するご感想、ご質問などがございましたらご記入下さい。

資料 6

事業評価調査票

ID	

相互参加型交流講座テキスト・事業評価票（講座企画運営担当者用）

相互参加型交流講座の企画・運営ご苦労様です。この評価表はテキストの内容を検討し、改訂版を作成するために使用させていただきます。ご多忙とは存じますが、よりよい改訂版テキストを作成するためにどうかご協力下さいますようお願い申し上げます。

都道府県名　　実施施設名　　担当者名

Q1. 今年度実施した講座について伺います。今年度実施した講座のテーマをご記入いただき、講師属性は下記の属性から選択、参加者数と運営者は実数をご記入下さい。

回数	テーマ	※講師属性		職員	家族	一般	運営者
1							
2							
3							
4							
5							
6							

※講師属性（１～４を選択し上に番号をご記入下さい。「1」の場合は役職の番号も横にご記入下さい。）

１．自施設・法人の職員　２．他施設・法人の職員　３．大学等の教員等　４．その他

「１」の場合の役職選択肢

１．施設長、管理者　２．リーダー、主任（介護）　３．リーダー、主任（看護）

４．ケアワーカー　５．看護師　６．ＰＴ、ＯＴ　７．栄養士　８．その他（　　）

Q2. 今回使用したテキストの番号に○をつけて下さい。（同様の内容で２回実施した場合は◎）

講座１　高齢者の理解	講座 13　認知症の予防の考え方
講座２　移動介助の方法	講座 14　認知症を介護する家族のこころ
講座３　排泄介助の方法	講座 15　介護者のストレスの基本的理解
講座４　コミュニケーションが困難な人の介護	講座 16　介護者のストレス軽減
講座５　介護予防の基本	講座 17　ストレス軽減のためにできること
講座６　栄養補給の具体的な方法	講座 18　ストレス解消の事例
講座７　献立と食事環境の工夫	講座 19　認知症の人の環境作りのポイント
講座８　認知症高齢者の食事介助	講座 20　在宅介護の環境を考える
講座９　口腔ケアの具体的方法	講座 21　地域社会の環境づくり
講座 10　認知症高齢者の基本的理解	講座 22　介護保険制度の利用するためには
講座 11　認知症の医療と診断	講座 23　介護保険制度の具体的なサービス利用
講座 12　認知症の人の心理と対応	講座 24　地域の社会資源の有効活用

Q3. 講義部分のテキストの使用方法についてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んでください。

1．テキスト通りに行った　　2．内容を一部修正して行った
3．いくつかの項目を統合し内容を修正して行った　4．全く新しい項目を立ち上げて行った

Q4. グループワークの内容およびテキストの活用についてうかがいます。「2」、「3」、「4」と回答した方はQ5で内容を教えて下さい。

1．テキスト通りに行った　2．一部修正して行った　3．全く新しいテーマを立ち上げて行った
4．その他（　　）

Q5. グループワークの方法について下記にご記入下さい。（Q4で「2」「3」「4」と回答した方のみ記入）

グループワークのテーマ	
方法（具体的な展開方法や工夫した点を箇条書きで記入して下さい）	
ねらい 展開（具体的手順） まとめの方法（教示）	

Q6.改訂版テキストを作成するにあたり、充実して欲しい内容やテーマがありましたら、枠内にご自由に記入してください。講座番号を記載していただいても結構です（Q2参照）。

Q7.講座を実施するうえで施設や事業所としての理解は得られましたか？あてはまる番号を○で囲み、その具体的内容をご記入ください。

1. 十分に理解協力が得られた　2. 部分的には協力が得られたが不十分だった
3. 理解が得られず非常に苦労した

具体的内容

Q8.講座を実施、運営し事業所、職員、参加者などの観点でよかったと感じることやご意見、感想を枠内にご自由にご記入ください。

Q8.講座を実施、運営し事業所、職員、参加者などの観点でよかったと感じることやご意見、感想を枠内にご自由にご記入ください。

お忙しいところ、ご協力誠にありがとうございました。

ご提出の締め切りは、**「平成20年2月29日（金）」**とさせていただきます。
（講座がすべて終了次第送付していただいて結構です。）
皆様のご意見を参考により活用しやすい改訂版のテキストを作成いたします。（4月上旬発送予定）内容に関してご不明な点がございましたら下記までお問合せください。

【ご返送・お問い合わせ先】
認知症介護研究・研修仙台センター
〒989－3201　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6－149－1
ケアケア交流講座推進室　TEL/FAX 022－277－5030　（担当：佐藤・千田・菅原）

資料７

普及推進委員会議議事録（１回～４回）

介護家族への教育支援プログラムの開発事業 第１回普及推進委員会　議事録

［開催日時］　平成 19 年 5 月 30 日（水）18:00～20:00
［開催場所］　東京国際フォーラム　Ｇ６０１会議室
［出 席 者］　大久保幸積（特別養護老人ホーム　幸豊ハイツ）
守屋　秀一（特別養護老人ホーム　幸豊ハイツ）
小野寺義彦（特別養護老人ホーム　せんだんの里）
千脇　隆志（特別養護老人ホーム　せんだんの里）
土田　良平（特別養護老人ホーム　府中市立よつや苑）
城地まさみ（特別養護老人ホーム　府中市立よつや苑）
杉村　和子（特別養護老人ホーム　大阪老人ホーム）
三木　一雄（特別養護老人ホーム　大阪老人ホーム）
山田　裕子（介護老人保険施設　サンスクエア沼南）
草壁　利江（介護老人保険施設　サンスクエア沼南）
一原　浩　（特別養護老人ホーム　緑の園）
太田　秀男（特別養護老人ホーム　緑の園）
西元　幸雄（第二小山田特別養護老人ホーム）
長嶋　紀一（日本大学文理学部　教授）
中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター　研修主幹）
藤井　滋樹（認知症介護研究・研修大府センター　研修部長）
加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長）
矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員）
吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター　専任研究員）
佐藤　裕子（認知症介護研究・研修仙台センター　事務員）
千田　恵美（認知症介護研究・研修仙台センター　東北福祉大学４年）

［概要］
あいさつ　・・・　加藤伸司
自己紹介　・・・　出席者全員

１．昨年度の報告

・資料１を用いて報告。これまでの経緯と今年度の事業概要について。
プログラムについての有用性、効果についての報告がなされた。

２．協議事項

１）今後の予定について

・委員会回数の減（5 回開催→4 回開催）
・研修会に行く人数の減
・相互参加型介護講座実施研修会開催の時期を７月～９月まで
・普及版テキスト作成　７月下旬完成（編集部会で進める）

2） 研修会開催・モデル事業の実施について

・実費参加とする（昨年度は交通費を出していたが今年度は出せない）

・ 9.研修カリキュラム内「職員研修、家族支援の考え方」を40分とする

・ 〃「教育支援プログラムの実施方法」を60分とする

・ 会場選定　各委員より会場を紹介いただき仙台センターで会場予約

・ 参加受付　各委員で地域毎まとめていただき仙台センターへ連絡

・ 募集地域　開催地の近隣都道府県までを範囲とする

・ 募集人員　「募集事業所数」とする　テキストは1事業所1冊とする
　　1箇所40施設　参加人数は会場規模に応じる

・ 対象者　①特養○施設、地域包括○施設と枠数を限定　②昨年度協力施設

・ 開催時期　7月下旬～9月　10月以降各施設で複数回開催

・ 実施回数、テキスト内容は昨年どおり

・ レポートや実施報告書等を設け、提出があることを強調し参加目的を明確にもって臨んでもらう必要あり

資料5）◆ 北海道ブロック　札幌　大学サテライト施設予定　×2回
◆ 東北ブロック　仙台（大学ｽﾃｰｼｮﾝｷｬﾝﾊﾟｽ）・盛岡 or 八戸　×各1回
◆ 関東ブロック　東京　規模を大きく1回
◆ 東海ブロック　名古屋 or 四日市　→要検討
◆ 近畿ブロック　聖徳会　×2回
◆ 中国・四国ブロック　松江、広島、高松で検討
◆ 九州ブロック　大分・福岡　→要検討

≪検討事項≫　広報方法、広報先・対象者、研修会開催地については仙台センターで検討

3．テキストについて　進行:長嶋先生

4分冊を1冊にする、ＢＰＳＤの説明を加える、薬物管理について参考コメントを入れる等の案があり、原則、現在のテキストにあまり手を加えない程度で作成予定。

7/19完成予定。

4.その他

第2回　7/31(火)　18:00～
第3回　1/15(火)　18:00～
第4回　3/11(火)　18:00～

次回開催　平成19年7月31日(火)　１８：００～　東京国際フォーラム 予定

【編集部会　覚書】5.30 15:30～@WP/　長嶋、吉岡、加藤、矢吹、吉川、佐藤

- 実践を省く
- グループワークについて検討する
- 介護保険について検討する（図式化してはどうか？ex,Ⅳ-p.39）
- 社会資源について検討
- 環境について検討
- ＢＰＳＤについて詳しく
- 薬物管理について～加える（浅野先生の内容に加筆）
- 成年後見について～加える

原稿完成　6/13（水）
初校　　6/25（月）
校了　　7/5　（木）
納品　　7/19（木）

介護家族への教育支援プログラムの開発事業 第２回普及推進委員会　議事録

［開催日時］　平成 19 年 7 月 31 日（火）18:00～20:00
［開催場所］　東京国際フォーラム　G507 会議室
［出 席 者］　大久保幸積（特別養護老人ホーム　幸豊ハイツ）
守屋　秀一（特別養護老人ホーム　幸豊ハイツ）
小野寺義彦（特別養護老人ホーム　せんだんの里）
千脇　隆志（特別養護老人ホーム　せんだんの里）
土田　良平（特別養護老人ホーム　府中市立よつや苑）
城地まさみ（特別養護老人ホーム　府中市立よつや苑）
杉村　和子（特別養護老人ホーム　大阪老人ホーム）
三木　一雄（特別養護老人ホーム　大阪老人ホーム）
山田　裕子（介護老人保険施設　サンスクエア沼南）
草壁　利江（介護老人保険施設　サンスクエア沼南）
一原　浩　（特別養護老人ホーム　緑の園）
太田　秀男（特別養護老人ホーム　緑の園）
西元　幸雄（第二小山田特別養護老人ホーム）
長嶋　紀一（日本大学文理学部　教授）
中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター　研修主幹）
吉岡　正行（株式会社ワールドプランニング　代表取締役）
加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長）
阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター　研究・研修部長）
矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員）
吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター　専任研究員）
佐藤　裕子（認知症介護研究・研修仙台センター　事務員）
板澤　寛　（認知症介護研究・研修仙台センター　東北福祉大学大学院 2 年）
千田　恵美（認知症介護研究・研修仙台センター　東北福祉大学 4 年）

協議事項

１．経過報告

１）事業の実施報告
7/20 に福祉医療機構でのヒアリングがあった旨の報告がなされた。

２）案内の発送と受付状況
地域包括支援センター、老健、特養を中心に全国 15,949 箇所に研修会案内を発送した。

３）会場ごとの準備状況
Cf, 資料①　参加者数によって会場の変更、規模縮小も検討必要

２．研修会の内容の検討

1）研修カリキュラムについて

Cf，資料③、研修会案内チラシ

資料③　の各担当者

教育支援プログラムの展開とテキストの活用方法	仙台センター
相互参加型交流講座の実際	事例提供者担当
相互参加型講座企画運営演習	進行・講義概要：仙台センター ファシリテーター：仙台センター・推進委員
講義資料のダウンロード	仙台センター
質疑応答	仙台センター・推進委員

・演習については、人数によって以下のパターンを使い分ける。

Ａパターン　全員参加型演習

Ｂパターン　代表型演習（交替で代表と見守り役を交替も可）

2）普及推進委員の派遣について

普及推進委員の会場入り時間は資料①のとおりとする。

（※資料①は後日正式なものを送付します）

3）当日の準備について

テキストはワールドプランニングさんより会場または推進委員宛に送付。

講義資料（主に、事例提供者の講義資料）も、同上の送付とする。

（※送付先住所、受取を明記した資料を後日送付します）

4）研修会配布資料（テキスト）について

権利擁護、法律的な内容も付け加え、１冊にまとめた。

年度末のテキスト改正時には対象者を絞り込む、語調の統一等が必要。

研修会修了後、余剰分は配布予定。

5）ホームページについて

ＤＣｎｅｔトップページから「ケアケア．ｃｏｍ」サイトへアクセス可。

講義資料パワーポイントデータ、参加申込、ポスターのダウンロード、研修会開催状況を入れて製作を進めている。

講義資料パワーポイントデータのダウンロード時には、データ提供者の権利を守るための文言を掲載することが必要。

３．今年度の予定

1）今年度の事業予定について

９月中旬迄研修会。その後は事務局で講座支援。調査票の配布、回収、データ整理。

年度末にはテキストの普及版作成予定。

2）次回委員会の開催予定について

次回開催　平成２０年１月１５日(水)　１８：００～　東京国際フォーラム 予定

介護家族への教育支援プログラムの開発事業 第３回普及推進委員会　議事録

［開催日時］　平成 20 年 1 月 15 日（火）18:00～20:00
［開催場所］　東京国際フォーラム　Ｇ５０８会議室
［出 席 者］　大久保幸積（特別養護老人ホーム　幸豊ハイツ）
守屋　秀一（特別養護老人ホーム　幸豊ハイツ）
千脇　隆志（特別養護老人ホーム　せんだんの里）
土田　良平（特別養護老人ホーム　府中市立よつや苑）
城地まさみ（特別養護老人ホーム　府中市立よつや苑）
杉村　和子（特別養護老人ホーム　大阪老人ホーム）
三木　一雄（特別養護老人ホーム　大阪老人ホーム）
山田　裕子（介護老人保険施設　サンスクエア沼南）
草壁　利江（介護老人保険施設　サンスクエア沼南）
一原　浩　（特別養護老人ホーム　緑の園）
太田　秀男（特別養護老人ホーム　緑の園）
西元　幸雄（第二小山田特別養護老人ホーム）
安部　博　（財団法人さわやか福祉財団）
長嶋　紀一（日本大学文理学部　教授）
加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長）
矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員）
吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター　専任研究員）
似内　裕子（認知症介護研究・研修仙台センター）
千田　恵美（認知症介護研究・研修仙台センター　東北福祉大学４年）

［概要］
１．あいさつ　・・・　加藤伸司

２．事業の進捗状況について　：矢吹
＜資料１参照＞
・普及研修会の報告（参加者 741 名/参加事業所数 520）
・計画書の返信状況
・サイト運用状況（サイト参照数、講座等ＤＬ数）　今年度中は閲覧可能

長嶋：食事介助、献立、栄養についてのＤＬ数の開きが気になる
太田：現場のニード（食事介助）が反映されている
長嶋：食事介助の項に献立、栄養についての内容を入れてもいいであろう
加藤：サイトのＤＬ数からニードを探ることとする
西元：異食、多食についての知識を得たいのではないか
　　コミュニケーションについてもアクセス数低いのは残念
太田：「コミュニケーション困難」については一般的な障害をお持ちの方を対象とした
長嶋：食生活改善はＢＰＳＤ改善につながるようだ　サイトで成功事例を募集してはどうか

安部：ＤＬ数は「認知症」というキーワードが入った講座が多いようだ

３．事業についての検討　：矢吹

１）　到達目標の確認

在宅介護家族の支援、事業所職員開講支援、テキスト作成（2種）、報告書作成

普及版テキスト目的：現在のテキストを元により使い易い形にする

普及版テキスト配布方法：アンケートを頂いた事業所に配布　その他は実費販売予定

※販売方法については確認する

２）　実施テキスト（普及版）について＜資料2.3.4参照＞

長嶋：簡略化し小型化してはどうか　質を高く　ハンドブックが良い

加藤：普及版は現テキストの抜粋で、現テキストを参照するようにしてはどうか

安部：認知症に特化してはどうか

長嶋：食事介助と栄養、献立を同項にしてはどうか

その他の項についても、数項目一緒に出来そうだ

矢吹：一般高齢者向け内容も入っているので整理する（認知症に特化する）

加藤：読み手としての対象者を明確にし、分かり易いようにする必要ある

一原：講義は短く、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ長くするのが現場では欲しいはず

矢吹：活用事例があるといいのかもしれない　テーマを搾る

加藤：認知症をキーワードに選ぶ

長嶋：高齢者の理解ははずせない　8カテゴリにこだわる必要なし

太田：対応の仕方」はニードが高い

長嶋：講座1.10.12は合わせてはどうか

太田：1.11.10.12.13.19を合わせてはどうか

加藤：これだけで構成するというのはどうか

西元：①医学的なものも含めた認知症の理解、②介助方法（食事等含む）、③介護者の負担をどう軽減するか、④環境の問題（生活環境、支援）にカテゴライズするのはどうか

辞書機能を持たせてもよい　言葉の注釈を入れるのも良い

長嶋：原稿は委員に見てもらうと良い

３）　報告書について　：矢吹

資料2-p.2　の内容のとおりとした

４）　今後のスケジュールについて

資料2-5 今後の予定参照

４．その他

- 研修会の要望があるので、来年は参加費徴収をして実施の方向で考えている
- 今後、旅費、謝金のお支払は振込とさせていただきます

次回開催　平成20年3月11日(火)　１８：００～　ホテルガーデンパレス

介護家族への教育支援プログラムの開発事業 第４回普及推進委員会　議事録

（以下敬称略）

［開催日時］　平成 20 年 3 月 11 日（火）18:00～20:00
［開催場所］　ホテルガーデンパレス　亀甲の間（宮城県仙台市）
［出 席 者］　大久保幸積（特別養護老人ホーム　幸豊ハイツ）
守屋　秀一（特別養護老人ホーム　幸豊ハイツ）
小野寺義彦（特別養護老人ホーム　せんだんの里）
千脇　隆志（特別養護老人ホーム　せんだんの里）
上田　良平（特別養護老人ホーム　府中市立よつや苑）
杉村　和子（特別養護老人ホーム　大阪老人ホーム）
三木　一雄（特別養護老人ホーム　大阪老人ホーム）
山田　裕子（介護老人保険施設　サンスクエア沼南）
草壁　利江（介護老人保険施設　サンスクエア沼南）
一原　浩　（特別養護老人ホーム　緑の園）
太田　秀男（特別養護老人ホーム　緑の園）
長嶋　紀一（日本大学文理学部　教授）
中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター　研修主幹）
吉岡　正行　（株式会社ワールドプランニング代表取締役）
加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長）
矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員）
吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター　専任研究員）
工藤　靖子（認知症介護研究・研修仙台センター）
似内　裕子（認知症介護研究・研修仙台センター）
千田　恵美（認知症介護研究・研修仙台センター　東北福祉大学４年）
菅原　聡子（認知症介護研究・研修仙台センター　東北福祉大学３年）

［概要］
あいさつ　・・・　加藤伸司、長嶋紀一

１．事業の進捗状況の説明　進行：加藤

矢吹：問合せ、アンケート回収状況について資料を参照して説明があった。
年度末で電話を解約、サイトを閉じる方向で検討している。
アンケート結果は集計・分析中。報告書・テキスト作成中。

２．普及版テキストの検討　進行：加藤

１）内容の確認
吉岡：語尾の統一が必要
矢吹：A5 版を想定している　何文字程度入るのか
吉岡：30 文字×29 行 1,000 文字程度が標準　最大で 1,200 文字
矢吹：PP 資料の下に解説が入る　１頁に PP 資料２枚を想定
加藤：PP 資料の下に何文字程度はいるのか

吉岡：300 文字　2 行程度

～各委員　執筆原稿の確認～

2）今後のスケジュールについて
矢吹：4/10 迄に福祉医療機構に報告
　　同時に、普及版テキストと報告書を計画書提出事業所に送付予定

4．その他　進行：加藤
矢吹:次年度も福祉医療機構に申請をしている　家族支援の教材を想定している
長嶋:全国的に見ない取り組みなので今後も活かしたい　来年度助成もそのあたりを期待してのことだと思われる

資料８

普及用講座支援ホームページ

普及用ホームページ「ケアケア．Com」

地域と施設を結ぶ　家族と職員の相互参加型介護講座

ケアケア.com

独立行政法人福祉医療機構
（長寿社会福祉基金）助成事業

認知症介護研究・研修仙台センターでは、2005年度より独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて、介護家族と施設職員が相互参加で行なう介護講座のプログラムの開発を行ってきました。認知症の方へのアセスメントやケアの質を高めるためには、ケアの提供者であるケアスタッフが家族と良好な関係を作りその思いを可能な限り汲み上げることが必要となります。

在宅でサービスを利用しながら介護をする方は、どんな人が介護をしているかが心配になることでしょう。また、介護に関する専門知識を知り、同じ思いを持つ他の家族と話すことは介護負担の軽減に繋がります。

本事業は、このような相互の交流を深めお互いが学びあう場を提供します。

新着情報

＜重要なお知らせ！＞

介護家族と施設職員の相互参加型交流講座のお礼と確認

業務のお忙しい中、夏期の研修会にご参加された皆様と、その後の「実施計画書」をご提出いただいた皆様には心から御礼申し上げます。

「実施計画書」をご返信いただいた皆様、ならびに既に講座を実施していただいた皆様には、より活用しやすく内容を充実させた改訂した普及版テキストを年度末に送付予定です。

また、現在講座を実施中の皆様におかれましては、修了次第アンケートをご返送くださいますようお願いいたします。

なお、誠に勝手ではございますが、報告書、改訂版テキスト等の作成の日程の都合から下記の期日を設定させていただきますのでご協力をお願いいたします。

◆「実施計画書」のご返送期日　2月25日（金）
　（まだ実施計画書を提出されていない方）

◆「アンケート」のご返送期日　3月1日（金）
　（今年度講座を実施された、もしくは実施予定の方）

>>> トップページへ戻る

普及研究会参加要項・日程

参加要領、開催会場と日程のご案内

申込書ダウンロード

研修会への申込書をダウンロードできます

ポスターダウンロード

研修会のポスターをダウンロードできます

テキストのご案内

実施テキストのご案内

「相互参加型交流講座」資料ダウンロードページはこちら

講座で使用したテキストのPDFデータをダウンロードできます

お問合せ

〒989-3201　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1　認知症介護研究・研修仙台センター内　研究事業室

TEL/FAX　022-303-7556　E-mail　kenkyuj@dcnet.gr.jp

Copyright (C) ケアケア.com All rights reserved.

地域と施設を結ぶ　家族と職員の相互参加型介護講座

ケアケア.com

独立行政法人福祉医療機構
（長寿社会福祉基金）助成事業

「相互参加型介護講座」資料

講座で使用したテキストのPDFデータがダウンロードできます。

◆注意事項◆

サイト内のデータの著作権は認知症介護研究・研修仙台センター内にあります。著作権法により無断での転載、複製などの行為を禁止します。ただし、普及研修会に参加した方は使用可能となっております。
ご不明の場合は下記までご連絡ください。

【お問い合せ先】
社会福祉法人東北福祉会　認知症介護研究・研修仙台センター　研究事業室
〒989-3201　仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1　TEL／FAX:022-303-7556
E-mail:kenkyu@dcnet.gr.jp

講座1	高齢者の理解	PDF	184KB
講座2	移動介助の方法	PDF	217KB
講座3	排泄介助の方法	PDF	185KB
講座4	コミュニケーションが困難な人の介護	PDF	106KB
講座5	介護予防の基本	PDF	82KB
講座6	栄養補給の具体的な方法	PDF	31KB
講座7	献立と食事環境の工夫	PDF	56KB
講座8	認知症高齢者の食事介助	PDF	10MB
講座9	口腔ケアの具体的方法	PDF	91KB
講座10	認知高齢者の基本的理解	PDF	210KB
講座11	認知症の医療と診断	PDF	107KB
講座12	認知症の人の心理と対応	PDF	22KB
講座13	認知症の予防の考え方	PDF	206KB
講座14	認知症を介護する家族のこころ	PDF	143KB
講座15	介護者のストレスの基本的理解	PDF	33KB
講座16	介護者のストレス軽減	PDF	25KB
講座17	ストレス軽減のためにできること	PDF	32KB
講座18	ストレス解消の事例	PDF	118KB
講座19	認知症の人の環境作りのポイント	PDF	110KB
講座20	在宅介護の環境を考える	PDF	134KB
講座21	地域社会の環境作り	PDF	26KB
講座22	介護保険制度の利用するためには	PDF	23KB
講座23	介護保険制度の具体的なサービス利用	PDF	31KB
講座24	地域の社会資源の有効活用	PDF	28KB

>>> ページの先頭に戻る

>>> トップページに戻る

お問合せ
〒989-3201　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1　認知症介護研究・研修仙台センター内　研究事業室
TEL/FAX 022-303-7556 E-mail kenkyu@dcnet.gr.jp

Copyright © 認知症介護研究・研修仙台センター 社会福祉法人東北福祉会

地域と施設を結ぶ　家族と職員の相互参加型介護講座

ケアケア.com

独立行政法人福祉医療機構
（長寿社会福祉基金）助成事業

地域と施設を結ぶ相互参加型介護講座（ケアケア交流講座）

◆尊厳のある生活を続けるために

2005年に内閣府が行った「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」の結果では、仮に介護が必要になった場合7割の高齢者が在宅生活を希望しています。また、在宅生活を希望する人が多いにもかかわらず、介護が必要となったときに、その希望に応えて在宅生活を続けることが困難な現状にあります。
要介護状態になった高齢者が、住みなれた環境の中で、最後まで尊厳を保持してその人らしく生活を営むことを可能としていくためには、在宅向けの介護サービスの充実をはかることに加えて、介護に対する専門的知識・技術の提供等を支援し、家族の介護力を高めていくこと、またその結果として在宅介護を支援するためのサービスを効果的・効率的に利用できることが重要であると考えています。

◆◆家族の不安、施設スタッフの不安

在宅で介護をする家族は、いつ終わるとも分からない在宅介護を、24時間続けることによって、大きな心身の負担を抱えている人も少なくありません。また、介護をする家族は、介護サービスを利用するにあたって、要介護状態にある家族に対し誰が、どのようにケアをしているのかが不安になることもあると思われます。

一方、施設におけるケアに携わるスタッフには、「その人らしい生活」や「家庭的な雰囲気」のサービスの提供が求められています。そのためには、施設生活の現状からの推測だけではなく、その人の在宅での生活を最もよく知る家族とのコミュニケーションから情報を収集し、一緒にケアのあり方について考えていくことが、その人にとって、また家族、施設スタッフ相互にとってよりよいケアを実現する近道となります。
交流講座では、認知症高齢者をかかえる家族の悩み、不安を少しでも解消し、スタッフのよりよいサービスの提供を目指して行われます。

◆◆◆相互参加型介護講座の意義

①家族の3つの視点
どんな人が家族を介護しているかわかる安心感
介護家族が安心してデイサービスやデイケア、ショートステイなどの在宅サービスを利用するきっかけ作りとなります。モデル事業の結果から、施設入所については、サービス提供スタッフが分かることによる安心感が得られるという家族の声も多数寄せられています。

技術・知識習得による介護負担の軽減
介護講座の参加によって、認知症の理解やケアのポイント、身体介助のポイント、制度の理解が深まることによって在宅介護の心身の負担が軽減することが考えられます。また、介護をする家族同士の情報交換をすることによって、将来起こりうる事態を予測し、今後の対応を考えることが可能となる。

家族間の情報交換による家族間・地域連携の強化
モデル事業の成果として、交流講座をきっかけに家族会ができる動きがあったり、地域の住民と家族との関係が深まったという報告がなされています。

②介護スタッフの2つの視点
在宅生活の様子がわかる
施設を利用している家族と介護スタッフとのコミュニケーションが円滑になりケアに役立つ在宅の利用者の情報が得られます。また、ケアを提供するスタッフが、認知症高齢者の在宅生活の様子や背景を直接聞きアセスメントに役立てることができる。

より深い利用者理解
利用者理解を深めると言うことは、その利用者のこれまでの生活全てを理解することです。家族の思いを理解することによって、家庭的な雰囲気作りや環境作りに役立っていると言う報告があります。デイサービスやデイケア時の高齢者と在宅における高齢者の様子の違いなどの本来の利用者の姿やニーズを知るきっかけになっているという報告もありました。また、送迎の際の家族との接点をより親密にすることができるという意見も聞きます。こうしたことから、総合的な介護の実践力、専門性の向上に役立つと考えます。

③組織としての2つの視点
研修企画力・チームワークの向上
企画や運営を他職種、他ユニットのスタッフが協同することで、チームワークが醸成、強化されたという報告があります。また、研修の企画能力の育成といった施設職員の資質向上に役立つという報告もあります。

地域との連携・地域への理解
地域住民への参加促しや、広報活動の過程で地域のとの関係作りが深まった、また、地域住民が多数参加し施設がオープンになったとの報告があります。

あわせて、施設の閉鎖的なイメージを払拭し、在宅介護から施設介護への円滑な移行のためのきっかけ作りにもなります。

>>> トップページへ戻る

お問合せ
〒989-3201　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6-149-1　認知症介護研究・研修仙台センター内　研究事業室
TEL/FAX 022-303-7556 E-mail kenkyuj@dcnet.gr.jp

Copyright © 2007 ケアケア.com All rights reserved.

地域と施設を結ぶ　家族と職員の相互参加型介護講座

ケアケア.com

独立行政法人福祉医療機構
（長寿社会福祉基金）助成事業

ケアケア交流講座ポスター

ポスターは、こちらからダウンロードしてご使用下さい。

>>> 【ポスターのダウンロード】 PowerPointファイル

【ご利用方法】

◆場所：開催場所を入力してください

◆申込：申込先を入力してください

◆日時：開催日時、テーマ、講師名を入力してください
実施回数は自由に変えることができます

◆主催：主催は皆様の法人・施設名を入力してください

＊A3サイズの大きさになりますので、チラシとして使用する際は縮小して使用してください

>>> トップページへ戻る

お問合せ

〒989-3201　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1　認知症介護研究・研修仙台センター内　研究事業室

TEL/FAX 022-303-7556 E-mail kenkyuj@dcnet.gr.jp

資料９

今年度講座実施施設・事業所一覧

今年度相互参加型介護講座を実施した施設事業所

都道府県名		法人名	施設・事業所名
1	福島	社会福祉法人ライフ・タイム福島	特別養護老人ホームロングライフ
2	青森	社会福祉法人奥入瀬会	グループホームあゆみの里
3	宮城	仙台市社会事業協会（社会福祉法人）	葉山地域包括支援センター
4	宮城	医療法人泉整形外科病院	介護老人保健施設コスモス
5	宮城	柴田町健康福祉課	柴田町地域包括支援センター
6	福島	社会福祉法人郡山福祉会	特別養護老人ホーム　うねめの里
7	宮城	社会福祉法人東北福祉会	せんだんの杜ものう
8	宮城	社会福祉法人みずほ	特別養護老人ホームうらやす
9	福島	秀公会	介護老人保健施設ケアフォーラムあづま
10	福島	社会福祉法人信達福祉会	特別養護老人ホームあつかし荘
11	栃木	社会福祉法人大門福祉会	徳次郎デイサービスセンター
12	山形	医療法人徳洲会	介護老人保健施設余目徳洲苑
13	宮城	医療法人社団眞友会	介護老人保健施設希望の杜
14	千葉	社会福祉法人翠燿会	特別養護老人ホームグリーン・ヒル
15	宮城	社会福祉法人春圃会	特別養護老人ホーム春圃苑
16	宮城	社会福祉法人仙台市社会事業協会	仙台市楽生園ユニットケア施設群
17	千葉	社会福祉法人恩賜財団済生会支部千葉県済生会	勝浦市特別養護老人ホーム総野園
18	東京	社会福祉法人聖ヨハネ会	特別養護老人ホーム桜町聖ヨハネホーム
19	香川	社会福祉法人守里会	特別養護老人ホーム守里苑
20	岡山	医療法人こまくさ会河口医院	河口医院
21	岡山	医療法人こまくさ会河口医院	グループホーム「こまくさ」
22	香川	医療法人社団功寿会	介護老人保健施設千手苑
23	香川	社会福祉法人祷友会	紅山荘
24	高知	社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会	特別養護老人ホームあざみの里
25	香川		綾川町地域包括支援センター
26	香川	社会福祉法人正友会	特別養護老人ホーム満濃荘
27	愛媛	医療法人補天会	おおにし光生園
28	香川	医療法人社団永井整形外科医院	老人保健施設城山苑
29	香川	社会福祉法人恩賜財団済生会支部なでしこ香川	居宅介護支援事業所なでしこ香川
30	香川	社会福祉法人牧羊会	特別養護老人ホームエデンの丘
31	香川	社会福祉法人牧羊会	特別養護老人ホームシオンの丘ホーム
32	徳島	社会福祉法人光風会	特別養護老人ホームやまもも荘

33	徳島	社会福祉法人池田博愛会	特別養護老人ホーム永楽荘
34	広島	医療法人新和会	介護老人保健施設ビレネ
35	愛媛	認知症と家族の会	グループホーム薬師谷マナー
36	愛媛	認知症の人と家族の会	愛媛県支部南子　世話人
37	広島	社会福祉法人正仁会	特別養護老人ホームなごみの郷
38	広島	社会福祉法人輝き奉仕会	特別養護老人ホーム輝き
39	広島	医療法人うすい会	老人保健施設さんさん高陽
40	鳥取		岩美町地域包括支援センター
41	広島	医療法人和同会	介護老人保健施設五日市幸楽苑
42	広島	広島県同胞援護財団	特別養護老人ホーム　緑ヶ丘静養園
43	広島	社会福祉法人東城有栖会	特別養護老人ホーム東寿園
44	広島	社会福祉法人広島東福祉会	特別養護老人ホーム虹の里
45	兵庫	社会福祉法人栗栖の荘	特別養護老人ホーム栗栖の荘
46	長野	NPO法人やじろべー	宅老所もくれん
47	鳥取	鳥取県厚生事業団	巌城はごろも苑
48	山口	医療法人竹内医院	グループホーム夜市のんた
49	鳥取	社会福祉法人敬仁会	介護老人保健施設ル・サンテリオン東郷
50	鳥取	社会福祉法人　鳥取県厚生事業団	皆生みどり苑デイサービスセンター
51	島根	社会福祉法人JAいずも福祉会みどりの郷湖陵	湖陵高齢者あんしん支援センター
52	島根	島根県社会福祉事業団	特別養護老人ホーム篠の上園
53	島根		飯南町地域包括支援センター
54	福井	社会福祉法人白女林	あじさい園居宅介護支援事業所
55	福井	医療法人明峰会木村病院	介護老人保健施設リバーサイド気比の杜
56	富山	医療法人社団双星会	大久保・船峅地域包括支援センター
57	石川	社会福祉法人篤豊会	特別養護老人ホーム慈妙院
58	新潟	新潟南福祉会	特別養護老人ホーム虹の里
59	富山	NPO法人ヒューマックス	グループホーム島尾の家
60	京都	社団法人愛生会	介護老人保健施設おおやけの里
61	静岡	社会福祉法人海光会	特別養護老人ホーム海光園
62	東京	社会福祉法人至誠学舎東京	サンメール尚和
63	群馬	社会福祉法人宏志会	特別養護老人ホーム天界園
64	東京	社会福祉法人東京聖労院	特別養護老人ホーム清雅苑
65	新潟	社会福祉法人新井頸南福祉会	えんじゅの郷デイサービスセンター
66	東京	社会福祉法人養和会	八丈町地域包括支援センター
67	神奈川	社会福祉法人ひまわり福祉会	介護老人保健施設港南あおぞら

68	神奈川	特定医療法人興生会	介護保健施設　老健さがみ
69	東京	社会福祉法人亀鶴会	特別養護老人ホーム神明園
70	埼玉	社会福祉法人　青寿会	春日部市第２地域包括支援センター
71	神奈川	神奈川やすらぎ会	厚木市小鮎緑ヶ丘地域包括センター
72	東京	社会福祉法人平尾会	稲城市地域包括支援センター　ひらお苑
73	静岡		特別養護老人ホーム　羽衣の園
74	千葉	社会福祉法人松栄会	特別養護老人ホームひまわりの丘
75	東京	社会福祉法人恵比寿会	羽衣地域福祉サービスサンター
76	長野	医療福祉法人光仁会	介護老人保健施設チェリーガーデン
77	愛知	医療法人十喜会	老人保健施設　向陽
78	東京	社会福祉法人至誠学舎立川	特別養護老人ホーム至誠キートスホーム
79	栃木	医療法人大田原厚生会	介護老人保健施設椿寿荘
80	福岡	医療法人社団	鳥巣病院
81	福岡	社会福祉法人本城会	もみじ苑デイサービスセンター
82	熊本		山鹿市地域包括支援センター
83	福岡	社会福祉法人宏志会	介護老人福祉施設きらく荘
84	福岡	医療法人社団筑水会	介護老人保健施設緑の丘いわと
85	福岡	社会福祉法人瀧仙	姪浜デイサービスセンター
86	福岡	社会福祉法人東合川福祉会	特別養護老人ホーム光寿苑
87	長崎	社会福祉法人恵仁会	特別養護老人ホーム古賀の里
88	福岡	社会福祉法人みのり会	特別養護老人ホーム安雲拓心苑
89	熊本	社会福祉法人洋香会	特別養護老人ホームにしき園
90	福岡		中間市地域包括支援センター
91	熊本	医療法人社団聖和会	介護老人保健施設聖ルカ苑
92	福岡	社会福祉法人はぜの実会	特別養護老人ホーム紅葉樹
93	大阪	社会福祉法人天心会	地域包括支援センターヴェルディ八戸ノ里 特別養護老人ホームヴェルディ八戸ノ里
94	大阪	社会福祉法人遺徳会	和泉北信太特別養護老人ホーム
95	兵庫		介護老人保健施設ステップハウス宝塚
96	京都	社会福祉法人京都市社会福祉協議会	京都市介護実習普及センター
97	東京	株式会社ニチイ学館	近畿第一営業統括部
98	大阪	社会福祉法人長生会	グループホーム美野の里
99	京都	社会福祉法人洛東園	京都市洛東地域包括支援センター
100	兵庫	社会福祉法人ジェイエイ兵庫六甲福祉会	特別養護老人ホームオアシス千歳
101	奈良		生駒市東生駒地域包括支援センター

102	島根	社会福祉法人壽光会	認知症グループホーム湖水苑
103	兵庫		介護老人保健施設　いきいきの郷
104	大阪	社会福祉法人茨木市社会福祉協議会	地域包括支援センター
105	大分		城東地域包括支援センター
106	宮崎	社会福祉法人日之影町社会福祉協議会	日之影町地域包括支援センター
107	宮崎	財団法人潤和リハビリテーション振興財団	介護老人保健施設ひむか苑
108	宮崎	社会福祉法人ひまわり会	永寿園介護支援センター
109	福岡	社会福祉法人年長者の里	特別養護老人ホーム大蔵園
110	北海道	社会福祉法人函館厚生院	介護老人保健施設ケン ゆのかわ通所リハビリテーション
111	北海道		滝川市地域包括支援センター
112	北海道	医療法人社団翔仁会	介護老人保健施設エスポワール北広島
113	北海道	ふる里の丘総合福祉館	特別養護老人ホーム幸楽園
114	北海道	社会福祉法人幸清会	デイサービスセンターふる里の丘
115	北海道	社会福祉法人小樽育成院	特別養護老人ホームやすらぎ荘
116	北海道		函館市地域包括支援センターブランチこん
117	北海道	社会福祉法人幸清会	特別養護老人ホーム幸豊園
118	北海道		北海道ハピニス和幸園芸術の森デイサービス
119	愛知	医療法人三善会	津島市北地域包括支援センター
120	三重	社会福祉法人永甲会	うねめの里
121	愛知	医療法人晴和会	老人保健施設忘れな草
122	愛知		常滑市地域包括支援センター
123	愛知	株式会社総合福祉サービス J. You	地域包括支援センターじゃがいも友愛
124	愛知	医療法人幸会	老人保健施設みず里
125	三重	社会福祉法人松阪市社会福祉協議会	松阪市第三地域包括支援センター
126	愛知	社会福祉法人樹の里	特別養護老人ホーム樹の里
127	三重	医療法人尚徳会	ヨナハ介護老人保健施設
128	徳島	有限会社中川開発	グループホーム阿南向日葵
129	山形	社会福祉法人みゆき福祉会	特別養護老人ホームひいなの里
130	静岡	社会福祉法人掛川社会福祉事業会	かけがわ苑通所介護事業所
131	熊本	社会福祉法人洋香会	にしき園グループホーム
132	宮城		グループホームなんてん伊在荘
133	宮城	全国社会保険協会連合会	介護老人保健施設サンビュー宮城
134	青森		千代の郷　おきだて
135	福岡		ケアハウスまめぞん

136	岡山	財団法人　倉敷成人病センター	倉敷市真備高齢者支援センター
137	宮城	社会福祉法人東北福祉会	特別養護老人ホームせんだんの里
138	宮城	医療法人社団東北福祉会	老人保健施設せんだんの丘
139	北海道	社会福祉法人幸清会	特別養護老人ホーム幸豊ハイツ
140	東京	社会福祉法人正吉福祉会	府中よつや苑
141	広島	医療法人社団常仁会	介護老人保健施設サンスクエア沼南
142	大分	社会福祉法人同人会	高齢者総合福祉施設緑の園
143	大阪	社会福祉法人聖徳会	大阪老人ホーム
144	北海道	社会福祉法人幸清会	デイサービスセンター幸豊ハイツ
145	北海道	社会福祉法人宏友会	特別養護老人ホーム西野ｹｱｾﾝﾀｰ
146	北海道	社会福祉法人釧路市社会福祉協議会阿寒支所	阿寒町デイサービスセンター
147	北海道	社会福祉法人さつき会	特別養護老人ホーム　鷹栖さつき苑
148	愛知	社会福祉法人愛生福祉会	特別養護老人ホーム　庄内の里
148	富山	社会福祉法人新川老人福祉会	特別養護老人ホーム　新川ヴィーラ
149	石川	社会福祉法人長寿会	長寿園デイサービスセンター
150	長野	社会福祉法人恵仁福祉協会	特別養護老人ホームアザレアンさなだ
151	静岡	社会福祉法人慈恵会	特別養護老人ホーム　西島寮
152	青森	医療法人社団豊仁会	サンライフ豊寿苑
153	秋田	財団法人たかのす福祉公社	ケアタウンたかのす
154	岩手	社会福祉法人岩手和敬会	山岸和敬荘
155	福島	特定医療法人明智会	介護老人保健施設　ライフケア鶴賀
156	山形	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会	特別養護老人ホーム　ながまち荘
157	栃木	社会福祉法人津田福祉会	特別養護老人ホーム　さつき荘
158	埼玉	医療法人財団新生会	介護老人保健施設高齢者ケアセンターゆらぎ
159	東京	社会福祉法人東京弘済園	三鷹市高齢者センター　けやき苑
160	神奈川	社会福祉法人麗寿会	ふれあいの森
161	千葉	社会福祉法人佐倉厚生会	介護老人福祉施設　さくら苑
162	群馬		群馬県立高齢者介護総合センター
163	茨城	医療法人社団青洲会	介護老人保健施設　さくら
164	山梨		山梨県笛吹市社会福祉協議会
165	新潟	社会福祉法人長岡三古老人福祉会	介護老人福祉施設　槇山けやき苑
166	兵庫	社会福祉法人門真晋栄福祉会	グループホーム　宝塚ちどり
167	京都	社会福祉法人清和園	吉祥ホーム
168	和歌山	社会福祉法人高陽会	特別養護老人ホーム　高陽園
169	奈良	社会福祉法人やすらぎ会	特別養護老人ホーム　やすらぎ園

170	滋賀	社会福祉法人近江和順会	特別養護老人ホーム　美松苑
171	三重	有限会社イトーファーマシー	デイハウス沙羅
172	岐阜	社会福祉法人岐協福祉会	特別養護老人ホーム　大洞岐協苑
173	福井	財団法人松原病院	福井中央北包括支援センター
174	大阪	社会福祉法人玉美福祉会	特別養護老人ホーム　向日葵
175	岡山	医療法人紀典会	老人保健施設　エスペランスわけ
176	鳥取	医療法人社団もりもと	森本外科・脳神経外科医院
177	島根	医療法人昌林会	介護老人保健施設　昌寿苑
178	山口	医療法人社団青寿会	介護老人保健施設　青海荘
179	愛媛	社会福祉法人松山紅梅会	梅本の里
180	香川	医療法人社団功寿会	老人保健施設　千手苑
181	高知	医療法人地塩会	介護老人保健施設　夢の里
182	徳島	医療法人有誠会	老人保健施設　喜久寿苑
183	広島	医療法人みやうち	介護老人保健施設　ひまわり
184	大分	社会福祉法人同心会	特別養護老人ホーム　しおさい
185	福岡	社会福祉法人初栄会	高齢者総合福祉施設　せいらくえん
186	長崎	社会福祉法人ふるさと	特別養護老人ホーム　ふるさと
187	佐賀	医療法人財団友朋会	老人保健施設　朋寿苑
188	熊本	社会福祉法人天龍会	特別養護老人ホーム　すずらんの里
189	宮崎	社会福祉法人日向厚生センター	介護老人福祉施設　皇寿園
190	鹿児島	社会福祉法人輪光福祉会	特別養護老人ホーム　輪光無量寿園
191	沖縄	社会福祉法人高洋会	特別養護老人ホーム　陽明園
192	大分	社会福祉法人穂燈舎	特別養護老人ホーム　百華苑
193	福岡	社会福祉法人山田福祉会	特別養護老人ホーム　たちばな苑

資料１０

来年度講座実施施設・事業所一覧

来年度実施予定の施設事業所

都道府県名		法人名	施設・事業所名
1	秋田	医療法人正和会	介護老人保健施設湖東老健
2	秋田	社会福祉法人花輪ふくし会	特別養護老人ホーム東恵園
3	宮城	有限会社村伝	グループホーム村伝
4	青森	社会福祉法人柏友会	つがる市柏在宅介護支援センター
5	宮城	社会福祉法人東北福祉会	せんだんの館
6	宮城	社会福祉法人仙台市社会事業協会	葉山地域包括サービスステーション 葉山ヘルパーセンター
7	宮城	多賀城市保健福祉部介護支援室	多賀城市中央地域包括支援センター
8	福島	社会福祉法人いずみ福祉会	特別養護老人ホームスプリングガーデンあさか
9	福島	医療法人生愛会	介護老人保健施設生愛会ナーシングケアセンター
10	福島	医療法人生愛会	福島市信陵地域包括支援センター
11	福島	社会福祉法人あだち福祉会	特別養護老人ホーム安達ヶ原あだたら荘
12	山形	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会	鶴岡市高齢者福祉センターおおやま
13	長野	有限会社カインズ・ライフ	グループホームしなの
14	青森	社会福祉法人諏訪ノ森会	在宅介護支援センターえんじゅ
15	宮城	社会福祉法人愛泉会	特別養護老人ホーム愛泉荘
16	宮城	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	宮城県介護研修センター
17	群馬	社会福祉法人潤青会	特別養護老人ホームまほろば・
18	徳島	医療法人一洋会	グループホームさくら
19	高知	医療法人仁生会	グループホーム西町
20	高知	医療法人南江会	一陽病院
21	広島	社会福祉法人慈楽福祉会	瀬野川ホーム
22	広島	医療法人厚生堂	広島市中広島地域包括支援センター
23	広島	社会福祉法人古家真会	特別養護老人ホーム蓬莱園
24	広島	社会福祉法人あおかげ	老人保健施設あおかげ苑
25	広島	社会福祉法人広島和光園	特別養護老人ホーム広島和光園
26	山口	社会福祉法人むべの里	むべの里養護老人ホーム博愛園
27	広島	公立みつぎ総合病院	介護老人保健施設みつぎの園
28	山口		周南市介護老人保健施設ゆめ風車
29	広島	社会福祉法人広島県同胞援護財産	広島市亀山地域包括支援センター
30	広島	医療法人社団やまを会	老人保健施設ひこばえ
31	鳥取		養護老人ホーム鳥取市なごみ苑
32	鳥取	米子市社会福祉協議会	
33	島根	社会福祉法人草雲会	在宅支援室
34	島根	社会福祉法人愛心会	特別養護老人ホームたんぽぽの里
35	島根	公仁会鹿島病院	通所リハビリテーションやまゆり
36	島根	社会福祉法人島根社会福祉事業団	島根県介護研修センター石見分室
37	石川	社会福祉法人眉丈会	特別養護老人ホーム眉丈風
38	富山		氷見市地域包括支援センター
39	富山	社会福祉法人とやま虹の会	老人保健施設レインボー
40	石川		介護老人保健施設田中町温泉ケアセンター
41	石川		介護老人保健施設鶴友苑
42	富山	株式会社とやまヒューマンサービス	岩瀬・萩浦地域包括支援センター
43	福井	医療法人たけとう病院	デイ・ケア野向の舎
44	静岡	セントケア中部株式会社	静岡市清水区飯田庵原地域包括支援センター
45	神奈川	社会福祉法人兼愛会	特別養護老人ホーム　しょうじゅの里三保
46	神奈川	神奈川県やすらぎ会	第二森の里
47	山梨	医療法人銀門会	介護老人保健施設甲州ケアホーム
48	神奈川		介護老人保健施設中井富士白苑
49	埼玉	医療生協さいたま生活共同組合	富岡地域包括支援センター

50	埼玉	社会福祉法人長寿会	地域包括支援センター内間木苑
51	千葉	聖隷福祉事業団	浦安市特別養護老人ホーム
52	東京	医療法人社団弘樹会	介護老人保健施設いちいの杜
53	神奈川	医療法人財団青山会	介護老人保健施設なのはな苑
54	埼玉		蕨市地域包括支援センター
56	新潟	社会福祉法人新井頸南福祉会	特別養護老人ホームみなかみの里
57	埼玉	東松山市社会福祉協議会	東松山市総合福祉エリア
58	栃木	社会福祉法人飯田福祉会	よこかわ地域包括支援センター
59	茨城	社会福祉法人芳香会	青嵐荘特別養護老人ホーム
60	東京		地域包括支援センター　水元
61	神奈川	社会福祉法人プレマ会	みなみ風
62	東京	医療法人社団清新会	ピースプラザ
63	千葉		舞浜倶楽部　新浦安フォーラム
64	東京	医療法人財団河北総合病院	介護老人保健施設シーダ・ウォーク
65	茨城	社会福祉法人北養会	介護老人保健施設　くるみ館
66	長野	須高農業協同組合	ＪＡ須高居宅介護支援事業所
67	長野	社会福祉法人ハイネスライフ	介護老人保健施設朝日ホーム おんせんリハビリテーションセンター
68	千葉	社会福祉法人富裕会	特別養護老人ホームゆたか苑
69	東京		介護老人保健施設　エーデルワイス
70	千葉	社会福祉法人千葉県福祉援護会	千葉市あんしんケアセンター ローゼンヴィラはま野
71	新潟	社会福祉法人新井頸南福祉会	特別養護老人ホーム明香山苑
72	埼玉	社会福祉法人騏忠会	特別養護老人ホーム浦和しぶや苑
73	静岡	社会福祉法人静清会	松原地域包括支援センター
74	神奈川		特別養護老人ホーム　草の家
75	東京	社会福祉法人恵比寿会	フェローホームズ
76	静岡	社会福祉法人掛川社会福祉事業会	特別養護老人ホームかけがわ苑
77	静岡	社会福祉法人　富水会	藤枝市地域包括支援センター開寿園
78	神奈川	社会福祉法人鈴保福祉会	しゅくがわら地域包括支援センター
79	栃木	社会福祉法人那須四季会	特別養護老人ホームさちの里
80	神奈川	社会福祉法人湘南望青会	特別養護老人ホーム汐見台パシフィックステージ
81	茨城		地域包括支援センター　たかおざき
82	千葉	社会福祉法人晴山会	特別老人ホーム晴山会
83	静岡	佐野八十八造園株式会社	デイサービス衣の泉
84	埼玉		鴻巣介護老人保健施設こうのとり
85	千葉	社会福祉法人旭悠会	特別養護老人ホーム習志野偕生園
86	埼玉	社会福祉法人翠生会	和光ホーム
87	東京	社会福祉法人アゼリヤ会	特別養護老人ホームみやま大樹の苑
88	神奈川	社会福祉法人輝星会	介護老人福祉施設湖
89	群馬	財団法人棒名荘	介護老人保健施設「あけぼの苑」
90	神奈川	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団	横須賀老人ホーム
91	静岡	社会福祉法人天竜厚生会	特別養護老人ホーム宮脇の家
92	静岡	社会福祉法人大須賀社会福祉事業会	特別養護老人ホームおおすか苑
93	神奈川	社会福祉法人誠幸会	グループホーム泉の郷
94	福岡	医療法人社団三光会	介護老人保健施設カトレア
95	福岡		宗像アコール
96	福岡	医療法人海洋会	介護老人保健施設春風
97	熊本	医療法人起生会	熊本市中央地域包括支援センターうらら
98	福岡	社会福祉法人飯塚市社会福祉協議会	保健福祉総合センター通所介護事業所
99	福岡	社会福祉法人東筑紫会	特別養護老人ホーム第２智美園
100	福岡	社会福祉法人誠心会	平和デイサービスセンター
101	福岡		第３セクター（特）西日本医療福祉総合センター
102	長崎	長崎市医師会	保健福祉センター通所事業所

103	佐賀		吉野ヶ里町地域包括支援センター
104	長崎	社会福祉法人真和会	グループホームあしたば
105	熊本	医療法人悠紀会	ゆうきの家
106	福岡	社会福祉法人城島福祉会	特別養護老人ホームふれあいの園
107	佐賀	社会福祉法人大谷	特別養護老人ホームひいらぎ
108	熊本	医療法人悠紀会	介護老人保健施設ゆうきの里
109	福岡	社会福祉法人博朋会	ケアハウスビハーラ今泉
110	福岡	社会福祉法人養福会	上津デイサービスセンター
111	福岡	医療財団法人うら梅の郷会	デイケアセンターうらうめ
112	福岡	社会福祉法人南十字福祉会	宗像駅前デイサービスセンター
113	福岡	社会福祉法人南十字福祉会	小規模多機能型介護施設ちくぜん
114	福岡	社会福祉法人南十字福祉会	特別養護老人ホーム筑前頭慈園
115	福岡	社会福祉法人志摩会	特別養護老人ホーム志摩園
116	福岡	社会福祉法人福智会	福智園
117	佐賀	医療法人森山胃腸科	介護老人保健施設徐福の里
118	熊本	医療法人信和会	介護老人保健施設樹心台
119	福岡	社会福祉法人庄内福祉会	特別養護老人ホーム白龍園
120	福岡		介護老人保健施設　あけぼの苑
121	大阪	社会福祉法人四天王寺福祉事業団	四天王寺きたやま苑
122	大阪	社会福祉法人こばと会	特別養護老人ホームいのこの里
123	大阪	医療法人明生会	介護老人保健施設桜の宮苑
124	大阪	社会福祉法人川福会	介護老人保健施設長田の里
125	滋賀	鈴木ヘルスケアサービス株式会社	デイサービスセンター鈴の音
126	大阪	医療法人生長会	介護老人保険施設ベルアモール
127	京都	社会福祉法人向日春秋会	特別養護老人ホームサンフラワーガーデン
128	大阪	社会福祉法人慶徳会	在宅サービス供給ステーション静華苑
129	兵庫		尼崎市「大庄北」地域包括支援センター
130	奈良	医療法人あすか会	介護老人保健施設アンジェロ
131	兵庫	社会福祉法人あまのほ	特別養護老人ホーム楽々むら
132	大阪	NPO法人ふんわりと	三丁目のお家
133	奈良		奈良苑　奈良市京西・都跡地域包括支援センター
134	和歌山	特定・特別医療法人黎明会	介護老人保健施設和佐の里
135	京都	社会福祉法人くらしのハーモニー	介護老人保健施設ハーモニーこが
136	兵庫	社会福祉法人向陽福祉会	老人保健施設向陽りんどう苑
137	大阪		貝塚市地域包括支援センター
138	大阪	社会福祉法人玉田山福祉会	特別養護老人ホーム玉田山荘
139	京都		京都市紫北区紫竹地域包括支援センター
140	大阪	柏原市社会福祉協議会	高齢者いきいき元気センター
141	京都	社会福祉法人京田辺市社会福祉協議会	
142	京都	社会福祉法人伏見にちりん福祉会	特別養護老人ホーム淀の里
143	京都	社会福祉法人北星会	特別養護老人ホーム天橋の郷
144	兵庫	特別医療法人高明会	介護老人保健施設ハートケア西宮渡辺
145	兵庫		上郡町地域包括支援センター
146	兵庫		姫路市飾磨地域包括支援センター
147	大阪	社会福祉法人山水学園	特別養護老人ホームサンローズオオサカ
148	京都	社会福祉法人京都老人福祉協会	特別養護老人ホーム京都老人ホーム
149	京都	社会福祉法人グレイスまいづる	特別養護老人ホーム　グレイスヴィルまいづる
150	大阪	医療法人全人会	グループホームソシアス　此花春日出
151	岐阜	医療法人社団青友会青木内科・眼科	グループホームふるさと
152	岡山	社会福祉法人健老会	特別養護老人ホーム健老園
153	大分	特定医療法人瑞木会	介護老人保健施設みずき
154	大分	三愛会	そうだ藤の森
155	大分		中津市地域包括支援センター

156	大分	医療法人敬和会	介護老人保健施設大分豊寿苑
157	大分	社会福祉法人恵愛会	指定介護老人福祉施設　茶寿苑
158	宮崎	門川町社会福祉協議会	門川町地域包括支援センター
159	熊本	医療法人悠紀会	通所リハビリテーション事業所　ゆうきの里
160	熊本	医療法人起生会	介護老人保健施設なでしこ
161	大分	医療法人社団淵野会	介護老人保健施設グリーンライフ
162	兵庫	社会福祉法人きらくえん	あしや喜楽苑　居宅介護支援事業所
163	北海道	社会福祉法人函館緑花会	特別養護老人ホーム美ヶ丘敬楽荘
164	北海道	社会福祉法人釧路啓生会	
165	北海道	社会福祉法人清水旭山学園	特別養護老人ホームせせらぎ荘
166	北海道	社会福祉法人緑ヶ丘学園	特別養護老人ホーム稚内緑風苑
167	北海道		広尾町地域包括支援センター
168	北海道	社会福祉法人ノテ福祉会	特別養護老人ホーム幸栄の里
169	北海道	社会福祉法人北海長生会	北広島リハビリセンター特養部四恩園
170	北海道		札幌市厚別区地域包括支援センター
171	北海道	医療法人共栄会	介護老人保健施設ぼだい樹
172	北海道	有限会社シャイニング	グループホームトトロの森
173	北海道	社会福祉法人札幌厚生会	北広島市高齢者総合ケアセンター聖芳園
174	北海道	美唄市役所	美唄市地域包括支援センター
175	北海道		札幌市西区第１地域包括支援センター
176	北海道	医療法人やわらぎ	介護老人保健施設ゆう・ 認知症デイサービスセンターみどり野
177	北海道		新篠津村地域包括支援センター
178	北海道	社会福祉法人函館厚生院	特別養護老人ホーム函館百楽園
179	北海道	財団法人札幌市在宅福祉サービス協会	札幌市北区第２地域包括支援センター
180	北海道	社会福祉法人函館緑花会	特別養護老人ホーム美ヶ丘敬楽荘
181	北海道		東川町地域包括支援センター
182	北海道	医療法人耕仁会	介護老人保健施設セージュ山の手
183	北海道	医療法人資生会	介護老人保健施設クリアコート千歳
184	北海道	社会福祉法人南静会	西円山敬樹園デイサービスセンター
185	北海道	社会福祉法人北海長生会	北広島リハビリセンター特養部四恩園
186	愛知	社会福祉法人愛生福祉会	特別養護老人ホーム御桜乃里
187	愛知	社会福祉法人あぐりす実の会	特別養護老人ホーム大地の丘
188	愛知	社会福祉法人嘉祥福祉会	津島市南地域包括支援センター
189	愛知	社会福祉法人道徳福祉会	特別養護老人ホームはるかぜ
190	愛知	株式会社メデカジャパン	名古屋南ケアセンターそよ風
191	三重	社会福祉法人三重健寿会	特別養護老人ホーム往還
192	愛知	社会福祉法人恩賜財団愛知県同胞援護会	特別養護老人ホーム第２春緑苑
193	愛知	社会福祉法人英楽会	特別養護老人ホーム楓林花の里
194	三重	社会福祉法人アパティア福祉会	ハピネスやさと在宅介護サービスセンター
195	香川	社会福祉法人博安会	特別養護老人ホームたるみ荘

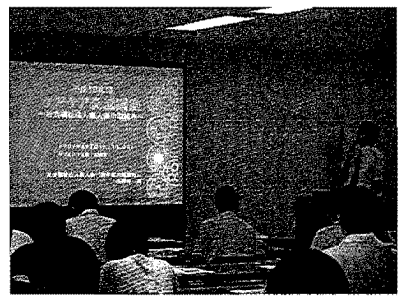
資料１１

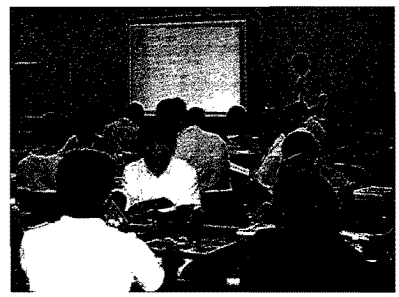
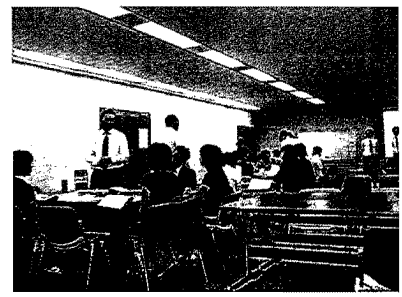
普及研修会事例報告資料１～１３

普及研修会事例報告資料

1）盛岡

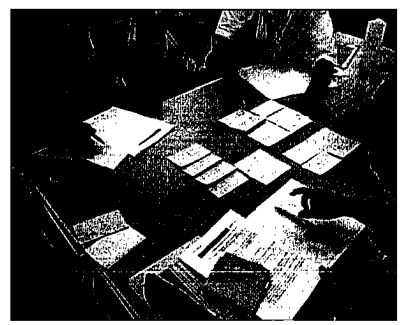
開催日時	平成19年8月7日（火曜日）　午後13時　～　午後17時		
場所（施設名）	盛岡市地域交流センター		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	4	5
	特別養護老人ホーム	8	13
	介護老人保健施設	7	10
	実習普及センター	1	3
	在宅介護支援センター	2	3
	デイサービスセンター	3	3
	グループホーム	3	6
	その他	2	2
	計	３０事業所	４５名
センター参加者	中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター　研修主幹） 加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任）		
事例提供者	社会福祉法人　典人会 小野寺　真		



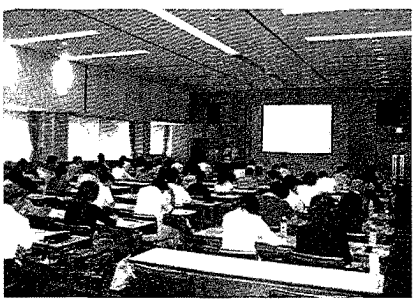
2）仙台

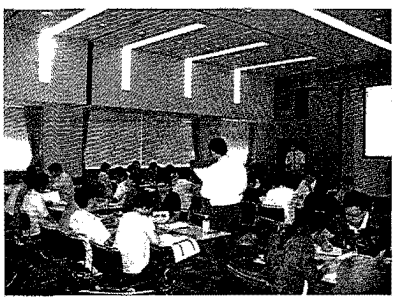
開催日時	平成19年8月20日（月曜日）　　午後13時　～　午後17時		
場所（施設名）	東北福祉大学ステーションキャンパス		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	9	12
	特別養護老人ホーム	20	31
	介護老人保健施設	11	19
	ヘルパーセンター	1	2
	在宅介護支援センター	2	2
	デイサービスセンター	1	1
	グループホーム	5	6
	社会福祉協議会	4	5
	その他	2	2
	計	55事業所	80名
センター参加者	加藤　信司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長） 阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター　研究・研修部長） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任） 吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター　専任研修員）		
事例提供者	財団法人たかのす福祉公社　ケアタウンたかのす 佐藤　真		

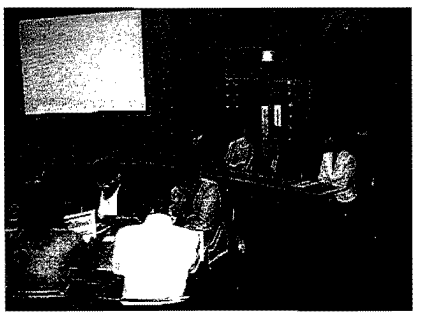


3）丸亀

開催日時	平成19年8月23日（木曜日）　午後13時　～　午後17時		
場所（施設名）	丸亀市保健福祉センター（ひまわりセンター）		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	3	6
	特別養護老人ホーム	16	24
	介護老人保健施設	6	10
	病院	2	3
	在宅介護支援センター	1	1
	デイサービスセンター	1	2
	グループホーム	9	15
	その他	3	4
	計	41事業所	65名
センター参加者	矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任） 吉川　悠貴（認知症介護研修・研修仙台センター　専任研修員）		
事例提供者	医療法人社団功寿会　介護老人保健施設　千手苑 岡部　壽子 藤原　実紀子		

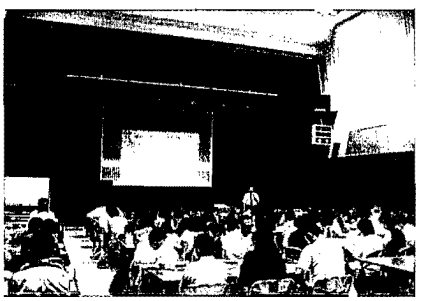
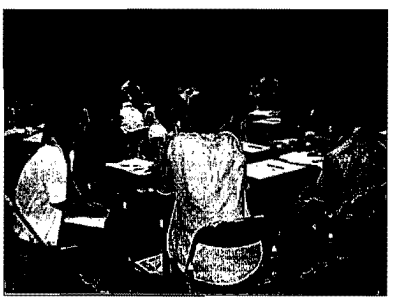


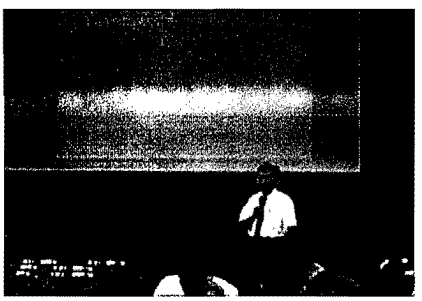




4）広島会場

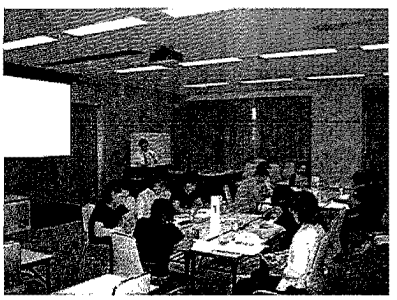
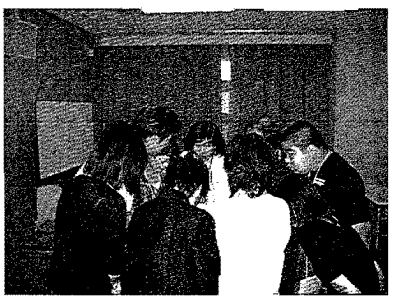
開催日時	平成 19 年 8 月 24 日（金曜日）　午後 13 時　～　午後 17 時		
場所（施設名）	広島県健康福祉センター		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	7	8
	特別養護老人ホーム	17	25
	介護老人保健施設	13	17
	健康保健福祉センター	1	1
	在宅介護支援センター	1	2
	居宅介護支援センター	1	1
	グループホーム	1	2
	その他	5	7
	計	46 事業所	63 名
センター参加者	加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長） 阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター　研究・研修部長） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任）		
事例提供者	医療法人紀典会　介護老人保健施設　エスペランスわけ 大森　珠江 小林　麻雄		



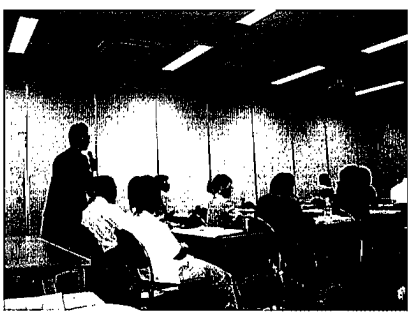
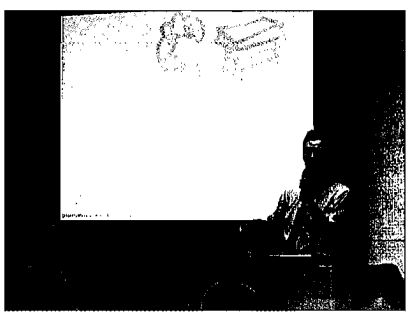
5）島根会場

開催日時	平成19年8月30日（木曜日）　午後13時　～　午後17時		
場所（施設名）	島根県立産業交流会館（くにびきメッセ）		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	1	1
	特別養護老人ホーム	5	7
	介護老人保健施設	2	2
	養護老人ホーム	2	3
	在宅介護支援センター	1	1
	社会福祉協議会	2	4
	グループホーム	3	4
	その他	3	4
	計	１９事業所	28名
センター参加者	加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任）		
事例提供者	医療法人社団もりもと 金田　弘子 田中　大造		

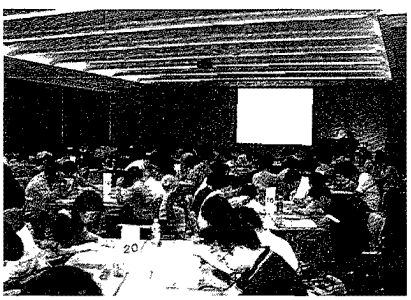
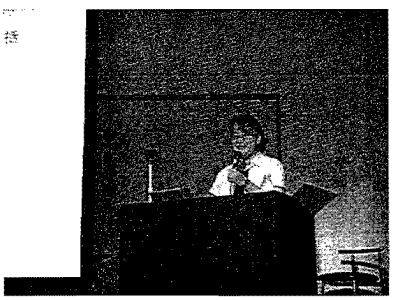
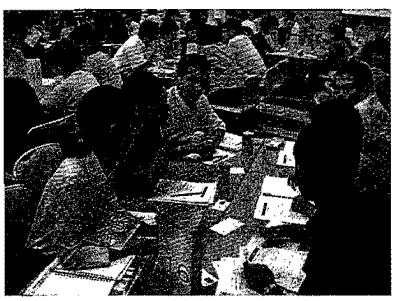
6）石川会場

開催日時	平成 19 年 8 月 31 日（金曜日）　　午後 13 時　～　午後 17 時		
場所（施設名）	石川県労働者福祉文化会館（フレンドパーク石川）		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	4	4
	特別養護老人ホーム	5	8
	介護老人保健施設	5	6
	居宅介護支援センター	3	3
	デイケア	1	1
	小規模ケア施設	1	2
	グループホーム	1	1
	その他	0	0
	計	20 事業所	25 名
センター参加者	阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター　研究・研修部長） 吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター　専任研究員）		
事例提供者	社会福祉法人長寿会　長寿園　デイサービスセンター 横山　博一 松栄　紀美子		

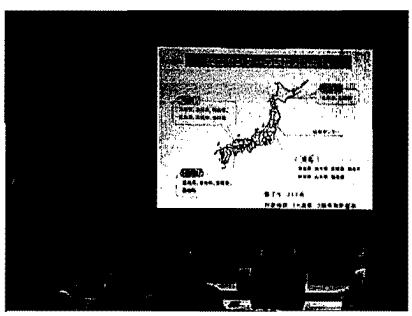
7）東京

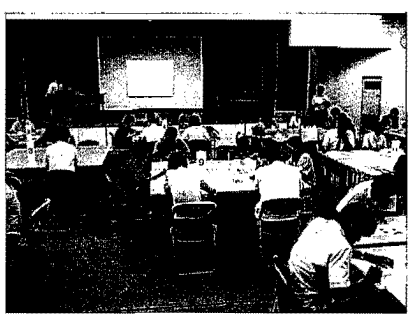
開催日時	平成19年9月3日（月曜日）　午後13時　～　午後17時		
場所（施設名）	認知症介護研究・研修東京センター		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	22	29
	特別養護老人ホーム	43	56
	介護老人保健施設	20	32
	居宅介護支援センター	1	1
	在宅介護支援センター	1	1
	デイサービスセンター	5	7
	グループホーム	2	2
	その他	5	8
	計	99事業所	136名
センター参加者	中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター　研修主幹） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任） 吉川　悠貴（認知症介護研修・研修仙台センター　専任研究員）		
事例提供者	社会福祉法人東京弘済園　三鷹高齢者センター　けやき苑 佐藤尚美		

8）四日市

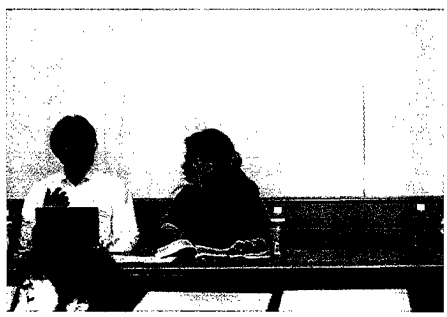
開催日時	平成19年9月6日（木曜日）　午後13時　～　午後17時		
場所（施設名）	社会福祉法人青山里会内　あおぞらホール		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	9	14
	特別養護老人ホーム	12	32
	介護老人保健施設	5	8
	居宅介護支援センター	1	1
	在宅介護支援センター	1	1
	デイサービスセンター	1	1
	グループホーム	1	2
	その他	2	4
	計	32事業所	63名
センター参加者	加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長）		
事例提供者	有限会社イトーファーマシー　デイハウス沙羅 伊藤　美和 砂原　直子		





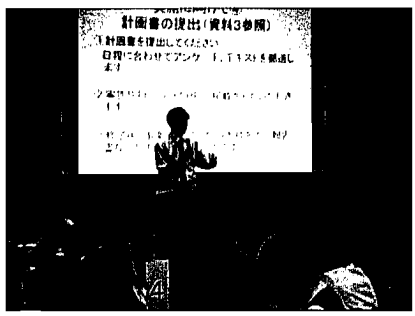
9）福岡県

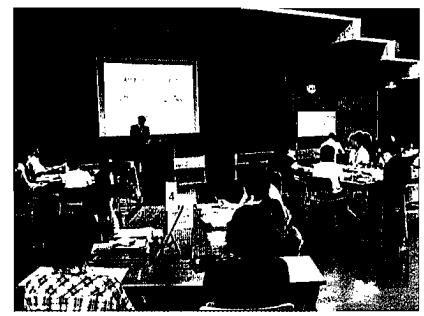
開催日時	平成19年9月11日（火曜日）　午後13時　～　午後17時		
場所（施設名）	福岡県総合福祉センター（クローバープラザ）		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	5	10
	特別養護老人ホーム	27	39
	介護老人保健施設	17	22
	ケアハウス	3	5
	介護予防地域支援センター	1	2
	デイサービスセンター	14	19
	グループホーム	4	9
	その他	4	5
	計	89事業所	112名
センター参加者	矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任） 吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター　専任研究員）		
事例提供者	社会福祉法人初栄会　特別養護老人ホーム　青楽園 大庭　健司郎 松本　隆		



１０）大分

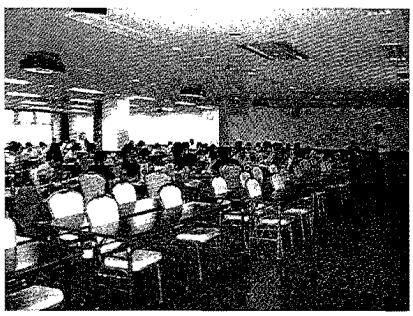
開催日時	平成 19 年 9 月 12 日（木曜日）　　午後１３時　～　午後 17 時		
場所（施設名）	大分県総合社会福祉会館		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	5	10
	特別養護老人ホーム	3	3
	介護老人保健施設	7	11
	通所リハビリ	1	2
	市福祉健康部	1	2
	デイサービスセンター	2	3
	グループホーム	0	0
	その他	2	2
	計	21 事業所	33 名
センター参加者	中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター　研修主幹） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任） 吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター　専任研修員）		
事例提供者	社会福祉法人同心会　特別養護老人ホーム　しおさい 小野　淳哉 神田　京子		





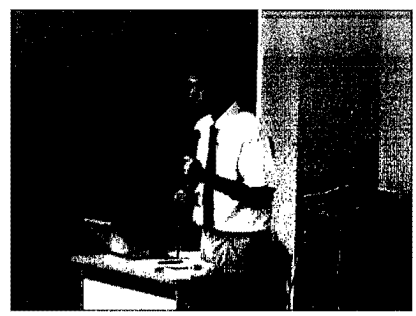
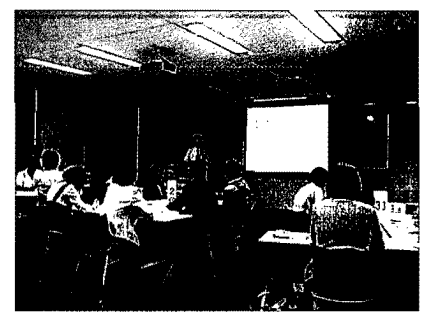
１１）大阪

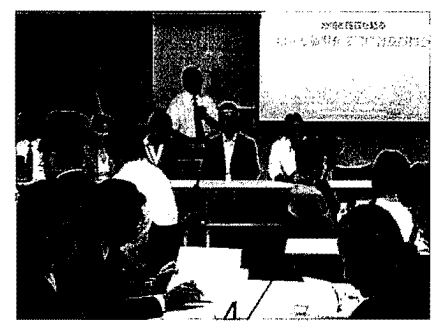
開催日時	平成 19 年 9 月 13 日（水曜日）　　午後１３時　～　午後 17 時		
場所（施設名）	天満研修センター		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	12	15
	特別養護老人ホーム	24	36
	介護老人保健施設	14	19
	病院	1	2
	社会福祉協議会	2	2
	デイサービスセンター	1	1
	グループホーム	5	8
	その他	6	9
	計	65 事業所	92 名
センター参加者	加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長） 阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター　研究・研修部長） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任）		
事例提供者	社会福祉法人玉美福祉会　特別養護老人ホーム向日葵 梅木　千春		



１２）北海道

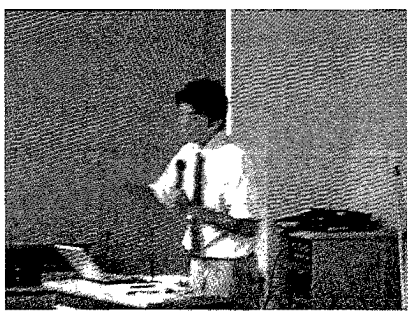
開催日時	平成 19 年 9 月 17 日（月曜日）　　午後１３時　～　午後 17 時		
場所（施設名）	北海道医療大学　サテライトキャンパス		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	3	4
	特別養護老人ホーム	7	8
	介護老人保健施設	2	4
	居宅介護支援センター	1	1
	通所リハビリテーション	1	1
	デイサービスセンター	3	4
	グループホーム	0	0
	その他	1	1
	計	18 事業所	23 名
センター参加者	阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター　研究・研修部長） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任）		
事例提供者	社会福祉法人さつき会　特別養護老人ホーム　鷹栖さつき苑 波潟　幸敏 （他２名）		

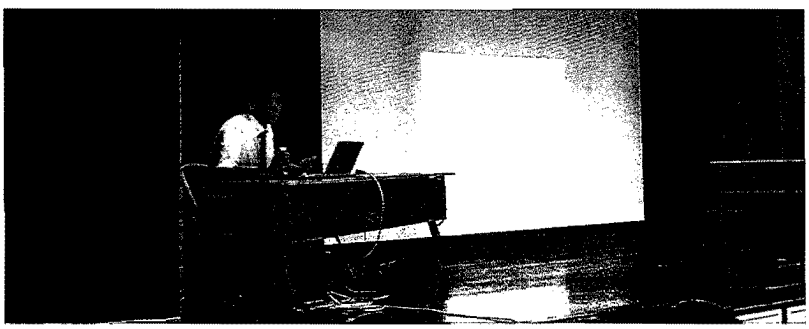





１３）北海道

開催日時	平成 19 年 9 月 18 日（火曜日）　　午後１３時　～　午後 17 時		
場所（施設名）	北海道医療大学　サテライトキャンパス		
参加者数		参加事業所数	人数
	（内訳）		
	地域包括支援センター	9	11
	特別養護老人ホーム	8	11
	介護老人保健施設	4	6
	高齢者支援センター	1	1
	認知症デイサービス	1	2
	デイサービスセンター	3	4
	グループホーム	1	2
	その他	0	0
	計	27 事業所	37 名
センター参加者	阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター　研究・研修部長） 矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター　主任研修研究員、研修指導主任）		
事例提供者	社会福祉法人さつき会　特別養護老人ホーム　鷹栖さつき苑 波潟　幸敏 （他２名）		





平成１９年度　独立行政法人福祉医療機構
長寿社会福祉基金（一般分）報告書

介護家族への教育支援プログラムの開発事業

２００８年　３月　発行

発行所　認知症介護研究・研修仙台センター
〒９８９－３２０１
仙台市青葉区国見ヶ丘６－１４９－１
ＴＥＬ（０２２）３０３－７５５０
ＦＡＸ（０２２）３０３－７５５０